

社会福祉法人 雲柱社

2009（平成21）年度事業計画

社会福祉法人 雲柱社 2009(平成21)年度 事業計画(案)

1. 事業基本理念・事業目標に基づく、社会福祉施設の設置・経営、及び収益事業の設置・経営

社会福祉法人 雲柱社 事業基本理念

(1999年12月24日)

- (1) 私たちは、賀川豊彦の思想と実践（キリスト精神）を継承し、神と人ともに仕える仕事をします。
- (2) 私たちは、一人ひとりの人格を尊重し、その成長を支援します。
- (3) 私たちは、常に利用者の立場に立って、そのニーズに応え、サービスの向上に努めます。
- (4) 私たちは、地域社会の福祉課題を積極的に掘り起こし、それに取り組みます。

保育ブロック事業目標

- (1) 私たちは、子どもたちが神を敬い、人を愛するように成長することを願って保育をします。
- (2) 私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、それを受け入れ伸ばしていく保育をします。
- (3) 私たちは、子どもたちの自ら育つ力を信じ、意欲を育て支える保育をします。
- (4) 私たちは、子どもたちが心身共に健やかに育つために、保護者の子育てを支援します。
- (5) 私たちは、地域に開かれた保育園を目指します。
- (6) 私たちは、保育の質の向上を常に心がけ、専門の知識を深め、技能の研鑽に努めます。

グループかがわブロック事業目標

- (1) 私たちは、障害児・者一人ひとりが神に愛され、生かされているという事実に基づいて事業を行います。
- (2) 私たちは、障害児・者一人ひとりの人格と個性を尊重し、その成長と生活を支援します。
- (3) 私たちは、障害児・者の家族が抱える課題を深く受け止め、その解決に向けて努力します。
- (4) 私たちは、地域社会の障害者福祉のニーズを掘り起こし、積極的にこれに取り組み、共に生きることを目指す、地域のセンターとしての役割を果たすことに努めます。
- (5) 私たちは、障害児・者一人ひとりのハンディキャップを理解し、かれらに最適のケアを提供するために、専門の知識を深め、技能の研鑽に努めます。

児童館ブロック事業目標

- (1) 私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。
- (2) 私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。
- (3) 私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。
- (4) 私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。
- (5) 私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。

子ども家庭支援センター事業目標

- (1) 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実に基づいて、事業を行います。
- (2) 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つまちや社会をつくることを目指します。
- (3) 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるよう、日々努力します。
- (4) 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向かえるよう、専門性に基き対応します。
- (5) 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズに合わせて、必要な支援を行うことに努めます。

社会福祉事業（第一・二種）

種別	名称	個所	
第二種	保育所	愛の園保育園・五日市保育園・押上保育園・烏山保育園・神愛保育園・祖師谷保育園・高根学園保育所・ともしび保育園・光の園保育学校・黎明保育園 ※__は分園併設	10
	児童厚生施設	さくら橋コミュニティセンター・墨田児童会館・文花児童館・外手児童館（墨田区）、汐入ふれあい館（荒川区）、和泉児童館・岩戸児童センター（子ども家庭支援センター事業併設・狛江市）、上池台児童館（大田区）、たまだいら児童館ふれっしゅ（日野市）、亀戸児童館・平野児童館（江東区） ※__は学童クラブ分室併設館	11
	放課後児童健全育成事業	れいめい堀切学童保育クラブ・れいめい宝学童保育クラブ（葛飾区）、七峡小学童クラブ・汐入小学童クラブ（荒川区）、深川学童クラブ・大島四丁目学童クラブ・大島八丁目学童クラブ（江東区）	7
	知的障害者共同生活援助事業・共同生活介護事業（グループホーム・ケアホーム）	かがわの家 シリウス・ベガ・ミラ・カペラ・ジュピター	5
	障害福祉サービス事業（就労継続支援B型・生活介護・短期入所）	小金井生活実習所	1
	障害福祉サービス事業 ◇ 居宅介護 ◇ 行動援護 ◇ 移動支援事業（地域生活支援事業）	かがわサポートセンター・ウイングス	1
第一種	知的障害児通園施設	賀川学園	1
	知的障害者授産施設	かがわ工房、ワークスタジオかがわ	2

※□は2009年度開始

社会福祉事業（公益事業）

地域デイサービス事業	さくらの木（知的障碍学齢児 個別・グループ学習）	1
福祉共同作業所	小金井市福祉共同作業所（障碍者・高齢者共同 小金井市）	1
ファミリー・サポート・センター	狛江市全域（和泉児童館内）、小金井市全域（小金井市子ども家庭支援センター内）、小平市（小平市子ども家庭支援センター内）	3
子ども家庭支援センター	江東区東陽子ども家庭支援センター・江東区大島子ども家庭支援センター・江東区深川北子ども家庭支援センター、江東区南砂子ども家庭支援センター（江東区）、光が丘子ども家庭支援センター（練馬区）、狛江市子ども家庭支援センター（狛江市）、小金井市子ども家庭支援センター（小金井市）、小平市子ども家庭支援センター（小平市）	8

収益事業

店舗賃貸ビル	和光ビル	1
共同賃貸住宅	友愛コーポ	1

2. 法人の中期計画（～2010年）の展開

中期計画も終盤にさしかかって来た2009年度は、掲げられた計画の達成度を検証し、次の中期計画にどのように継承していくべきかを視野に入れながら、計画の具体化に取り組んでいきたい。

社会の状況が激しく変化する中で、法人のミッションを基盤に、今年も利用者の立場にしっかり立って、ニーズに応える質の高い事業を展開していきたい。

また、今年度は創立者賀川豊彦の献身100年目を迎えることになる。

法人としては、他団体と協力して記念行事に参加すると共に、この記念の年の意義を職員と共に理解を深めつつ、新たな福祉実践の展開に取り組んでいきたい。

(1) 次代を担う人材育成のための研修の強化と人材の登用

①次世代管理職育成と法人中期ビジョンの策定

- *昨年度から始まった次世代管理職の人材育成を今年も継続していく。
- *現在、施設運営の中核を担っている管理職は数年後に定年を迎えることになるため、次代を担う管理職の育成が緊急の課題となってきた。
- *すでに管理職を担っている40歳～55歳未満の管理職を中心に、第二次中期計画の策定と、中期雲柱社ビジョンの策定並びに、第二次中期計画の策定に取り組む。

②管理職の研修の強化－法人研修、ブロック研修の両面から－

- *法人のミッションに立つ事業の展開の要は現場の責任を持つ管理職の姿勢にかかっている。
- *今年度も法人全体施設長会、各ブロック施設長会等を通して、管理職の研修を実施していく。
- *研修は法人ミッション、マネージメント、事業展開、施設経営、労務管理等、管理職が担うべき職務を中心に実施していく。

③新任管理職の研修

- *新たに管理職となる者に、法人のミッション理解、管理職として心構え、職務内容等について、研修を実施する。

④主任研修

- *保育ブロック、障がい児・者ブロックの主任を対象に研修を行う。
- *法人のミッション理解、管理職としての職務、OJT展開他、施設長と共に事業を担っていく為の知識や方法などを研修を実施する。

(2) 経営の健全化と雇用の安定を基盤とした事業の展開

①法人全体を視野に入れながら、総合的な観点から経営を展開していく。

- *指定管理事業においては、次期のプロポーザルを常に意識しながら、地域に支持され行政に選ばれる事業実績を上げるように力を尽くしていく。
- *指定管理を外された場合に対応していく為、応分の人件費を積み立てていく。

②ブロックによって、財政状況が異なってきたが、法人全体のスケールメリットを活かして、相互に助け合いながら経営の健全化を図っていく。

- ③法人が所有する施設については、改築計画を策定し、応分の改築準備費を積立ていく。
- ④求人状況が一段と厳しさを増しつつある中で、法人としては正規雇用体制を堅持しながら、現場におけるサービスの充実を図っていく。
- ⑤人材の確保を目指すために、人材バンク（仮称）を設け、法人のOB、パート職員のOB、実習生、ボランティア等々を登録し、適宜雇用していく。
- ⑥給与制度については、現行の制度を維持しつつ、財政状況の変化に対して柔軟に対応していく。
- ⑦職員の健康管理（特に職員のメンタルヘルス）福利厚生に関しては公的な援助を十分に活かしながら、法人としてより良い対応も考えていく。

(3) 各事業別ブロックの質的向上と共に、施設が存在する地域毎の協働関係の構築

- ①当法人は、委託事業や指定管理事業を多く引き受けている。事業の委託期間は単年度から、長くても5年である。特に指定管理制度においては、委託期間が終了した後の事業の継続については、行政は確約をしていない。事業を継続していくためには利用者に支持され、行政からその実績が認められなければならない。このことを強く認識して事業の充実に心がけていきたい。
- ②事業の充実を図るためには、各施設の努力もさることながら、法人のスケールメリットを活かした幅広いサービスの提供が求められる。
- ③各地域に存在している異業種施設間の連携を強めながら、それをサービスの向上に繋げていくような事業を展開していかなければならない。
- ④福祉分野の事業別の属性が薄れ、地域福祉が主流となる状況の中で、事業の展開が求められて来ている現在、従来のブロックごとの事業展開から、各地域に存在している異なった事業の連携と協働の取り組みに着手しなければならない。
今年度は、第二次中期計画を視野に入れながら、地域別の協働のあり方を模索していく。

(4) 本部事務局の体制の確立とともに、法人のスケールメリットを活かし合理化・効率化を図りコストの削減を目指す。

- ①時代の変化に応じて事業が広がっている現在、法人事務局の体制の確立は重要な課題となってきた。法人のコンプライアンスの確立のための諸規定等の整備、IT関係の充実、書類のデジタル化、事務局職員の施設経営への参与、情報の公開、個人情報管理、苦情対応、社会の変化に対応した人事、労務管理等々、課題は山積している。事務局職員の専門スキルの向上を図りながら、これらの諸問題に対応していかなければならない。
- ②法人のスケールメリットを活かした合理化、効率化は、福祉財源の減少が明らかになったいま、避けて通ることが出来ない課題である。インターネットが普及した時代にあって確かな情報を収集して、物品の一括購入、農家と直結した新鮮な食材の購入、また、職員の福利厚生の充実等々に取り組んでいきたい。
今年度は、産地との交流を深めながら今後の具体的な方途を探っていく。
- ③本部事務局と施設との有機的な協働関係の強化
 - *行政の姿勢が施設中心から法人中心に移行して来た現在、本部事務局と施設との新しい協働関係の構築が求められてきている。よりよい経営を展開して行くためには、本部事務局の施設経営への積極的な参与が求められる。今年度はこの参与のあり方を検討し、より施設経営の健全化を目指していきたい。
 - *施設側はそれぞれの地域に根ざした事業を展開し、さらに新しいニーズを掘り起こし、それに取り組むことが求められている。本部事務局との協働関係を深めながら、「守りと攻め」の姿勢で事業を展開していきたい。

(5) 人材育成に力を注ぎつつ、必要とされる新しい事業にチャレンジしていく。

①新しい事業の展開の方針としては以下のような考えの下に取り組んでいく。

- *新しい事業は法人のミッションからみてふさわしい事業であるか
- *新しい事業は法人の事業戦略（地域での多様なニーズに応える福祉事業の展開）にあっているか
- *新しい事業は法人の人材育成に繋がっていくか
- *新しい事業は経営的な見通しは確かであるか

②地域での多様な福祉ニーズに応えるための事業へのチャレンジ

- *今年度は、新たに押上保育園（墨田区）、言問学童クラブ（墨田区）、祖師谷保育園分園の事業が開始される。
- *これらの事業を加えて、地域ごとの施設の連携と協働による事業の展開を検討していく。

③新しい事業展開と人材育成

- *変化の激しい時代は、新しいニーズに挑戦を続けることによって、福祉法人はその責任を果たすことが求められている。
- *今後の人材育成は、既存の事業を充実させながら、新しい事業に挑戦していく、と言う2つの視点に立って、それを担う人材の育成が進められていくことになる。
- *人材育成の基本は、法人のミッション（主イエス・キリストの教えと行いに倣い、創立者思想と実践を受けつぐこと）に立って展開されていく。

3. 理事会、評議員会の開催

(1) 理事会

- *年間3回定期理事会を予定 5月、10月、3月
- *他に状況に応じて臨時の理事会を開催していく。
- *法人の最高決定機関である理事会の責任は、年々その責任が重さを増してきている。社会福祉法人の今後が方向性が不確定な時代にあつて、理事会はその方向性を指し示す責任が委ねられている。この点を深く認識して会の運営を進めていきたい。

(2) 評議員会

- *年間3回開催の予定 5月、10月、3月
- *評議員会は、法人運営の協力者であると共に、厳しい批判者でもある。
- *評議員会が正しく機能していくためには、法人の動きがいつも理解されていなければならない。
- *今年度は、法人と評議員とをつなぐための情報の発信を随時行っていきたい。

4. 協議機関の設置並びに委員会等の開催

①ブロック担当役員会（月1回程度予定）

- ・理事長、常務理事、ブロック担当理事によって構成する。
- ・理事会で決定された議案の執行状況の検証
- ・事業展開のなかで生起する諸問題への対応
- ・各ブロックの人事問題への対応
- ・各ブロックからの苦情の把握と対応
- ・法人事務局より提案される諸事項の検討、承認、他

②人事委員会（随時）

- ・担当役員会がこれにあたる。
- ・管理職等の人事等について検討し理事会に提案する。

- ・人材育成に関わる事項の検討
- ・職員の採用に関する事項の検討
- ・職員の労務、人事上の諸問題の検討
- ③給与制度検討委員会（随時）
 - ・構成メンバーは理事長の任命による。
 - ・社会状況や行政の動きを踏まえながら、法人の給与制度のあり方について検討する。
 - ・給与制度の改訂が必要な場合は、改定案を策定し理事会に提案する。

④人事考課検討委員会

- ・会の構成は理事長の任命による。
- ・雲柱社独自の人事考課制度をつくることを目的として作業に取り組む。

⑤広報委員会

- ・構成メンバーは理事長の任命による。
- ・各施設のホームページの管理と更新
- ・社内報の編集・発行、
- ・各種法人パンフレット作成の検討

※その他必要に応じて委員会を開き対応する

⑥全体施設長会（年3回予定）

- ・全施設長が集まって法人（各事業ブロック等）の現状や課題について話合う。
- ・法人の現状や、今後の課題について話し合う。
- ・各施設間の情報の交換、施設長同士の交流など。

⑦ブロック別施設長会（原則毎月1回予定）

- ・各ブロック（保育、児童館、支援センター、障碍児、者）毎に実施する。
- ・各事業ブロック内施設の事業展開状況、課題や問題の検討
- ・ブロック内施設の現状や情報の交換
- ・ブロック内の財務、労務、行政、危機管理、地域との関わり等々の問題を検討し解決に当たる。
- ・ブロック内の研修計画の策定と実施にあたる。

5: 松沢塾の実施

- ・この会の目的は、規模が大きくなってきた法人の正規職員の一人ひとりとのコミュニケーションを深めるために、少人数のグループに限定して、理事長との話し合いの場を持つことにある。
- ・毎週月曜日、午前9：30～12：00まで
- ・法人のミッションの学び、法人の現状の報告、参加者の同士の交流、職員から法人への要望を聞く、などを中心としている。
- ・今年度は、新入職員も加えて実施する。
- ・管理職を対象とした場も設定していく。

6：他の団体と協力して開催する集会、研修など

(1) イエス団・本所賀川記念館との合同施設長研修

- ・賀川豊彦の思想と実践を継承しながら事業を展開している関西（イエス団）と関東（本所賀川記念館・雲柱社）の施設長の研修・交流を目的とする。
- ・今年度は関西において実施する予定。（2010年1月予定）

(2) アドベント礼拝（2009年12月ごろ予定）への参加

- ・各施設が存在する地域の教会でのアドベント期の礼拝に参加し、クリスマスの意義と法人の基盤であるキリスト教についての理解を深める。

(3) 賀川豊彦召天記念墓前祈祷会と講演会の実施

- ・イエスの友会、松沢教会、本所賀川記念館、財団法人、学校法人雲柱社との共催で、毎年賀

川豊彦の召天日である4月23日の直近の土曜日に、多磨霊園の松沢教会墓地で開催する。

- ・今年度は4月18日（土）の予定。

(4) 本所地区施設職員合同職員研修会

- ・雲柱社の出発点となった本所地区の関係施設が、その精神を継承するために合同で実施する研修、他の法人の職員も参加する。
- ・今年度は、9月27日に開催の予定。

7：三法人、並びに関係団体との協力関係の構築

- * 雲柱社の三法人（学校・財団法人）は、お互いの独自性を尊重しつつ互いに協力して事業を進める。
- * 三法人の協議会を開き、ミッションを共有しながら、相互に抱えている問題の解決に協力する。
 - ・ 協議会のメンバー
 - 各法人理事長、常務理事、学校法人は園長 —
- * 広報活動とについても協力し、賀川事業団（3法人の総称）の発信に努める。
- * イエス団、本所賀川記念館、松沢教会との関係も深める。
- * 雲柱社憲章の普及

2009年度社会福祉法人雲柱社研修計画（案）

I：2009年度研修の課題と展開

1：法人のミッション理解の深化

当法人の社会福祉事業は、法人事業基本理念（ミッション）に基づいて展開されています。法人の職員はこのミッションを深く理解し、その具体化のため努力していくことが求められてきます。今年度の研修もまた、この課題を中心に据えつつ、事業の質の向上（よりよいサービスの提供）を目指して、真摯に研修に取り組んでいきたいと考えています。

2：職員としての専門知識の研修

日々大きな変化を遂げつつある社会状況、それを受けて社会福祉の現場も変化しつつあります。社会福祉の実践は一所懸命が求められる現場ではありますが、それはまた、仕事上の視野を狭くし、マンネリ化や独善性に陥りやすい危険も伴っています。

現場での仕事を客観化し、さらに深めていくためには、専門知識の研修は不可欠であると考え

られます。

3：ニーズの把握と対人援助技術の向上

利用者のニーズ（子どもや家庭の変化）が多様化してきている中で、その状況に対応していくためには、職員がニーズを的確に把握する力と、対人援助技術の向上が求められてきます。

今年度はそのための研修に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

4：事業ブロック間の交流研修と情報の交換

四つの事業部門を持つ当法人は、そのスケールメリット活かした専門知識、スキル、情報の交換を活性化するとともに、研修展開においてもこのメリットを活かしていきたいと考えています。

5：社会福祉研究室の設置継続と自主研修の活性化

本年度も、法人本部に社会福祉研究室を設置継続したいと考えています。

研究室は、職員の研修意欲を促すとともに、当法人の社会福祉事業の充実を目指す研修の場にしていきたいと考えています。ここには社会福祉研修のための文献を備え、小グループでの研修ができる場として生きたと考えています。

個人として、グループとして、法人としてこの機能を活かして、より充実した社会福祉事業を展開していく備えの場としていきたいと願っています。

6：OJT（仕事の実際に即して上司、先輩より指導を受ける）、OFF-JT（職場を離れて、研修を受ける）、SDS（自分の課題を発見して研修に取り組む）のバランスの良い展開

職業人として成熟していくためには、研修の三つの形がバランスよく展開されなければなりません。当法人は各施設、ブロックとの連携を図りながら、バランスの良い研修に取り組んでいける体制を作っていきたいと考えています。

そのためには、各職員の研修履歴を確認し、全職員が公平に研修が受けられるようにしていきたいと考えています。

II：研修の展開

1：全職員に関わる研修（集会）

①法人全体会　－前年の3月下旬－

・礼拝　・新年度の法人の方針　・研修計画　・永年勤続者の表彰　・新入職員の紹介　・辞令伝達

②近隣教会への礼拝出席によるミッション研修

・（クリスマス、イースターなどに）施設が存在する近隣の教会の礼拝に出席し、法人のミッション理解を深める。

③賀川豊彦召天墓前礼拝　－4月中旬－

・創立者の命日にその墓前に集い礼拝を守り、その思想と事業を受け継ぐ者の思いを新たに

2：施設長研修（内1回は宿泊研修）

法人のミッション理解を深め、現場での責任を担うものとして、それをいかに具体化していくかについて研修を行う。また、各ブロック間の情報交換の場ともしていく。

* 研修内容

・法人のミッション理解　・マネジメント（事業、財務、労務、研修、リスク）
・社会福祉の状況理解と対応
・内1回は宿泊研修とする。

3：主任研修（内1回は宿泊研修）

施設長と並んで事業展開の責任を担う立場にある者として、知識、対人援助スキル、コミュニケーション力、OJT展開力などを養うことを目的とする。

* 研修内容

- ・法人ミッションの理解
- ・新しい時代の主任の役割と課題
- ・OJTの展開
- ・会議の持ち方
- ・対人援助スキル研修
- ・社会福祉の状況理解

4：リーダー研修

- ・法人のコア人材の育成を目指して行う研修。法人のミッション理解、リーダーの役割と課題、OJTの実際、ほか

5：経験年数別研修

経験年数に応じて、法人の職員としての課題を認識し、その達成を通していっそうの資質の向上を目指す。また、法人のミッション理解を深め、働く誇りと責任を自覚し現場での実践に結びつく研修を目指す。研修内容は、ミッション理解、職員として担うべき役割、対人援助技術等を盛り込んだ研修とする。

1年目職員研修－新しい職場での喜び、悩み、壁、そしてこれからの課題－

2年目職員研修－正規登用試験に向けて、職員としての自覚と資質の確認－

3年目職員研修－あさひ福祉作業所で実地研修－（2泊3日）

4年目職員研修－テーマに基づき職員の話し合いを中心とした研修－

中堅職員研修Ⅰ－職員の発題を中心に参加者による討論を中心とした研修－

中堅職員研修Ⅱ－キリスト教社会福祉論文講読など－（キリスト教の立場から書かれた社会福祉論文を精読し、各自の社会福祉実践者の立場から学んでいく）

人材育成担当者研修－勤続年数の長い職員を対象に、管理職に次ぐ人材育成の担い手としての役割を果たしてもらうための研修。OJTの展開を中心とした研修。

Ⅲ：各事業ブロックにおける研修

1：各ブロック全体会－各ブロックの全職員が集まり、次年度のブロックの方針と取組みの意識を確認する場

2：管理職研修－各ブロック管理職固有の事業知識、職員の資質の向上、人材育成、マネジメント等を中心に研修に取り組む

3：各ブロック事業担当者研修

- ・各ブロック事業に求められる専門知識、技術の研修

4：ブロック別の研修計画は、各ブロックの施設長会で計画実施する。

記入者（施設長）武井まさ子

事業の内容と展開

新保育指針が出され、この4月から施行という事で保育園に期待される事が増々多くなってきました。その中で、子どもとの関わり、保護者との関わりで戸惑い、悩んでいる職員も増えてきています。2009年度は4名の新人職員を加え、増々職員集団が若返ってきます。そのため法人での研修に加え、園内研修、園外研修への参加を充実させ職員のOJT、フォローをしっかりと考えていく必要性を感じます。また職員集団の悩み、疑問を受けながら学びあい支えあいながら子どもの育ちに関わっていきたいと考えています。そして子ども達が保育園や家で、大人や友だちに自分の気持ちをいっぱい出し自信を持って過ごせるように、もっと子どもの気持ちを把握し子どもの発達に伴った環境を整え、遊びや課題の提供をしていけるように保育課程を学びあい指導計画を充実させていきたいと考えています。

それとともに子育てと仕事の事で悩んでいる保護者も増えてきているので保護者と一緒に考えていける職員集団でありたいと思っています。

- ・一時保育も子どもが安心して過ごせると利用者の声もあり、増々増えてきているのでこれからも利用しやすい施設として充実していきたいと考えています。
- ・国、東京都、市、保育の世界の動きを職員、保護者にタイムリーに伝え、これから変化していく保育園の状況への理解を深めていきたい。
また、地域に必要とされる保育園としてニーズを受け止め、取り組んでいきたいと思っています。
- ・中に入ると安らぐ施設と保護者、訪問者から言われるが、建物の修理メンテナンスが必要な箇所が増えてきているので、安全面に配慮し、必要な工事をしながら大切に使用していきたいと思っています。

2009（平成21）年度当初予算積算資料 支出予定確認書

環境整備・修繕等

- 2歳児トイレと水場の改修
- 保護者用トイレ改修

I 施設運営

(1)実施事業

ア. 特別保育事業

- ・ 零歳児保育特別対策実施（零歳児取り扱い人員：18名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（7時30分まで）（1時間延長、30分は自主事業）
- ・ 延長保育事業（零歳児受け入れ）
- ・ 障害児保育事業実施(3名)
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 一時保育事業
- ・ 自園型年末保育

イ. 地域子育て支援推進事業

- ・ 育児講座
- ・ 退所児童との交流
- ・ 小中高生の育児体験受け入れ
- ・ 育児相談
- ・ 保育所体験
- ・ 園庭開放
- ・ プール開放
- ・ 子育てサークル支援
- ・ 子育て情報誌の発行
- ・ 育児困難家庭への支援
- ・ 外国人児童受け入れ

(2) 児童の処遇

ア. クラス編成

クラス名	年齢	園児数	障害児数	保育士	
つぼみ	0歳	18		6	看護師
たんぼぼ	1歳	20		4	
ちゅうりっぷ	2歳	24		4	
はな	3歳	26		3	
ほし	4歳	26	2	3	
つき	5歳	26	1	2	
合計		140名		22	
つくし	(一時保育)	定員 10名		2	

イ.月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 295日
25	23	26	26	26	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	23	25	23	23	26	

ウ.健康管理

健康診断

乳児	毎月
幼児	年2回（5月、11月）
歯科検診	年2回（5月、11月）
蟯虫卵検査	年1回（6月）

エ.保 育

各組の保育目標

つき組(5歳児)の年間目標

- ・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して身体を動かす事を楽しみ、新しい体験にチャレンジする。
- ・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主、自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ・様々な事物や事象と自分達の生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
- ・異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
- ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・自分の持つ好奇心や知的探究心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じたことや思ったこと、想像した事などを自由に工夫して表現する。

星組(4歳児)の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ・友達と遊ぶ事の喜びや楽しさを感じ、集団で活動する事を楽しむ。
- ・意欲的にいろいろな事に挑戦し、体を動かして遊ぶ事を楽しむ。
- ・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ・人の話を聞いたり、自分の経験した事や思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、その事を表

現しようとする。

花組(3歳児)の年間目標

- ・生活が自立してくる事で自信を持ち、自分のやりたい事が表現できるようになる。
- ・外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ・様々なものを見たり触れたりして、面白さ、美しさなどに気づき感性を豊かに持つ。

ちゅうりっぷ組(2歳児)の年間目標

- ・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け入れてもらう事で、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ・身体を動かす事が楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやり取りを楽しむ。
- ・大人やまわりのことに興味を持ち、みため、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

たんぼぼ組(1歳児)の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と、情緒の安定を図る。
- ・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かす事を楽しむ。
- ・安心できる保育士との関係の下で、食事、排泄などを自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心を持ち、関わろうとする。
- ・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心を持つ。

つぼみ組(0歳児)の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を変えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活が出来るようにする。
- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を

満たし、生命の保持と生活の安定を図る。

- ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ・優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
- ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを見たり、触れたりする機会を通して、身のまわりのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定（行事費用）

- 4月 入園式(1万円)・保護者会総会
- 5月 保護者懇談会
- 6月 保育参観・プール開き(3万円)・歯科検診(3万円)・救命救急法講習
地域お楽しみ会(8万円)
- 7月 お泊り保育(8万円)・父親懇談会(1万円)・ケアーの必要な子の育ちを考える
会(2万円)

- 9月 Welcomeday(3万円)
- 10月 運動会(15万円)・遠足(12万円)・中間反省
- 11月 秋祭り(10万円)・感謝祭(3万円)・防災訓練(賀川学園と合同)
- 12月 クリスマス会(15万円)・OB&地域クリスマス会(5万円)
- 1月 餅つき会(3万円)
- 2月 保育参観・保護者懇談会・年間総括
- 3月 卒園式(10万円)・進級を祝う会(10万円)・卒園遠足(4万円)

オ. 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材・安心できる素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

カ. 安全管理

安全チェック(毎月)

非常災害時の避難訓練(毎月1回)内1回は賀川と合同総合訓練

引き渡し訓練の実施(年1回)

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	21名
調理員	3名 (栄養士含む)
看護師	1名
嘱託医	1名
パート職員(朝夕、フリー、障害児担当など)	30名

イ.健康管理

健康診断 年 1回 (7月～9月)
 細菌検査 年 1回
 調理、0歳児担当者、施設長、主任のみ毎月1回

ウ.職員会議

定例会 毎月2回
 行事前打ち合わせ会 (随時)
 期別反省会 (年4回)
 乳児・幼児別打ち合わせ会 (週1回)
 クラス別打ち合わせ会 (毎月1回)
 学習会

エ.研修計画

- 法人内研修 (10万円)
- 園内研修 (キリスト教、食事、巡回指導、環境など) (50万円)
- 外部の研修 施設見学
- 私立保育園連盟 (10万円)
- キ保育所同盟研 (5万円)
- 東社協 (5万円)
- その他 (20万円)

オ.退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
 財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2. 施設管理

(1) 事務関係

ア. 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、実費徴収事務
- ・労務管理(出勤管理、有給休暇管理 等)

イ. 児童処遇事務 (保育、給食、健康管理)

- ・保育指導計画の作成
- ・給食献立表の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア. 固定遊具の設備点検 (点検費用)

- ・電気、ガス関係点検整備

イ. 老朽設備の点検、老朽箇所の更新 (点検、更新費用)

- ・2歳児保育室トイレ、水場改修
- ・保護者用トイレ改修

(3) 備品関係

ア. 備品購入予定 (購入予定費用)

- ・保育室環境整備 35万円

イ. 保育用品購入予定 (購入予定費用)

45万円

ウ. 給食用品購入予定 (購入予定費用)

エ. 固定資産物品購入予定 (購入予定費用)

(4) 災害対策

ア. 避難訓練 毎月 1回

イ. 防災設備の点検委託

年2回(内、届出1回)

ウ. 非常食糧の備蓄

社会福祉法人 雲柱社 五日市保育園 2009（平成21）年度 事業計画

記入者（施設長）

園長 小山 正弘

前文

○今後の保育ニーズについて考え、準備していく。

- ・あらたに特別保育リーダーを設け、ニーズに応じて推進していくことが出来るように準備していく。
- ・園内研修で「親支援」について学び、共通理解をしていく。
- ・「喫茶」「一時保育」「学童保育」等について学び、必要なニーズに応えられるよう準備していく。
- ・延長保育の環境の充実

○地域の方に保育園の存在を知ってもらう。

- ・パートナー登録の内容を充実。機関紙・おたよりの発送。行事の案内等。
- ・園開放の充実、親しみやすいネーミングを考える。今後のニーズについて把握する。
- ・外の掲示板の利用。子どもの作品や地域のもの等を貼る・パンフレットをおく等。

○保育環境の充実

- ・今年度は特に園庭の環境を整備していく。園庭が狭いので、総合遊具を設置し、広く使えることが出来るように環境を整えていく。外まわりフェンスも綺麗なものにする。
- ・室内環境についてはより家庭的でおちついた環境づくりをすすめていく。教材庫・棚内の整備。

- ・他園の見学研修を行い、保育内容の共通イメージをもって学びを深めていく。基本的な保育内容についてはマニュアル化を進め、積み上げられるようにする。行事・玩具のアルバム・造形等。

○ 組織における役割分担を整え、人材育成を図る。

- ・ 主任二人制をとる。役割分担し、ニーズにすばやく対応できるように整える。
- ・ 乳児・幼児リーダーに加えて特別保育リーダーをおく。各リーダーが協力しあいながら主体的に動き、特に、乳児・幼児・クラスの枠を越えて全員の共通理解・協力体制がとれるようにしていく。
- ・ 内容によっては看護師・栄養士に参画してもらい、広い視点から保育内容を充実させていく。
- ・ ガイダンスを基にしながらも、先輩から後輩に伝えたり相談に乗ったりしながら、自らの資質をさせていく。
- ・ 園内研修。「親支援」「保育指針」「書類の書き方」「保育環境」についてなどを予定。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障碍児保育事業実施（特児対象：0名、その他：5名）

- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・小中高生の育児体験受入れ 年 28 日間受入れ予定
- ・保育所体験 年 10 回
- ・出前保育 年 1 1 回実施予定
- ・年末保育
- ・機関紙の作成・配布

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
つぼみ	0歳	2名	6名		+パート補助1名
たんぽぽ	1歳	2名	12名		+パート補助1名
ちゅうりっぷ	2歳	2名	12名		+パート補助1名
れんげ	3歳	2名	20名	2名	+パート補助1名
すみれ	4歳	1名	25名	2名	+パート補助1名
いちよう	5歳	1名	22名	1名	+パート補助1名
	フリー	1名			
合計		11名	97名	4名	保育士数は主任を除く

☆保育士数合計は、主任を除いた数である。

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293 日
25日	23日	26日	26日	26日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	23日	23日	23日	23日	26日	

ウ 健康管理

健康診断

入所前 前年度3月

乳児 毎月

幼児 年2回（4月、10月）

歯科検診 年1回（6月）

蟻虫卵検査 年1回（5月）

エ 保 育

各組の保育目標

いちよう組（5歳児）の年間目標

- ①様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通してからだを動かすことを楽しむ。
- ③健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自立の態度を身に付け、理解して行動する。

- ④様々な事物や事象と自分達の生活との関係に気付き、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。

異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。

人の話をよく聞き自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。

- ⑤自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

すみれ組（4歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
- 意欲的に色々なことに挑戦し、からだを動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身に付ける。
- ④人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

れんげ組（3歳児）の年間目標

- ①生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。

- ③食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようになる。
- ④自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気付き感性を豊かに持つ。

ちゅうりっぷ組（2歳児）の年間目標

- ①たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せると共に、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③簡単な身の周りの活動を自分でしようとする。
- ④保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤大人や回りのことに興味をもち、みたて・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行いからだを動かすことを楽しむ。
- ③安心出来る保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④安心出来る大人に見守られる中で、他の子どもに関心をもち、関わろうとする。

- ⑤身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心を持つ。

つぼみ組（0歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②安全で活動しやすい環境を整え、色々な身体活動を十分に行う。
- ③保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活が出来るようにする。

一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図り、甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。

個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。

- ④優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ⑤聞く、見る、触る等の経験を通して、感覚や手指の機能を促す。

安心出来る人的物的環境の下で絵本や玩具、身近な生活用具等を、見たり、触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定

(行事費用)	4月	入園式、進級式 (5万円)
	5月	幼児親子遠足 (10万円)
	6月	こどもの日、花の日 (2.5万円)
	7月	お泊まり保育 (10万円)

- 夏まつり (5万円)
- 8月 卒園児キャンプ (10万円)
- 9月 祖父母の集い (2万円)
- 10月 運動会 (10万円)、幼児遠足 (5万円)、2歳クラス親子遠足 (5万円)
- 11月 感謝祭 (2万円)
- 12月 もちつき大会 (5万円)、クリスマス会 (15万円)
- 1月 新年挨拶会 (5万円)、6年生同窓会 (3.5万円)
- 2月 子ども食堂 (5万円)
- 3月 お別れ遠足 (10万円)、卒園式 (5万円)

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 12 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成。

給食供給者としての諸管理

カ 安全管理

交通安全教育 (11 月 1 日)

非常災害時の避難訓練 毎月

引き渡し訓練の実施 (9 月)

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	2名
保育士	11名
調理員	3名（栄養士含む）
看護師	（1名・・・主任と兼任）
嘱託医	1名（非常勤）
臨時職員、パート職員	19名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回（ 10 月 ）

細菌検査 年 12 回 全員

インフルエンザ予防接種

ウ 職員会議

定例会 毎月 1 回

園内研修 毎月 1 回

乳児クラス、幼児クラス各打ち合わせ等（各月 2 回）

パート職員の研修 夜年 2 回・昼年 2 回を予定

エ 研修計画（研修費用）

- ・ 園内研修（15 万円）
- ・ 法人内研修（40 万円）
- ・ 他施設見学研修（20 万円）
- ・ その他研修（5 万円）

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入

財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・ 小口現金出納事務、・実費徴収事務・・・トータルネットの導入
- ・ 労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・ 保育指導計画等の作成
- ・ 給食献立表等の作成

- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア 老朽箇所の見直し

- ・総合遊具の設置（800万）
- ・園周りのフェンス（155万）
- ・ペンキ塗り、保育室床等の修繕その他。

イ 新しいチャレンジにむけての準備として

- ・設計士とともに、一時保育室または学童保育室の計画をたてる。

(3) 備品関係

ア 備品購入予定（購入予定費用）

ロッカー・机・箆笥等の購入

パソコン

イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

三輪車等の保育用品購入

保育玩具・教材の購入

ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）

箸・お皿の類

エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分 倉庫内整理。

3 地域社会との連携

障害児・者施設、小学校・中学校・高校との交流。老人ホームとの交流。

民生委員、支援センター、保健相談所、児童相談所との連携。

4 その他

卒園児キャンプ。6年生同窓会。

記入者（施設長）

園長 伊藤 美代子

昨年暮れに起きた個人情報紛失の件では、改めて保育園としての危機管理を充実させていく大切な契機となった。しかし、反省→改善はきちんとしながらも、このことであたかな信頼関係を基本とする保育園としてのあり方を変えないようにしていきたい。そのためにも、第三者評価（利用者アンケート調査）の結果をふまえ、職員全員で改善方策を洗い出し、しっかりと変えるべきものは変え（行事の見直しを含めて）、園として守るべきものは守っていく姿勢を保護者に伝えていきたいと思う。保育の方法の一つとしての「異年齢保育」も職員間で話し合いを続けているが、今年は小さな一歩でも踏み出したいと思っている。

子育て支援事業は、特に地域のネットワークを少しでも形にすることを目標にしたい。同じ地域で子育てに関わる施設、事業者が何らかのネットワークを結べたらいいと思う。そのために園として出来ることを積み重ねていきたい。

もう一つの柱の卒園児支援。その最も初めの活動である“卒園児キャンプ”は今年で30回目を迎える。多くのボランティアさんに支えられながらも、保育園の活動として続けてこられたことは感謝なことである。この機会にたとえ1日でも職員全員で参加する方向を打ち出すことにしている。これからも今まで継続してきた力を土台に、職員、ボランティアの実行委員会で話し合いを重ね、みんなで楽しめるものにしたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳時の受け入れ・スポットの受け入れ）
- ・ 障碍児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年6回実施予定
- ・ お年寄りとの交流 年10回実施予定
- ・ 退所児童との交流 年10回実施予定
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年30日間受入れ予定
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 年30回・30人受入れ実施予定

- ・ 出前保育 年11回実施予定
- ・ 出産を迎える方の体験保育 年9回・20人受け入れ実施予定
- ・ 子育てサークル支援 年3回実施予定
- ・ 子育て情報誌の発行 年5回発行予定
- ・ 育児困難家庭への支援 (2名受け入れ在籍)
- ・ 自主的取組 障害児との交流保育

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つくし	0歳	3	9	0	
たんぽぽ	1歳	2	10	0	
もも	2歳	2	14	1	
ちゅうりっぷ	3歳	1	14	0	
ひまわり・年中	4歳	1	16	1	
ひまわり・年長	5歳	1	15	0	
子育てひろば	その他	1			
合 計		11	79	2	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293日
25	23	26	26	26	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	23	23	23	23	26	

ウ 健康管理

健康診断

乳児	毎月
幼児	年2回(5月、11月)
歯科検診	年2回(6月、11月)
蟯虫卵検査	年2回(6月、11月)

エ 保 育

各組の保育目標

ひまわり組(5歳児)の年間目標

- ・ 様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ・ しなやかな体で、のびのびと自分の体を動かして遊ぶ。

- ・ 人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手、あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・ 友だちと同じ目的に向かって活動するようになり、自分のやらなければならないことや、必要性がわかってくる。
- ・ 異年齢や様々な子ども達とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようになる。
- ・ 友だちと共通のイメージを持って、自分たちの遊びをより楽しいものにしていく。
- ・ 自分の持つ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じたことや思ったこと、想像した事などを自由に工夫して表現する。

ひまわり組（4歳児）の年間目標

- ・ 友だちとの楽しい経験を重ねることで、自分のきもちに気づき、行動しようとする。
- ・ 意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・ 人の話を聞いたり、自分の思っていることを話したりして、言葉で伝え合う楽しさを味わう。
- ・ 友達と遊ぶことの喜びや楽しさをお互いに感じ、一緒に遊ぶ中で他の子ども達の考えかたも受け入れようとする。
- ・ 異年齢の子どもにも関心を持ち、かかわりを広める。
- ・ 遊びの中から想像が豊かになり、それを表現する。
- ・ 身近な自然の事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、その事を表現しようとする。

ちゅうりっぷ組（3歳児）の年間目標

- ・ 生活が自立してくることで自信を持ち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ・ 色々な遊びを通して、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・ 自分の思ったことや感じたことを言葉に表現し、保育者や友達と遊ぶ中で言葉を楽しんで使う。
- ・ 気の合う仲間と一緒に遊ぶことを楽しむ。
- ・ 友だちの事がわかるようになり、助けてあげたり手伝ってあげるようになる。
- ・ 体験したことをもとに色々なことを発想してごっこあそびを作っていく。
- ・ 自然の中で身近な動植物に触れあいたくさん遊ぶ。

もも組（2歳児）の年間目標

- ・ たくさんの自己主張や思いの表出を保育者に受けとめてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちをきりかえられるようになる。
- ・ 体を動かすことが楽しくなり、体をいっぱい動かしてあそぶ。
- ・ 保育者に助けてもらうことで、自分の気持ちを言葉で伝えようとし、思いがぶつかった時も、“どうしようかな”と少しずつ考えようとする。
- ・ 他の子ども達と遊ぶことが楽しくなり、一緒に遊びたいと思う仲間ができてくる。

- ・ 保育者や周りのことに興味を持ち、みたて・ふり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。
- ・ 自然物や生き物を身近に感じ、喜んで触れ合う。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- ・ 「ジブンノ」「ジブンガ」の主張に見られるような自我が芽生え、その表出を保育者に受けとめてもらうことにより、安心して自分の思いを出す。
- ・ 歩くことを喜び、体が動くことを楽しむようになる。また、手指など自分の体をつかって、探索活動を十分に楽しむ。
- ・ 保育者と子どものゆったりした信頼関係の中で、ことばやしぐさで自分の思いを伝える。そして、その中で覚えた言葉を使うことを楽しむようになる。
- ・ 安心できる保育者に見守られる中で、他の子どもにも関心をもちかかわろうとする。
- ・ 身近な保育者の様子を真似しながら、みたて・ふり遊びを楽しむ。
- ・ 身近な自然とのふれあいを十分に体験する。また、小動物に対する興味や関心が育つ。

つくし組（0歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。また、一人ひとりの生活リズムを大切にして、食欲、睡眠、排泄などの生理欲求をみだし、生活の安定を図る。
- ・ 大好きな人や欲しいものに興味を示し、自分から近づいていこうと姿勢を変えたり、移動するなど体を十分に動かす。
- ・ 寝返り、おすわり、はいはい、伝い歩き、歩くなど、それぞれの状態にあった遊びを楽しむ。
- ・ 聞く、見る、握る、つまむ、たたく、ひっぱる、しゃぶるなどの遊びを楽しむ。
- ・ 嬉しい、悲しいなどの感情が育ち、泣く、笑う、表情、しぐさ、喃語、片言などでじぶんのきもちを表す。
- ・ 保育者が歌う唄を喜んで聞いたり、手足や体を動かして楽しむ。また、保育者の動作を見て、まねをする喜びを味わう。
- ・ 身近な自然とのふれあいを十分に体験する。

主な行事予定	4月	入園式（1万円）
（行事費用）	5月	親子遠足（25万円）
	6月	花の日、子どもの日（1万円）
		日曜大工の日（3万円）
	7月	夕涼み会（5万円）

	保育園キャンプ (20万円)
8月	
9月	おじいちゃん、おばあちゃんと親しむ会 (2万円)
10月	運動会 (3万円)
	いもほり遠足 (3～5歳児) (17万円)
12月	子ども会クリスマス会 (3万円)
	親子クリスマス会 (10万円)
	劇団仲間観劇 (5万円)
1月	餅つき (5万円)
3月	卒園遠足 (3万円)
3月	お別れ会、卒園式 (10万円)
月例行事	誕生会 (8万円)
	礼拝牧師謝礼(7万円)
	園外保育 (3万円)

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年4回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材・安心できる素材 (生協の利用・自然食品店・アレルギー食材店の利用) を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

地域の親に向けた献立の紹介

カ 安全管理

交通安全教育 (11月)

非常災害時の避難訓練 (毎月1回)

引き渡し訓練の実施 (9月1日)

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	11名
調理員	3名 (栄養士含む)
看護師	1名
嘱託医	2名 (非常勤)
臨時職員、パート職員	12名

イ 健康管理

- 健康診断 年1回（9月）
- 細菌検査 年2回
- 給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回

ウ 職員会議

- 定例会 毎月2回
- 行事前打合せ会（随時）
- 期別反省会（年2回）
- 園内研修（年4～5回）

エ 研修計画（研修費用）

- ・ 園内研修（10万円）
- ・ 法人内研修（10万円）
- ・ キ保連保育研修（15万円）
- ・ 保育総合研修（15万円）
- ・ 全私保連カウンセラー養成講座（20万円）
- ・ 全私保連全国研究大会（10万円）
- ・ その他（15万円）

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

（1）事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・ 小口現金出納事務、・ 実費徴収事務
- ・ 労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・ 保育指導計画等の作成
- ・ 給食献立表等の作成
- ・ 健康診断記録表等の作成

（2）設備関係

ア 固定遊具の設備点検（点検費用）

- イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新（点検・更新費用）
 - 給食室の壁の塗り替え、網戸張替え（12万円）
 - 湯沸かし器増設、ガス容量増設（50万円）
 - 2階保育室の床磨き、ワックス塗り（45万円）
 - 2階沐浴室の改装（90万円）

（3）備品関係

- ア 備品購入予定（購入予定費用）

- 2歳児室の棚（20万円）

- 3歳児室のテーブル（20万円）

- 0歳児室のテーブル（20万円）

- イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

- 環境整備のための室内遊具(15万円)

- ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）

- 鍋、ホットプレート、炊飯ジャー等（10万円）

- エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

（4）災害対策

- ア 避難訓練

- 毎月1回

- イ 防災設備の点検委託

- 年2回（内、届け出1回）

- ウ 非常食糧の備蓄

- （全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

3 地域社会との連携

ネットワーク作りに力を入れ地域の各施設機関とつながることによって、子育て支援の輪を地域の中に

広げ、人と人をつないでいくことを目標にする。

区内にある雲柱社の施設と連携を取り合い、利用者のニーズにそった支援をしていきたいと思う。

地域の民生委員、児童委員、保育ママに子育てひろば『ひだまり』で発行している情報誌を送り、情報を発信していく。また、地域のお年寄りの力を園内に吹き込んでもらうことにもチャレンジしたい。

さらに、地域で乳幼児と触れ合う機会を作るために、江東区のボランティアセンターや近隣の小、中学校との連携を今年も続けていく。

社会福祉法人雲柱社 祖師谷保育園 2009（平成21）年度 事業計画

記入者（施設長）

園長 上松 恵子

2009年7月分園が開設される。4月から6月までの3ヶ月間分園入園予定児童15名を本園にて受け入れて保育をする。7月以降、分園は新入園児を迎え、定員60名の園としてスタートする。職員は本園職員と分園職員が3ヶ月間一緒に保育をする。分園開設に伴い、新規採用者も多いので事業理念、保育目標、保育内容等の理解を実践、研修、OJTなどを通して伝えていく。本園、分園が交流を持ちつつ、それぞれの運営が円滑にいくよう職員一同力を合わせていきたい。また、報告・連絡・相談をしっかりとってスムーズな業務遂行を目指していく。常に子どもを中心とした視点に立ち、新保育所保育指針にもとづいた実践を行い、いつも保育を見直していく姿勢をもっていきたい。

園内研修では2008年度に続き外部講師を招き、共通認識のできる学びをしていくと同時に、できるかぎり外部の研修にも参加し、職員の資質の向上に力を注ぐ。

地域のネットワークとつながりながら園開放、出前保育も含めて、地域のニーズに耳を傾け、私たちのできる子育て支援を実践していく。また、中学生、高校生の保育体験、ボランティアなどもできる限り受け入れ、次世代育成支援につとめたい。

保育目標

神と人から愛されていることを知り、自分やまわりの人を大切にする子ども

- ① ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- ② のびのびとしなやかに、自分のからだを動かして遊ぶ子ども
- ③ 基本的な生活習慣が身につき、見通しをもってできることを自分でする子ども
- ④ さまざまな人との関わりを大切にし、思いやりをもって共に生きる子ども
- ⑤ 自然や命あるものとの出会いを大切にし、豊かに感じとり表現する子ども

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育事業（2時間延長）・分園は1時間延長
- ・ 障害児保育事業実施（1名）
- ・ アレルギー児に対する代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 中高生の育児体験受入れ
- ・ 出前保育
- ・ 年末保育 12/29～12/30実施予定
- ・ 保育所体験

(2) 児童の処遇

ア 本園クラス編成 認可定員 108名

クラス名	年 齢	保育士数	園児数	障碍児数	備 考
うさぎ組	0歳	3名	9名		看護師
あひる組	1歳	3名	14名		
はな組	2歳	3名	17名		
つき組	3歳	2名	20名		
ほし組	4歳	1名	24名		非常勤保育士1名
ゆき組	5歳	1名	25名	1名	非常勤保育士1名
	その他	2名			
合 計		15名	109名		

分園クラス編成 認可定員 60名

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
未 定	0歳	3名	9名		看護師
〃	1歳	3名	14名		
〃	2歳	2名	14名		非常勤保育士1名
〃	3歳	1名	8名		
〃	4歳	1名	8名		
〃	5歳		7名		
合 計		10名	60名		

分園4月～6月受け入れ

1歳児…5名 2歳児…8名 3歳児…2名 計…15名

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 295日
25日	23日	26日	26日	26日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	23日	26日	23日	23日	25日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月1回

幼児 年2回(5月、10月)

歯科検診 年1回(6月)

蟻虫卵検査 年1回(6月)

視力測定「4, 5歳児」(11月)

耳鼻科検診 年1回（5月）

エ 保 育

各年齢の保育目標（本園・分園共通）

5歳児の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を動かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

4歳児の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
 - ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人に話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近の事がらにふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

3歳児の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信もち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

2歳児の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②・体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みたて・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

1歳児の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の

- 安定を図る。
- ②・保育士にも見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
 - ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
 - ④・安心できる大人に見守られ中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
 - ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

0歳児の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を勧め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定	4月	入園式（2万円）
（行事費用）	5月	3、4、5歳児親子遠足（2.5万） 各クラス懇談会
	6月	花の日、子どもの日、（3万円） 5歳児プラネタリウム（1万5千円） プール開き
	7月	夕涼み会（1.6万円）
	8月	卒園生遊ぼう会（4万円）
	9月	個人面談開始
	10月	運動会（15万円）ほのぼの会（3万円）
	11月	そしがや祭り（2.0万） 一週間縦割り 収穫感謝祭・会食
	12月	クリスマス会（2.5万円）
	1月	餅つき
	2月	5歳児観劇（6万円） 大きくなったよ会 各クラス懇談会

3月 お別れ会、卒園式（10万円） 進級式
 月例行事 誕生会（5万円） おにぎりの日（年3回 3歳児以上）

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回
 栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
 季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
 給食供給者としての諸管理

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練
 引き渡し訓練の実施（9月）

(2) 職員の処遇

本園

分園

ア 職員構成

園長	1名	副園長	1名
主任保育士	2名		
保育士	13名	保育士	10名
看護師	1名	看護師	1名
調理員（栄養士含む）	2名	調理員	2名
非常勤職員	19名	非常勤職員	6名
嘱託医（非常勤）	1名	嘱託医（非常勤）	1名
音楽講師（非常勤）	1名		

イ 健康管理

健康診断 年 1 回（6月）
 細菌検査 年 1 2回
 全職員及び非常勤職員 毎月1回

ウ 会議

・職員会議	毎月 1 回	・主任会	毎月 2 回
・幼児打ち合わせ	毎月 2 回	・乳児打ち合わせ	毎月 2 回
・各クラス打ち合わせ	年 6 回	・食事打ち合わせ	毎月 1 回
・行事前打合せ会（随時）		・反省会（年 2 回）	
・新年度打ち合わせ			

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修（15万円）
- ・法人内研修（10万円）
- ・民間保育園連盟研修（10万円）
- ・その他の研修（60万円）

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検（点検費用）

(3) 備品関係

ア 備品購入予定（購入予定費用）

- ・物置（8万）

イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

- ・クラス用遊具、環境整備用品（100万）

ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）

- ・食器類（50万）

エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

- ・テラス用日よけ（30万）

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（2日）分

3 地域社会との連携

- ・烏山地域子育て支援の「保育ネット烏山」に参加。
- ・トライアングルフェスタに参加したり、児童館懇談会に情報交換の場として参加。
- ・民政委員の方と相談しながら、一人暮らしのお年寄り宅を訪問する。
- ・地域の部屋を週二回、地域の子育て中の親子に開放する。

園長 菊地 せい子

民営化3年目の今年は、公立保育園から民間保育園への2年間の移行期を終え、保育内容そのものの真価を問われる年であると思います。特に今年は4月から施行される新保育指針をより深く学び現場に適応していくことが求められています。子ども目線、親目線、地域目線にも配慮しバランスのよい保育を行っていききたいと思います。

また、今年もまだまだ不十分な保育環境の充実に務めたいと思います。そして新規採用の多い職員集団ですが、すでに2年間の経験も積んできており、今年は積極的な提案、チャレンジする姿勢を期待するものです。そのため園としても、内部・外部の研修にはより力を入れていききたいと思います。

私達は法人の理念、保育目標に基づき、どんな子どもに育てて欲しいかを常に問いかけながら、子ども達が安全かつ健康で情緒の安定した生活ができるような環境を整え、自己を十分に発揮しながら人間形成の基礎を培うことができるよう願って日々の保育をしていきます。

保育目標

- ① ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- ② のびのびとしなやかに、自分のからだを動かして遊ぶ子ども
- ③ 基本的な生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
- ④ さまざまな人との関わりを大切にし、思いやりをもって共に生きる子ども
- ⑤ 自然や命あるものとの出会いを大切にし、豊かに感じとり表現する子ども

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 0歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：13名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育事業（4時間延長）
- ・ 休日保育
- ・ 障害児保育事業実施（2名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 退所児童との交流
- ・ 中高生の育児体験受入れ
- ・ 保育所体験（パートナー登録）
- ・ 出前保育
- ・ 年末保育 12/29、30実施予定

(2) 児童の処遇

ア クラス編成 認可定員 114名

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ひよこ組	0歳	5名	13名		*看護師
ちょうちょ組	1歳	4名	18名		
うさぎ組	2歳	4名	20名		
たんぼぼ組	3歳	2名	22名	1名	
やま組	4歳	2名	22名		
ひ組	5歳	2名	22名	1名	
	その他	7名			
合計		25名	117名		

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 361日
30日	31日	30日	31日	31日	30日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
31日	30日	30日	28日	28日	31日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月 1～2回

幼児 年2回（5月、10月）

歯科検診 年1回（6月）

蟯虫卵検査 年1回（6月）

視力測定「4，5歳児」（11月）

耳鼻科健診 9月

エ 保 育

各組の保育目標

ひ組（5歳児）の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しみ、新しい体験にチャレンジする。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。

- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を動かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

やま組（4歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
 - ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人に話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近の事がらにふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

たんぽぽ組（3歳児）の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信もち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

うさぎ組（2歳児）の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②・体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みたて・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

ちょうちょ組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士にも見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる大人に見守られる中で、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られ中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。

- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を勧め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能の発達を促す。
- ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定	4月	入園式（5万円）
(行事費用)	5月	4, 5歳児遠足（1万5千円） 保護者会 ひまわりタイム（カレーパーティー）
	6月	プール開き
	7月	夏祭り（10万） お泊まり会（5万円）
	8月	卒園生遊ぼう会
	9月	プール終い ほのぼの会（2万） お月見（5千円）
	10月	運動会（15万円） 5歳児遠足（2万）
	11月	3, 4歳児遠足（14万） 収穫祭（焼きいも・豚汁パーティー）（3万）
	12月	クリスマス会（10万）
	1月	餅つき（2万） ほのぼの会（3万円）
	2月	ひまわりタイム（豆まき）（1万） 保護者会
	3月	ひまわりタイム（ひなまつり）（1万） 卒園・修了式（30万円） 5歳児お別れ遠足（8万） ひまわりタイム（お別れパーティー）
月例行事		誕生会 卒園生遊ぼう会 年6回（3万円）

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 2 回

栄養のバランスを考えた献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練

引き渡し訓練の実施（9月）

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
副園長	1名
主任保育士	2名
保育士	23名
調理員	4名（栄養士含む）
看護師	1名
保育パート職員	8名
調理パート職員	4名
見回り、用務	3名
嘱託医	1名（非常勤）
音楽講師	1名（非常勤）

イ 健康管理

健康診断 年 1 回（6月）

細菌検査 年 1 2回

全職員及びパート職員毎月1回

ウ 会議

・職員会議	毎月 1 回
・運営会議	毎月 2 回
・烏山会議	隔月 1 回
・幼児打ち合わせ	毎月 3 回
・乳児打ち合わせ	毎月 2 回
・保育まとめ	年 2 回
・新年度打ち合わせ	年 1 回

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修（15万円）
- ・法人内研修（40万円）
- ・都私立保育園連盟研修（12万円）
- ・都社会福祉協議会研修（6万円）
- ・その他の研修（25万）

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入

財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

- ア 会計事務、管理事務
 - ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
 - ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

- イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）
 - ・保育指導計画等の作成
 - ・給食献立表等の作成
 - ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

- ア 固定遊具の設備点検（点検費用）
- イ 砂場入れ替え、消毒
- ウ 布団乾燥、クリーニング
- エ すのこ
- オ ひよけ

(3) 備品関係

- ア 備品購入予定（購入予定費用）
 - 洗濯機（5万）
- イ 保育用品購入予定（購入予定費用）
 - 玩具（40万）
 - テーブル、イス（50万）
- ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）
 - 食器類（50万）
- エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）
 - 玄関まわり棚（30万）

(4) 災害対策

- ア 避難訓練
 - 毎月1回
- イ 防災設備の点検委託
 - 年2回（内、届け出1回）
- ウ 非常食糧の備蓄
 - （全園児数＋全職員数）×3食×（1、5日）分

3 地域社会との連携

- ・ 烏山地域子育て支援の「保育ネット烏山」に参加
- ・ 社会福祉協議会高齢者催し物参加

園長 三幣 典子

年主題「安全な生活」新しい環境になれる 一法人事業理念 保育理念にそって一

仮設園舎で110名の子どもを受け入れ、4月末には新園舎へ引越をして新しい環境での保育がはじまる。職員も子どもも保護者にとっても新しい環境であるので、何よりも安全な生活を最優先させしっかり危機管理体制をしいていく。待機児解消をうけて1歳児クラスの定員や非定型一時保育事業の定員を増やす。例年行ってきた子育て広場事業や地域活動をより深めていき、3階の会議室や多目的室を有効活用するべく、地域や江東区の子育てニーズの調査をして新しい特別保育事業の準備をしていきたい。

保育所保育指針が改訂されたことにより、保育課程にそって新しい環境とともに保育内容を見直していく。また、職員や園の資質をたかめ保育所の社会的責任を自覚していきたい。

保育方針 「神と人から愛されかけがえのない存在であることを知る」

「一人ひとりを大切にする」

保育目標 神と人から愛されていることを知り、自分やまわりの人を大切にすること

- 1、ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- 2、のびのびとしなやかに、からだを動かして遊ぶ子ども
- 3、基本的な生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
- 4、さまざまな人との関わりを大切に、思いやりをもって共に生きる子ども
- 5、自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じとり表現する子ども

配慮点

- *誰もが神と人から愛され、かけがえのない存在であることを知るように保育する。
- *子ども達一人ひとりの個性や権利を尊重して保育する。
- *保護者が安心して働くことができ、子ども達が心身共に健やかに育つよう保育する。
- *保護者と共に、地域との交流をもって子育てを援助する。

事業の内容と展開

- 1 新園舎になれる 子どもの動きや職員の動線を考慮して保育室の環境を整え、園庭や屋上送迎時の園周辺も含めた新園舎の環境を整備していく。
- 2 安全対策 新園舎内の危険箇所を想定し、危険箇所のチェックリストを作成するなどして安全管理体制を強化していく。
- 3 1歳児クラス2グループでの保育
15名から19名の定員に増える。高月齢児と低月齢児にわけた2グループで協力しあいながら保育をすすめていく。

- 4 2時間延長保育 18:15～19:15の1時間延長にくわえ18:15～20:15の2時間延長を始める。補食と夕食の兼ね合いや延長保育室の環境などよりよい時間と空間を提供できるようにしていく。
- 5 地域社会の保育ニーズのリサーチ
江東区のこの地域での新しい保育ニーズを調べ、制度の枠を超えた取り組みにもチャレンジしていきたい。

施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：12名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（2時間延長）
- ・ 障害児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 非定型一時保育（4時間を超える）実施

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年6回実施予定
- ・ お年寄りとの交流 年10回実施予定
- ・ 退所児童との交流 年6回実施予定
- ・ 中高生の育児体験受入れ 年間随時受入れ予定
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 毎週水・金受入れ実施予定
- ・ 子育てサークル支援 年6回実施予定
- ・ 子育て情報誌の発行 年12回発行予定
- ・ 外国人児童受入れ（4名受入れ在籍）
- ・ 年末保育 12/29～12/30実施予定
- ・ 育児困難家庭への支援

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
ひよこ	0歳	4	12		看護師1

りす	1歳	4	19		保育補助1
うさぎ	2歳	3	19		
こぐま	3歳	2	20		
ぱんだ	4歳	1	20		幼児保育補助フリー2
きりん	5歳	1	20		
こあら	一時保育	1	10		保育補助2
合 計		16	110		

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293日
25	23	26	26	26	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	23	23	23	23	26	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月 1回 (0歳児クラス)

乳児・幼児 年2回 (5月、10月)

歯科検診 年2回 (5月、10月) 歯科指導 (年5回)

蟯虫卵検査 年2回 (5月、11月)

エ 保 育

各組の保育目標

きりん組 (5歳児) の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

ぱんだ組 (4歳児) の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。

- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近な事柄にふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

こぐま組（3歳児）の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外あそびを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

うさぎ組（2歳児）の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちをだせるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、見立て・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

りす組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心を持ち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め

快適な生活ができるようにする。

- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図り、甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れて幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり、発声やなん語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
- ・安心できる人的物的環境の下で絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

こあら組（一時保育）の目標

- ①・一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活や遊びを通して身体を動かすことを楽しむ。
- ③・一人ひとりの家庭での生活リズムに考慮して、無理なく食事や午睡をする。
- ④・安心できる大人の見守りの中で、他の子どもにも関心を持ち一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、触れたりして、自然や事象に興味・関心をもつ。

主な行事予定	4月	入園式（10万円）
(行事費用)	5月	親子遠足（25万円）
	6月	こどもの日花の日（5千円）
	7月	夕涼み会（3万円）年長お泊まり保育（12万円）
	8月	小中学生キャンプ（70万円：内参加者負担金55万円） 中高生ボランティア受け入れ
	9月	祖父母会（2万円）
	10月	ファミリーデー（10万円）芋掘り遠足（18万円）
	11月	収穫感謝祭
	12月	クリスマス礼拝・祝会（25万円）
	1月	餅つき会（1万円）
	2月	お別れ遠足（3万円）
	3月	お別れ会、卒園式（20万円）
月例行事		誕生会（8万円）

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年4回

食事目標 (ねらい)

(配慮)

- 1. 食事を楽しく食べる。
- 2. 旬の食材を通して

- 1. 楽しい雰囲気の中で、保育士や好きな友達と一緒に楽しく食べる。
- 2. 安全性に配慮した旬の食材を取り入れ、季節に合っ

- | | |
|---|--|
| <p>四季をしる。</p> <p>3. 手作りの楽しさを知る</p> <p>4. 食べる力をつける。</p> <p>5. 噛む力をつける。</p> | <p>た献立を立てる。</p> <p>3. 行事やクッキング保育を通して手作りの楽しさを伝える。</p> <p>4. よく遊び運動することでお腹がすき、必要な食品や分量が食べられるようにする。(保育士との連携)</p> <p>5. 咀嚼して噛める食材を取り入れる。</p> |
|---|--|

カ 安全管理

- 犯罪防止安全教育 (1月)
- 非常災害時の避難訓練 毎月1回
- 引き渡し訓練の実施 (9月)
- 上級救命救急講習会

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
副主任保育士	1名
保育士	16名
調理員	2名 (栄養士含む)
看護師	1名
嘱託医	2名 (非常勤医師・歯科医師)
臨時職員、パート職員	15名

イ 健康管理

- 健康診断 年 2回 (5月、10月)
- 細菌検査 年 12回

ウ 職員会議

- 定例会 毎月1回 乳児・幼児カリキュラム会 毎月1回
- 行事前打合せ会 (随時)
- 期別反省会 (年3回) 年度末会議 6回

エ 研修計画 (研修費用)

- ・園内研修 施設見学、保育環境の学び (5万円) 安全マニュアル
- ・法人内研修 階層別・職種別研修 (10万円)

- ・私保連カウンセリング研修（32万円：江東区子育てひろば補助金）
- ・厚労省・江東区保育課・全国保育協議会・東京都社会福祉協議会・全国私保連東京私保連などによる研修（10万円）

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検（点検費用）

・

イ 設備の点検・修繕（点検・修繕費用）

- ・ 毎月の修繕費用（月3万円）
- ・ 園内消毒（10万円）

(3) 備品関係

ア 備品購入予定（購入予定費用）

- ・会議室用机（5万円）
- ・カーテン一式（60万円）

イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

- ・各クラス遊具（35万円）
- ・図書コーナー用長イス（5万円）
- ・面談室用ソファ（3万円）
- ・保健室用柵+簡易ベッド（5万円）

ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）

・

エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

- ・新園舎防犯用門扉オートロック設置（80万円）

（4）災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

避難降園訓練（引渡し訓練）年1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（120）×3食×（2日）分

（アルファ米、水、缶入り味噌汁、乾パン）

エ 防犯対策

- ・朝夕の園舎近辺の警備や自転車整理に職員が立つ。
- ・緊急時の家庭連絡法としての簡単メール（ジャクエツ）システムの活用。

3 地域社会との連携

- ・第五砂町小学校や近隣の小学校との交流、連携。
- ・ともしび伝道所、コーラスともしび（中高齢者コーラス活動）との交流、園行事の参加
- ・南砂・東陽・大島・深川北子ども家庭支援センター（みずべ）との連携
- ・発達センターCOCOとの連携
- ・二砂中学・四砂中学・都立東高校をはじめとする地元の中高生ボランティアや職業体験の受け入れ
- ・育児困難家庭や虐待が疑われるう家庭の子どもを受け入れ、子どもと家族を支えていく為に、江東区子育て支援課や子ども家庭支援センター、保健所、学校などの関係機関と連携していく。

記入者（施設長）

園長 松長 とも子

- ・ 法人の理念、保育目標をいつも念頭におき日常のなかに具現化していくことにつとめる。
- ・ 保育ブロック共通の保育課程を基にして、日々の保育を見直し、積み上げができるよう研修を深める。今年度は、「環境」をテーマに、研修をする。
- ・ 特別保育事業として H17 年度に始めた 2 時間延長保育は、年々定着し増える傾向にある。このような状況を踏まえ 2 時間延長保育の延長カリキュラムを充分検討し安定した生活がおくれるよう今年度も話し合いを深め、環境を整えていく。
- ・ 第三者評価を（保護者からのアンケート）導入して保育の質の向上につながるよう取り組んでいく。
- ・ 組織としては、異動や退職に伴い、本園リーダーの役替えをし、主任会（リーダー、分園リーダー）の役割、機能を明確にして組織的に動くよう努力する。また、特に新人職員への OJT を行い、各委員会の動きもスムーズに行えるようマニュアルの整備をする。また看護師、栄養士も専門職として役割が自覚し業務を行うよう議題の内容によっては主任会へ参画する。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：18名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（2時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障害児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年6回実施予定
- ・ お年寄りとの交流 年28回実施予定
- ・ 退所児童との交流 年7回実施予定
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年60日間受入れ予定
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 年48回・50人受入れ実施予定
- ・ 調理講習会（離乳食・幼児食） 年3回
- ・ 外国人児童受入れ（4名受入れ在籍）
- ・ 出前保育 10回
- ・ 年末保育 12/29～12/30実施予定

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つぼみ組	0歳	6名	18名	0名	
もも組 さくら組	1歳	4名	24名	0名	
たんぼぼ組 すみれ組	2歳	4名	24名	0名	
ちゅうりっぷ 組	3歳	2名	28名	0名	
ばら組	4歳	2名	28名	0名	
ゆり組	5歳	2名	28名	0名	
	その他				
合 計			150名	0名	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293日
25日	23日	26日	26日	26日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	23日	23日	23日	23日	26日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月

幼児 年2回（6月、11月）

歯科検診 年2回（5月）（2月）

蟯虫卵検査 年2回（6月、11月）

エ 保 育

保育目標（保育ブロック統一）

- 1 ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- 2 のびのびとしなやかに、体を動かして遊ぶ子ども
- 3 基本的な生活習慣が身につき、見通しをもってできることを自分でする子ども
- 4 さまざまな人との関わりを大切にし、思いやりをもって共に生きる子ども
- 5 自然や命あるものとの出会いを大切にし、豊かに感じ取り表現する子ども

主な行事予定 (行事費用)	4月	入園式 (10万円) イースター (3万円)
	5月	幼児親子遠足 (30万円)
	7月	お泊まり保育 年長組 (30万円) プール開き (5万円) 年中お泊り保育 (3万円)
	8月	サマーキャンプ(10万円)
	10月	ファミリーデイ (10万円)
	11月	いもほり遠足 (5、4歳児) (15万円) バザー子ども劇場 (8万円)
	12月	クリスマスお楽しみ会 (5万円)
	1月	子ども新年会、餅つき (3万円) 6年生の会 (3万円)
	2月	
	3月	、卒園式 (40万円) お別れ親子遠足 (15万円)
	月例行事	誕生会 (1万円)

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4回
 栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
 季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
 アレルギー児への代替食
 給食供給者としての諸管理

カ 安全管理

安全委員会を立ち上げ安全チェックリストを用いて環境の点検をする。(月1回)
 非常災害時の避難訓練 12回
 引き渡し訓練の実施(9月 1日)
 広域災害時に素早く確実に保護者に連絡をながすための訓練(かんたんメールを使用)年1回
 防犯訓練

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	22名

調理員	3名	(栄養士含む)
看護師	1名	
嘱託医	2名	(非常勤)
臨時職員、パート職員	37名	

イ 健康管理

健康診断 年 2 回 (月、 月)

細菌検査 年 1 回

給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回

ウ 職員会議

定例会 毎月 1回

行事前打合せ会 (随時)

期別反省会 (年 3回)

0才、乳児、幼児、各カリキュラム会議 毎月 1回

食事カリキュラム会議 毎月 1回

エ 研修計画 (研修費用)

・園内研修 (5万円)

・法人内研修 (40万円)

・全国私立保育団体研修(東京私保連) (30万円)

・墨田区保育団体研修 (5万円)

・その他の研修 (10万円)

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入

財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理 (出勤管理、有給休暇管理 等)

イ 児童処遇事務 (保育、給食、健康管理)

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検 (点検費用)

なし

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新（点検・更新費用）

- ・ プレールーム室内装整備・・・（100万円）
- ・ ネット整備（50万円）

ウ 地下倉庫の水もれ対策（100万円）

・

(3) 備品関係

ア 備品購入予定（購入予定費用）

- ・ IT環境のため（80万円）

イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

- ・ 2時間延長保育実施にあたり玩具をそろえる（3万円）
- ・ 分園地域活動用玩具をそろえる（2万円）
- ・ 午睡用布団購入（10万円）

エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

なし

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

3 地域社会との連携

- ・ 東駒形教会、賀川記念館との連携
- ・ 「どすこいくらぶ」のボランティアとの定期的な交流（墨田区在中のおじいちゃん）

4 人事採用他

退職職員 保育士1名（正職）

異動職員 押上保育園へ・・・保育士2名（正職）

栄養士1名（正職）

園長1名

支援センターから・・・保育士1名（正職）

採用（正職）保育士2名

栄養士1名

記入者（施設長）

園長 秋山 幸美

黎明保育園はキリスト教保育・統合保育・全人保育を理念にして地域の中で信頼される保育園として日々歩んでいる。月に一度の出前保育を始めて4年目になり、毎回参加する保護者が増えてきた。2008年度は「赤ちゃんマッサージ」「プレママのヨガ講座」などの地域活動も継続し、好評を得ている。2009年度は、午前中学童クラブ室を使つてのひろば事業（初年度は年に5回位）を計画中である。一時保育を含め地域の子育て支援機能が保育園に、今後益々必要とされるものと考え、これらの活動をさらに充実させていきたい。

<めざす子どもの姿>

1. 個性、感性が豊かな人に育つ
2. 思いやり、人を愛する心を持ち共に生きる人に育つ
3. 自分で考え、選ぶ力（主体性）のある人に育つ
4. 意欲（やる気）、忍耐力（我慢）、集中力（一所懸命）のある人に育つ

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：10名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（1歳以上児受け入れ）
- ・ 障碍児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 一時保育事業

イ 地域子育て推進

- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年36日間受入れ予定
- ・ 育児相談 毎週 金曜日
- ・ 保育所体験 年20回・20人受入れ実施予定
- ・ 子育て情報誌の発行 年12回発行予定
- ・ 年末保育 12/29～12/30実施予定
- ・ 出前保育 月1回
- ・ 一時保育母親、妊産婦支援子育て講座
- ・ 一時保育身体測定

・ひろば活動（年 5 回程度）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
ひよこ	0歳	3	10		
うさぎ	1歳	3	15		
こあら	2歳	3	18		
ひつじ	3歳	2	19		
ぱんだ	4歳	1	19		
きりん	5歳	1	19		
一時保育		3	10/日		
合 計		16	100		

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 296 日
25	23	26	25	27	24	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25	24	25年未有	23	23	26	

ウ 健康管理

健康診断

乳児（0歳児） 毎月

0歳以外の乳幼児 年2回（5月、11月）

歯科検診 年2回（6月、11月）

蟯虫卵検査 年1回（6月）

エ 保 育

各組の保育目標

きりん組（5歳児）の年間目標

- ・心身共に健康な身体で意欲的に遊ぶ。・友達同士認め合い、力を合わせて活動できる。
- ・自分で考え表現出来る。・自律して生活できる。・イエス様と共に生きる。

ぱんだ組（4歳児）の年間目標

- ・友達と一緒に充分遊ぶ。・自分の持っている力を出し合って行動する。
- ・物事に関心を深め、考え表現する。・基本的な生活習慣が身につく

ひつじ組（3歳児）の年間目標

- ・自分で出来ることは自分です。・身体を使ってよく遊ぶ
- ・友達の中で充分遊ぶ。・自分の思いや感じたことを言葉で伝える。

こあら組（2歳児）の年間目標

- ・自分のことは自分でしようとする。 ・周りの人に興味を示し、要求を言葉で伝えようとする。
- ・遊びに集中し、楽しむ。 ・全身を使った遊びを楽しむ。

うさぎ組（1歳児）の年間目標

- ・よく食べ、よく眠る。 ・欲求や要求を行動や覚えた言葉で表わそうとする。
- ・全身を使った遊びを楽しむ。 ・自分の興味のある物で遊ぶ。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ・よく遊び、よく食べ、よく眠り気持ちよく過ごす。
- ・発達に合った手足、身体の動きが見られるようになる。
- ・個々の要求や欲求を表し求めようとする。

こぶた組（一時保育）の年間目標

- ・個々のリズムや生活を大切にすること。

主な行事予定	4月	イースター礼拝（3万円）
（行事費用）	5月	親子遠足
	6月	こどもの日・花の日礼拝・訪問（2万円）
	7月	宿泊保育（年長児）（15万円）
	8月	新1年生の会（3万円）
	9月	おじいちゃん・おばあちゃん遊ぼう会（3万円）
	10月	運動会（10万円）・おまつり広場（13万円）
	11月	いもほり遠足（3・4・5歳児）（15万円） 収穫感謝祭礼拝・訪問（2万円）
	12月	クリスマスお楽しみ会（30万円）
	1月	子ども新年会、餅つき（5万円）
	2月	お別れ遠足（13万円）
	3月	お別れ会、卒園式（20万円）
月例行事		誕生会（1万円）

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 2 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理・食育の指導

カ 安全管理

安全点検（毎月 1日）

非常災害時の避難訓練

引き渡し訓練の実施・かんたんメール配信（ 9月 1日）

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	18名
調理員	2名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	1名（非常勤）
臨時職員、パート職員	18名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回（ 6 月、 10 月）
細菌検査 毎月（全職員）

ウ 職員会議

定例会 毎月 1 回
乳幼児カリキュラム会議 月 1 回 乳幼児うち合わせ週 1 回
行事前打合せ会（随時）
期別反省会（年 2 回）

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修（20万円）
- ・法人内研修（40万円）
- ・葛飾・東京都・全国私立保育園連盟・厚生労働省（100万円）

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

カ 「赤ちゃんマッサージ」「ヨガ講座」「乳児リズム遊び」「音楽講座」
「卒所児プログラム」など地域活動（30万円）

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務

・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検（点検費用）

20万円

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新（点検・更新費用）

- * 1F・調理室テント屋根張替え（50万）
- * 一時保育室受け入れ、相談室リフォーム（100万）
- *

(3) 備品関係

ア 備品購入予定（購入予定費用）

30万円

イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

幼児クラスおもちゃ棚（2クラス） 30万円

幼児カブラ 10万円

ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）

30万円

エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

下駄箱 20万円

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

20万円

3 地域社会との連携

60周年記念行事・おまつり広場・地域活動・もちつき会・保育ボランティア活動

一時保育登録児クリスマス・お楽しみ会・出前保育・妊産婦子育て、ヨガ講座・父親のための子育て講座

4 その他

記入者（施設長）

園長 土屋 恵子

- 子育て支援センター事業を行っているが、本年度から小規模型からセンター型になる予定である。これに伴い出前保育や食事体験・食に関する相談等を新たに展開していきたい。
- 本年度から新たに栄養士2名を採用する事に伴い、園児の食育や子育て支援での充実を図っていききたい。
- 御殿場教会中島牧師を招いて、毎月聖書（テキスト使用）を学び、キリスト精神について学習する。合わせて、職員会の前に牧師よりメッセージを頂いて会議に臨んでいきたい。
- 日本以外の文化にふれる為、保護者の協力を得て、まず子どもたちと英語で歌ったり遊んだりする機会を設けたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・産休明け保育実施
- ・延長保育実施（1時間延長）
- ・延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・子育て講座 年5回実施予定
- ・お年寄りとの交流 年7回実施予定
- ・退所児童との交流 年4回実施予定
- ・小中高生の育児体験受入れ 年間約100名受入れ予定
- ・育児相談 随時実施
- ・保育所体験 年6回・18人受入れ予定
- ・子育てサークル支援 1才児クラブ14回、2才児クラブ14回
- ・子育て情報誌の発行 年12回発行予定
- ・外国人児童受入れ（1名受入れ在籍）
- ・出前保育

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
ちゅうりっぷ	0歳	2	5		
たんぽぽ	1歳	3	15		
ひまわり	2歳	3	18		
もも	3歳	2	28		
すみれ	4歳	2	28		
ゆり	5歳	1	30		
	その他	3			子育て支援
合 計		16	124		

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 292日
25	23	26	26	26	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	23	23	22	23	26	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 年2回

幼児 年2回（5月、10月）

歯科検診 年1回（5月）

蟻虫卵検査 年1回（6月）

エ 保 育

各組の保育目標

ゆり組（5歳児）の年間目標

- ① 様々な活動に取り組み、仲間認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ② 様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しみ、新しい体験にチャレンジする。
- ③ 健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④ 様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・ 異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・ 人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤ 自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

すみれ組（4歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近な事がらにふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

もも組（3歳児）の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

ひまわり組（2歳児）の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みため、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

ちゅうりっぷ組（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり、発音や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ⑤・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定

(行事費用)	5月	親子遠足 (18万円)
	7月	プール開き (4万円)
	9月	敬老の日 (3万円)
	9月	運動会 (11万円)
	10月	秋の遠足 (14万円)
	11月	幼児祝福式 (2万円)
	12月	クリスマス会 (12万円)
	12月	イブ礼拝 (1万円)
	1月	雪あそび (7万円)
	3月	ふれあいピクニック (2万円)
	3月	卒園式 (22万円)

オ 栄養管理

給食供給者としての諸管理

カ 安全管理

交通安全教育（年2回）7月、11月

非常災害時の避難訓練

引き渡し訓練の実施（9月 1日）

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	14名
保育士(パート)	2名(子育て支援センター)
調理員	1名
栄養士	2名
事務員	1名
看護師	0名
嘱託医	2名(非常勤)

イ 健康管理

健康診断 年1回(11月と1月に分かれて)
 細菌検査 年24回
 調理師、保育士 毎月2回

ウ 職員会議

定例会 毎月1回(行事前打合せ会を含む)
 期別反省会(年3回)

エ 研修計画(研修費用)

- ・園内研修(11万円)
- ・法人内研修(20万円)
- ・その他研修(36万円)

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
 静岡県社会福祉協議会 従事者共済会加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理(出勤管理、有給休暇管理 等)

イ 児童処遇事務(保育、給食、健康管理)

- ・保育指導計画等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

- ア 固定遊具の設備点検（点検費用）
点検予定有り（無料）

- イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新（点検・更新費用）
（今年度なし）

(3) 備品関係

- ア 備品購入予定（今年度なし）

- イ 保育用品購入予定（今年度なし）

- ウ 給食用品購入予定（今年度なし）

- エ 固定資産物品購入予定（今年度なし）

--	--	--

(4) 災害対策

- ア 避難訓練
毎月1回

- イ 防災設備の点検委託
年2回（内、届け出1回）

- ウ 非常食糧の備蓄
○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

3 地域社会との連携

- 地域老人クラブとの交流 年7回
- 地域の文化祭に参加（出場、絵の出展）

4 その他

2009年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

<p>児童館ブロック 事業目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を担う児童館を目指します。
-------------------------	---

・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。

・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の子育て、子育て支援の拠点となるよう、活動を展開していく。 ・ 「乳幼児とお母さんのつどい」の活動を中心にお母さん同士が気軽に日常の中で情報交換や友達作りができる場とする。 ・ 乳児だけでなく、マタニティ、父親参加の活動にも目を向け、様々な形の子育て支援プログラムを行うとともに、いつでもホッとして立ち寄れるような居場所作り、環境整備を行う。 ・ 在宅で育児をしている方の支援プログラムをより多く企画し「仲間とともに楽しい育児」を支援していく。 ・ お母さんのための七宝焼教室の継続、ボランティア講師との連携 ・ 子育てをしてる親子を対象(主に0歳児)にサークルをとともに作り支援していく。 ・ ひととき保育事業(午前中)の実施(自主事業扱い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちにとって家庭に代わる、安全・安心な生活の場としての活動を行う。 ・ ひとり一人に気づき、ひとり一人が充実した毎日が過ごしていけるように、見守り、援助していく。 ・ 学童クラブの仲間として、ひとつの集団として遊び、友達関係の輪を広げ、生活経験を豊かにする。 ・ 保護者の方々にとって安心して過ごせる場であるよう支援していく ・ *墨田区学童クラブ条例に基き、家庭に変わる安全で楽しい生活の場としての役割を担う。 *今年度より分室を言問小学校内で行う。 *本館学童クラブは児童館併設、分室は学校の協力の下でのよさを生かしていく。(両クラブ同士の連携をもち育成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ センターのイベントや日常のグループ活動を中心としてたくさんの友達と知り合い、友達関係を広げ、生活経験を豊かにしていく ・ 子どもたちひとり一人が自分の力を発揮できるような活動を展開する。 ・ 友達と力を合わせて取り組む楽しさを体験、経験する。 ・ 生活スキルの向上 ・ 体力増進活動の展開 ・ 保護者の方々とともに子どもたちの居場所作りに努める ・ 世界の活動にも目を向けたボランティア活動 ・ 児童文化に触れる機会を作り、こどもたちが情操を深める場とする。 ・ 身近なエコ活動への取り組み ・ 学習支援 	<p>活動目標<健全な余暇活動の場を提供する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常に子どもたちの声を聞きながら話し合いの機会を持ち、仲間同士の利用を中心としたもの、目的を持って来館した利用をできるプログラムを行っていく ・ 活動を通して、他者を思いやる気持ちを持つ。また、スポーツ、学習、遊び、イベントを通して仲間の大切さや関わりを深める。 ・ 夜間の利用が主となるため、常に家庭との関わりを持ち、子どもたちが充実して過ごせるようなプログラム作りを展開していく。 ・ 同じ目的を持った仲間との交流(音楽室活動) <p>*学習支援活動の時間を設けいつでも学習のできる体制をとる。</p>

活動の内容・行事等	<p><乳幼児とお母さんのつどい> (午前中 10:30-11:30) 0歳児(ぱんだ)・・・毎週金曜日 ※年度後半には低月齢のクラスも実施 1歳児(うさぎ)・・・毎週木曜日 2歳児(りす)・・・毎週火曜日 3歳児(こあら)・・・毎週月曜日 ※幼稚園2年保育の方の支援クラス <幼児クラス> (午後2:30-3:30) 3歳児クラス・4歳、5歳児クラス <日常利用> ・ 幼児室安全衛生面などの整備に努める。 ・ 9:00-18:00の自由利用 ・ プレイルーム・・・広い体育室を利用した活動 遊具を準備し、交流の場として開放 水、土の午前中、午前クラス活動終了後 ランチタイム・・・11:45-13:00 <年間行事>遠足、うんどう会、劇団公演、よみきかせ、クリスマス会、子育て講座・講演会 <その他> ・ 各機関との連携(保健師、子育て相談員、保健センター、女性センター、民生委員他) ・ 子ども服リサイクル ・ 子育てサークルへの支援 ・ ひととき保育(午前中)の実施 *自主事業扱い</p>	<p><定員> *本館(さくら橋コミュニティセンター内) 60名 最大受け入れ枠 70名(障碍児含む) *分室(言問小学校内) 40名 最大受け入れ枠 40名(障碍児含む) <対象> 1年-3年(特別な事情がある場合6年迄) <育成時間> 通常 下校時間-17:00 延長 17:00-18:00 (以降は児童館で学校休業日 8:30- 育成) <年間行事> 4月 入会式 7月 父母会主催キャンプ 8月 おでかけ 12月 クリスマス会 3月 お別れ会 <日常活動> 公園あそび ・学童クラブレクリエーション 買い物体験 ・誕生日会 ・季節のイベント ・手作りおやつ ・観劇 ・グループ活動 <その他> 保護者との連携 父母会活動(共催事業 他) 面談 アンケート(区と作成) 実施</p>	<p><利用時間>下校時(9:00-) 18:00まで *グループ活動 <低学年コミュニティクラブ 1年生-3年生> ・ 学年別の定例活動 週1回 期ごと 火、木、金曜日 ・ スポーツ、手作り、生活技術体験、野外活動、ハイキング、キャンプ他 ・ 「クオレ」(ショートステイ事業)の実施 ※在宅で子育てをしている家庭への支援 <高学年コミュニティクラブ 4年生-6年生> ・ 学年を越えての活動 ・ 週2回程度 水、土曜日 ・ スポーツ、レクリエーション、おかしづくり、イベントへの準備、ボランティア活動、学習、野外活動キャンプ、ハイキング ・ 地域の福祉施設との交流 ・ 法人内児童館との交流イベント 自由利用 <日常プログラム> ・ スポーツ活動・・・設定スポーツ、自由遊び ・ 文化活動・・・映画、工作、手芸、うた、よみきかせ、おかしづくり、料理 他 ・ レクリエーション ・体力増進活動 <年間行事>こどもの日フェスタ、えんにち、ハイキング、キャンプ、クリスマス、もちつき、ポイントラリー、ひろば(子どもまつり)</p>	<p><利用時間> 下校時(9:00-) 月、水、金 19:00 火、木、土 21:00 日、祝 19:00 <中高生学生コミュニティクラブ> <高校生コミュニティクラブ> ・ 体育館を利用したのスポーツ活動 設定スポーツ、他館とのスポーツ交流 ・ 文化活動 ・ ボランティア活動 ・ 学習会 火、木 19:00-20:00 ・ 中高生タイム 18:00-19:00・21:00 ・ イベント ・ 体験学習キャンプ「ワークキャンプ」実施 <音楽室活動> ・ バンド活動 音楽室の利用貸し出し、機材の整備、技術講習会、音楽室利用者会議 ・ 年3回コンサートの実施 <ボランティア登録 ボランティア会議> ・ センター行事のお手伝いをはじめ、各種プログラムの計画、実施を行う ※ 現在では中学生から中高年までの幅広い登録がある <学校との連携> 実習、奉仕活動</p>
-----------	---	---	---	--

児童館名 さくら橋コミュニティセンター

施設長名 小原 尚子

< 2 > 職員構成

・館長 小原 尚子

・主任 _____

・児童厚生員 _____

< 本館 >

伊東 慎吾(リーダー)	
向井 太一	山田 秀治
元吉 由美子	大貫 美保
綿平 真梨江	尾崎 雄祐
中村 早希	

<言問分室>

工藤 陽子	藤田 洋司	計11名
-------	-------	------

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ 東京都児童館連絡協議会の研修
- ・ その他の研修
- ・ 防犯、安全管理、救急 等

< 4 > その他

子育て相談員による相談事業
よみきかせボランティアによるお話の会の実施
お母さんのための七宝焼き教室(毎月第3金曜)
地域(町会、育成委員会との共催事業)
ボランティアの育成
子育て支援サークルの実施
育児サークルへの支援
サポートセンターとの連携
実習生の受け入れ(高校、大学、養護学校高等部)

運営委員会の実施
「さくらの樹」 思春期(児童含む)のお子さんを持つ保護者の会
親子映画会の実施
苦情窓口の設置

指定管理

さくら橋

2009 年度 雲柱社 児童館ブロック 事業計画

<p>児童館ブロック</p> <p>事業目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を担う児童館を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験。ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
----------------------------	---	--

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<p>*親子のふれあいの促進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境の整備 2. 子育て中の親子の交流の場の拡大 3. 子どもの育ちに配慮したグループ活動の展開 3. 子育てに関する情報の提供 4. 相談活動の展開 5. 幼児を中心に家族も楽しめる行事の実施 6. 他。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放課後、安全に生活できる居場所とする。 2. 友だちとの交流を広げる。 3. 遊びを通し、心身を鍛えられていく場となる。 4. 野外活動等を通し、自然体験を深めていく。 5. 諸活動の中で、生活のスキルを体得していく。 6. 多様な人たちとのふれあいの中で、社会化を促していく。 7. グループ活動を通して、協調性を育む。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における楽しい居場所となる。 2. 地域における異年齢集団形成の場となる。 3. 活動を通して心身の健康を増進していく。 4. 地域の人たちや、友だちとの協力を通して社会性を育てていく。 5. 野外活動を通して自然に親しみ体験を広げる。 6. ボランティア活動を通し、「共に生きる」ことを学んでいく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 余暇活動の場とする。 2. 自立を支援する場とする。 3. 人間関係を広げる場とする。 4. 表現活動(主に音楽)を展開する場とする。 5. ボランティア活動の場とする。 6. その他
活動の内容・行事等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て中の親と子の居場所として機能するようにする。暖かい受け入れを目指す。 2. 乳幼児室等に玩具・絵本等の充実を図る。 3. 新生児0歳から、年齢別で、乳幼児を対象とした、グループプログラム活動を展開する。 4. 保健師・子育て相談員等の方々の協力を得て、相談活動を行う。 5. その他 6. 年間行事予定(全体行事含む) 親子ピクニック、夏祭り、乳幼児親子ファミリーデー、もちつき、親子クリスマス、冬まつり(春祭り)、その他 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 二寺小学校校舎工事終了に伴ない、昨'08年度、二寺分室は、本館内で本館学童クラブと合同で実施していたが、元の二寺小学校内へ戻る。 2. 隅田分室は、学校そのものが線路を挟んで反対側に移転のため、分室も同時に引越しとなる。新年度からは、新しい場所での運営となるので、安定した生活が送れるよう配慮する。また定数は20名増員、計60名となる。 ○本館 定数100名、実質受入120+名 ○二寺、隅田 各60名 □全体 240+名 3. 遊び 子どもの自主性と意欲を育むように指導援助する。運動系やゲーム系、各種工作類、折り紙、図画、読書、歌(音楽)、等にも取り組む。 4. おやつ 質的な向上を目指す。栄養バランス等に気をつける。手作りおやつを多くし、楽しいおやつを心がけるようにする。 5. 仲間作り 学童クラブ内で、学校のクラス(学級)を越えたお友だち作りを自らできるようにする。 6. 延長保育 17~18:00 pm (区規程)。 7. 年間特別行事等 ・誕生会(毎月)、交流プログラム(3学童交流) 野外活動(散歩、キャンプ、おでかけなど) クリスマス、他 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の活動 ・スポーツ・体力増進活動(体育室、フリーコート他)、学習・読書・手芸等(図書室・学習室)、自由遊び(館庭、館内全体)、創作活動(図工室)、等 2. グループ・スポーツ活動(団体種目) ・ドッジボール、ドッジディスク、キックベース、インドアサッカー、卓球、他 3. 週間行事 ・一輪車検定、ビデオシアター、なわとび検定、輪投げ、他 4. 月間行事 ・映画会、各種スポーツ大会、お菓子作り・お食事会(作って食べよう)、お話しでてこい、手づくり教室、手芸教室、工作タイム、他 5. 学年別グループ活動(行政名称クラブ活動) 1年、2・3年、高学年(4~6年)の3クラブ(週1回) 6. 年間行事 ・子どもの日イベント、夏祭り、夏季キャンプ、クリスマス、都民の日イベント、ハイキング、農業体験(田植え・稲刈り)、各種おでかけ、オーバーナイトハイク、春祭り、その他 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の中の居場所として機能するようにする。 2. 夜間開館する。 3. 希望を活かす形で、スポーツを中心とした活動を実施する。 バレーボール、バドミントン、卓球、サッカー、フットサル、他 4. 音楽室活動 高校生の音楽活動(バンド・グループ)の練習の場の提供、コンサート(ライブ)の開催。 5. ボランティア活動の展開 児童館事業にボランティアとして参加 6. 各種のスポーツ大会の実施 7. 中学生クラブ活動の展開 8. その他

児童館名 墨田児童会館

施設長名 鶴澤 陽

< 2 > 職員構成

3・館長 鶴澤 陽

・児童厚生員 順不同

渡辺美津子 黒田 寛 波多野 健
 上野 純子 黒沼 麻実 鈴木 弘美
 高山 瞳 並木 俊枝 渡辺 綾子
 菊池 拓也 工藤 正史 小林麻衣子
 横峯由美恵
 新規 [4月~]
 池崎香織 大沢明子 井澤 晃 小田川友佳
 家始千佳子 計18名
 産休
 古山祥代 大柄根喜子 計2名

< 3 > 研修

施設内研修
 事業部門別研修
 法人研修
 所属する自治体の研修
 その他、専門的な各種の研修

< 4 > その他

日曜・休日開館の実施(除・館内整理清掃日等)
 学童クラブ分室の運営(第二寺島小学校・隅田小学校)
 他

- 自主事業A(新'09年度より)
 幼児一時預かり事業
 原則 対象:1~3歳児、最大2名、午前中
- 自主事業B(新'09年度より)
 障害(害)児 中学生以上の学童クラブ
 原則 対象:当館の学童クラブの卒室児童
 費用他、詳細は調整準備中

2009年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童館事業ブロック 事業目標	児童館事業ブロック 1. 私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 2. 私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 3. 私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 4. 私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 5. 私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
-------------------	---

<1>事業計画

児童館名 フレンドリープラザ文花児童館

施設長名 山口 修

	子育て支援活動(乳幼児・親)	幼稚園児を対象とした活動	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中高生を対象とした活動
活動目標	子育て中のお母さんたちが、子育ての喜びや不安と向き合い、子育てを通してウェルビーイングが達成されることを目指す。 そのため、以下の点に留意をする。 ○お母さん方が気兼ねなく話をしたり、情報を交換したり友だちつくる場となる。 ○子どもたちの成長を喜び合う場となる。 ○地域に子育ての共助の輪を広げる。 ○子育てに有効な情報を提供する。 ○地域内で利用できるサービスの充実。	幼稚園児の心身の発達を促す諸活動を行う。特に、心身の調節機能を高めるためのカリキュラムや、社会的有用感の基礎となる生活体験の導入を念頭に置いた活動を行う。 基本的な活動内容は、以下のとおり。	全ての子どもが、楽しく、安全に過ごし、保護者が安心して就労できるように援助する。また、関わる人たちが協力してクラブの活動を作る。 そのため、以下の点に留意をする。 ○子どもたちにとって、家庭に代わる安全な場となる。 ○子どもたちが安心して、楽しく過ごすことのできる場となる。 ○ひとつの集団として、遊び、友達の間をを広げ、生活体験を豊かにする。 ○困難状況にある子ども、家庭に必要な援助を行う。	子どもたちにとって、居心地のよい環境づくりを土台にしつつ、小学生にとって必要な体験の機会を設け、心身の発達と情操の育ちを支援する。特に、体力の増進と社会性の涵養を促す。 そのため、以下の点に留意する。 ○子どもたちが創意工夫できるような活動を運動、文化の両面で展開する。 ○体育室活動を活性化する。 ○野外活動を積極的に展開する。 ○地域における子ども社会の再生を目指し、縦のつながりを意識した活動を展開する。	思春期の子どもたちにとって必要である、人格的な交流ができる場を目指す。 そのため、以下の点に留意する。 ○健全な余暇活動の実施。 ○子ども同士の交流を広げ、進める。 ○自己発揮の機会を作る。 ○ボランティア活動を通して、社会参加の機会を作る。 ○イベント作りなどを通して、協働の機会を作る。 ○読書会などを通して、世界の出来事や歴史を知る機会を作る。
活動の内容・行事等	<グループ活動> ・0歳児(パンダクラス)… 毎週火曜日 (参加者に応じて、2クラスに分ける) ・1歳児(うさぎクラス)… 毎週木曜日 ・2歳児(こあらクラス) … 毎週金曜日 活動時間…10:30~11:30 クラス終了後、13時まで2Fを開放 <子育てグループの活動支援> ・3歳児を保護者を対象にグループ作りと活動を支援する。… 毎週月曜日10:30~11:30 <幼児一時預かり> ・保護者のレスパイト(休息・息抜き)のために、幼児の一時預かりを行う。(5月11日より) ・対象 1~3歳児 ・受入人数 2名 ・曜日および時間 月~金曜日 午前9時~12時 ・利用者負担 500円/1時間 <子育て講座> ・年間3回 育児の参考となる講演やワークショップを行う。 <日常活動> ・幼児室…安全、衛生面等の環境整備に努る。 ・プレイルーム…お母さん方、子どもたちの交流の場として開放。 時間…10:00~13:00 曜日…月曜日 <年間行事> ・各クラス遠足 ・運動会 ・劇団公演 ・クリスマス会 ・乳幼児まつり ・子育て講座(年3回)	<設定活動> ・ちびっ子… 毎週月・火・木・金曜日 午後2時半~3時半 内容:運動遊び、集団遊び、スポーツ等 ・以下のプログラムはちびっ子の時間に行う。 ・ちびっ子映画会(隔月1回) ・ちびっ子おはなしタイム(隔月1回) ・ちびっ子ミュージックタイム(月1回) ・ちびっ子製作タイム(月1回) ・トランポリン(月1回) <年間行事> ・遠足 ・クリスマス会	<定員> 定員60名(今年度は、85名程度の登録児童数で開始) <育成時間> ・通常…下校時間~17:00 ・延長…17:00~19:00 ・学校休業日…8:30~ <年間行事> ・入会式 ・親子遠足、ハイキング ・お出かけ ・お別れ会 ・誕生会 <その他> ・お便りの発行(月1回)	<低学年フレンドリークラブ 1~2年生> ・学年別、年3期に分けて定例活動(各学年週1回) ・ハイキング、キャンプ、デイキャンプ <フレンドリークラブ子ども会議3~6年> ・活動日…毎週水・土曜日 5:00~6:00 スポーツ、お菓子作り、イベントの準備、テーマに沿った話し合い等を行う ・ボランティア活動 ・キャンプ、ハイキング、デイキャンプ <スポーツ活動> ・設定スポーツ 週4回 ・スポーツ大会 月1回 <文化部門> 映画会、工作、手芸、お話の時間、うたの時間 <クッキングクラブ> 月2回 今年度は食育にも着目し、保護者への働きかけも行う。 <年間行事> こどもの日、えんにち、クリスマス、餅つき、ポイントラリー、合宿	<中学生フレンドリークラブ> ・19時までは自由来館 ・19時以降 月、木、金 …学習会活動、各種スポーツ ・子ども会議(トーキングタイム) ・お菓子作り ・スポーツ大会 ・合宿 ・体験学習キャンプ ・キャンプ、デイキャンプ、ハイキング等の野外活動 ※高校生は、中学生と合同で活動を行う。 <音楽室活動> ・中高生のバンド活動の支援 …音楽室の貸出し、機材の整備 ・年2回コンサートの開催

2009年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童館ブロック 事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
-----------------	---

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	① 親と子の居場所環境の整備。 ② 子育て中の親子の交流の場の拡大。 ③ 子どもの育ちに配慮したグループ活動の展開。 ④ 子育てに関する情報の提供。 ⑤ 相談窓口として活動の展開。 (専門機関・行政との連携) ⑥ 幼児を中心に家族も楽しめる行事の実施。 ⑦ 子育て中の母親を対象としたプログラムの実施。 ⑧ その他	① 放課後、安全に生活できる居場所とする。 ② 友達との交流を広げる。 ③ 遊びを通して、心身を鍛えられていく場となる。 ④ 野外活動などを通して、自然体験を深めていく。 ⑤ 諸活動の中で、生活のスキルを体得していく。 ⑥ 多様な人たちとふれあう中で、社会化を促していく。 ⑦ グループ活動を通して、協調性を育む。	① 地域における第3の居場所となる。 ② 地域における異年齢集団形成の場となる。 ③ 活動を通して心身の健康を増進していく。 ④ 地域の人たちや、友達との協力を通して社会性を育てていく。 ⑤ 野外活動を通して自然に親しみ、体験を広げていく。 ⑥ ボランティア活動を通し、『共に生きる』ことを学んでいく。	① 中・高校生の余暇活動の場として。 ② 中・高校生の自立を支援する場として。 ③ 中・高校生の人間関係を広げる場として。 ④ 中・高校生の表現活動を展開する場として。 ⑤ 中・高校生のボランティア活動の場として。 ⑥ 中学生の障害児受け入れ（中高生ルーム）
活動の内容・行事等	① 妊婦（安定期前後で分けて）を対象とした行事を行う。（月1回） ② 子育て中の親と子の居場所として機能するようにする。乳幼児室に玩具・絵本・親用の情報雑誌や子育てのための専門誌を置く。 ③ 新生児0歳から2歳までの乳幼児を対象とした、グループ活動を展開する。 ④ 保健師・子育て相談員の方々と協力を得て、相談活動を行う。 ⑤ 幼稚園児（3～5歳）を対象とした、放課後対策活動を展開する。 ⑥ 光の園保育学校と共催して地域の乳幼児を対象とした出前保育を月1回行う。 ⑦ 年間行事 ・ 親子えんそく・こどもの日スペシャル ・ 夏祭り・親子運動会・都民の日スペシャル・ハロウィンパーティー・外手合同クリスマス・親子スポーツ大会・芋煮会・もちつき・他	① 遊び 子どもの自主性と意欲を育むように指導援助する。 ② おやつ 栄養のバランス等に気をつける。手作りおやつを多くし、子どもにとって楽しいおやつを心がける。また季節のくだものや風習の食べ物もつけ加える。 出来るだけ3学童クラブのおやつを統一していく。 ③ 延長保育 17:00～18:00（区規定） ④ 年間行事 誕生会（月1回）・買い物おやつ（月1回）・手作りおやつ・工作・手芸・野外活動・クリスマス・長寿会参加（二葉）・他 ⑤ 二葉・業平分室は本館学童と異なるため、その部屋にあう玩具類を提供する。	① 日常の活動 スポーツ活動（体育室）、学習や読書及び創作活動（図書室） ② グループ・スポーツ活動 ドッジボール、ユニホック、キックベース、インドアサッカー、ポートボール、他 ③ 週間行事 一輪車検定、ビデオシアター、パターボーリング、レクタイム（低・高）、他 ④ 月間行事 映画会、各種スポーツ大会、読み聞かせ、手作り教室、手芸教室、昼食会他 ⑤ 学年別グループ活動（行政名称クラブ活動） 1. 2. 3年及び高学年（4～6年）の4グループ（週1回） ⑥ 年間行事 夏祭り・野外活動・赤い羽根共同募金（街頭）・ユニセフハウス・クリスマス・ミニ縁日・合宿、オーバーナイトハイク、七福神めぐり（高学年サイクリング）その他 ⑦ 学習会支援 勉強会毎週水曜日 18:00～18:45	① 地域の中の中高生の居場所として機能するようにする。夜間開館する。 ② スポーツを中心とした活動 ドッジボール、バレーボール、バドミントン、卓球、サッカー、ゴルフ、他 ③ ボランティア活動の展開 児童館事業にボランティアとして参加 ④ 各種のスポーツ大会の実施（屋内） ⑤ 軟式野球大会の実施（年3回） ⑥ 中学生クラブ、高校生クラブ活動の実施 ⑦ 月間行事 映画会、クッキング、定例会、他 ⑧ 年間行事 夏祭り、キャンプ、合宿、ハイキング、サイクリング、オーバーナイトハイク他

児童館名 フレンドリープラザ 外手児童館

施設長名 森 裕樹

< 2 > 職員構成

・ 館長 森 裕樹

・ 主任 青木 郁夫

・ 児童厚生員

丸山 淳一 池田 洪作

藪内 愛 小林 卓生

新谷 麻帆 坂本 舞

名智 望美 富永 裕美

池田 咲子 柏谷 智美

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ その他の研修

< 4 > その他

- (1) 日曜・休日開館の実施
- (2) 学童クラブ分室の運営
 (家庭センター・業平分室)
- (3) 相談事業開設（専門機関との連携）
- (4) 中学生障害児学童受け入れ事業
- (5) 幼児ひととき預かり事業
- (6) 青年部事業
- (7) 高齢者憩いの場事業

指定管理

外手

児童館ブロック 事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、子どもたちの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
-----------------	--

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動 目 標	<p>○子育てをしている親同士の憩いと交流の場を設け、子育ての喜びや楽しさを共に分かち合える環境作りを目指す。</p> <p>○子育て講演会など育児に関わる知識を得る機会を積極的に設けると同時に、保護者の育児に対する悩みや不安を気軽に話してもらえりような雰囲気を作っていく。</p> <p>○わが子とのふれあいの時間を楽しく過ごせるようなプログラムやイベントを考案し、随時実施していく。</p>	<p>○子ども達にとって自分の家庭と同じように、安全かつ安らかな気持ちで過ごせるような居場所作りを目指す。</p> <p>○それぞれ年齢が異なる集団の中での生活や遊びを通じて、人間関係を前向きに築いていこうとする意欲や社会性、他人を思いやる心を育てていく。</p> <p>○保護者との連絡を密に取り、子ども達のクラブ内での生活の様子を積極的に伝え、親子関係の発展や家庭における育児機能の維持と向上をサポートする。</p>	<p>○地域に住む子ども達が自由に遊びに来れる安全な居場所作りを目指す。</p> <p>○毎日の遊びや人間関係の中で起こる様々な経験を通じて、子ども達の心身の成長を支えていく。</p> <p>○子ども達が自分の気持ちを気軽に打ち明けられ、日々を楽しく過ごせる支えとなるための信頼関係を築く。</p> <p>○同世代のみならず、様々な立場や年齢層の人々と交わることで、コミュニケーション力を培う。</p>	<p>○中・高校生が放課後の時間を健全に過ごせる余暇活動の場とする。</p> <p>○勉強や進路相談、人間関係の悩みなどについても親身になって対応し、共に考えながらも本人が自ら結論を選べるような関わりを作っていく。</p>
活 動 の 内 容 ・ 行 事 等	<p>乳幼児・年齢別グループ活動</p> <p>☆0歳児 (赤ちゃんぽんだ) 毎週火曜 10:15～11:00 (ぼんだ) 毎週火曜 10:30～11:15</p> <p>☆1歳児(うさぎ) 毎週木曜 前半 10:00～10:45 後半 11:00～11:45</p> <p>☆2歳児(こあら) 毎週金曜 前半 10:00～10:45 後半 11:00～11:45</p> <p>☆3歳児(りす) 毎週月曜 10:00～10:45</p> <p>※クラス終了後は14時頃まで集会室開放。</p> <p>一般利用</p> <p>○遊戯室の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも利用できる乳幼児専用の部屋 乳児専用スペースもあり。 ・安心して利用できるように、飲食・授乳・おむつ交換・午睡等ができる場所も確保。 <p>○集会室の開放(プレイルーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日の9:00～13:00に設定。 ・遊具や巧技台を使って、親子で自由に遊べる時間。 <p>○育成室の開放(プレイルームひよこ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週月曜日の10:00～12:00に設定。 ・0歳児とその保護者の憩いと交流の場。 <p>○出前保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回、11:00～11:45に実施。 ・児童館前の公園(清澄児童遊園)にて、主に乳幼児親子対象のプログラムを展開する。加えて様々な地域住民の参加や、民生委員の協力も募る。 ・子育てプログラムの機能や効果をより多くの親子に体験してもらおうと共に、親子と地域住民が良い関係を築くことで、育児や保育に対する地域の理解を高める場とする。 <p>年間行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会 ・遠足 ・子育て講座 ・こどもの日フェスタ ・子ども服リサイクル ・夏まつり ・秋まつり ・クリスマス会 ・冬まつり 	<p>(定員) 115名</p> <p>(育成時間) 通常 : 下校時～17:00 延長～18:00 学校休校日 : 8:00～17:00(～18:00)</p> <p>(通常の流れ) 来室→宿題→遊び→おやつ→休憩→あそび→帰りの会・帰宅(延長保育)</p> <p>(あそび) けん玉・こま・わなげなどの昔遊びをはじめ、育成室ではおままごと・レゴブロック・粘土遊び・お絵かき・読書・工作・パズルゲームなどが自由に遊べるよう、それらの器具が室内に常時設置。 また併設されている児童館の設備や遊具を使用し、上記の遊びに加えて各種スポーツや一輪車・ボードゲームなども楽しめるよう設定している。</p> <p>(行事) 入会式・館内合宿・秋の遠足(年2回)・キングコンテスト(月例ゲーム会)・ハロウィンパーティー・水遊び・クリスマス会・節分・深川北部ドッジボール大会・お別れ遠足</p> <p>(毎月のプログラム) 誕生日会・キングコンテスト(ゲーム会)・おたのしみおやつ・避難訓練</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規入会児童対象説明会 (3月) ・保護者会 (5月・7月・3月) ・個人面談 (11月～12月) ・クラブだより (毎月1回発行) ・父母会主催の交流会 (年2回) 	<p>月間活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手芸タイム ・わなげ大会 ・一輪車検定 ・おはなし会 ・ビデオシアター ・手づくり工作 ・映画会 ・スポーツ大会 ・避難訓練 ・レッツダンス <p>週間活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツタイム (5つの種目を日替わりで展開) ・1年生組織活動 (1年生スマイルクラブ) ・2・3年生組織活動 (2・3年生スマイルクラブ) ・高学年組織活動 (高学年スマイルクラブ) <p>年間行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの日スペシャル(地域めぐりラリー) ・相撲大会 ・夏まつり ・キャンプ(2～3年生・高学年) ・オーバーナイトハイキング ・秋まつり ・いもほり遠足(低学年) ・1年生合宿(1年生) ・おでかけ合宿(高学年) ・クリスマス会 ・冬まつり ・雲柱社交流ドッジフェスタ ・深川北部ドッジボール大会(低学年) ・国際交流まつり(年3回) <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おたよりの発行(月1回) 	<p>日常利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館時間 月曜日～土曜日 9:00～19:00 第1・3・5日曜日 9:00～18:00 ・中高生専用時間(中高生タイム) 18:00～19:00 <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会 ・お菓子作り ・手芸教室 ・体験学習キャンプ ・クリスマスパーティー <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビリヤードセットの設置

< 2 > 職員構成

・館長 松原 万紀子

・リーダー 齋藤 智子

・児童厚生員

山田 英

濱崎 久美子

信田 哲兵

柴 智恵美

露木 裕子

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修

< 4 > その他

2009年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童館ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験。ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> 私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を担う児童館を目指します。 	

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> 子育て中のお母さんと乳幼児が、家から出て気分転換できる場としていく。 子育て中の親同士の交流の場となり、仲間作りの場となっていくように年齢に応じた活動を展開していく。 子育ての悩み、不安が気軽に言える場となるように子育て相談、講演など、地域の公共機関などと協力して展開していく。 子育ての息抜きとなり、また楽しくしていくために、様々なニーズにあったイベントを展開していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後並びに学校休業日、保護者が就労その他の理由でいない家庭の児童を対象に、生活の安全と楽しい遊び、様々な体験の場を提供し、その発達を支援する。 基本的に、江東区条例に沿って事業を行う。 保護者と協力し、円滑なクラブ運営を行い、子供たちの成長発達に必要な支援をしていく。 地域の人との交流や協力により、地域に根ざした学童クラブを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のこどもたちが自由に来られる居場所となる。 遊びを通して心身の成長が促される場となる。 異年齢児との関わりの中で社会力が培われる場となる。 スポーツなどを通して基礎的な体力向上を図り、身体を動かすことを楽しむ場となる。 表現活動や創作活動を楽しむ場となる。 すぐれた児童文化財に触れる場となる。 イベントを創り上げる過程を通して協調性を養い達成感を味わう場となる。 自然体験、ボランティア活動などを体験して、社会とのつながりを持つ場となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校、家庭とは異なった居場所、親しい仲間との交流、社会参加や多様な体験の場としていく。 親や教師とは異なった職員（意味ある他者）との協働によって活動を展開していく。 趣味やスポーツ、ボランティアを通して自己実現を図る。 中学生（高校生）たちが持つ諸問題に誠実に対応していく場とする。

活動の内容・行事等	年齢別クラス活動	学童クラブ	児童館の施設利用	日常活動
<p>その他</p> <p>あそび場、プレイルーム、パパと遊ぼう、幼稚園児対象特別活動、等</p> <p>年間行事</p> <p>こどもの日は児童館で遊ぼう、子供服リサイクル、なつまつり、子育て講座、親子日帰り外出、乳幼児運動会、劇団公演、クリスマス会、ふゆまつり、夏休み特別活動（プール遊び等）</p>	<p>年齢別クラス活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 0歳児低月齢クラス（赤ちゃんばんだクラス） 毎週火曜日 11:00～11:45 0歳児高月齢クラス（ばんだクラス） 毎週火曜日 11:00～11:45 1歳児クラス（うさぎクラス） 毎週木曜日 10:30～11:30 2歳児クラス（こあらクラス） 毎週金曜日 10:30～11:30 3歳児クラス（りすクラス） 毎週月曜日 10:30～11:30 	<p>育成時間</p> <ul style="list-style-type: none"> 通常時間 学校終了後～17:00 延長育成 17:00～18:00（必要に応じ19:00） 学校休業日（振休、長期学校休業期間、等） 8:00～18:00（必要に応じ19:00） <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常活動 下校～学習～おやつ～自由遊び、クラブのプログラムや児童館の活動に参加～お帰りの会～延長育成 <p>年間行事</p> <p>入会式、入会進級お祝い会、春・夏の交通安全運動、交通安全教室、おもしろおやつ（買い物体験、魚釣り、宝探し、ハロウィン、節分、他）、季節の製作（こどもの日、七夕、敬老の日、勤労感謝の日、他）、亀戸レストラン（昼食会）、観劇会、遠足、引き渡し訓練、クリスマス会、大掃除、お別れ会、思い出文集作り、地域の施設訪問、児童館行事への参加・協力</p> <p>月例行事</p> <p>お誕生会、大型布芝居制作、防災訓練、公園遊び</p>	<p>児童館の施設利用</p> <p>利用時間 午前9:00～午後5:30（冬期5:00まで）</p> <p>1階ホール（図書コーナー、バンパー、テーブルゲーム、等） 2階 乳幼児室、集会室（卓球、バドミントン、バスケット、ユニホック、ボール遊び、等） 玄関前（縄跳び、ぼっくり等の遊びのスペース）</p> <p>学年別グループ活動『かめっ子』</p> <p>グループ活動を通して遊ぶ、学ぶ、ボランティアを活動目標に、スタッフと地域を超えたこどもたちの交流。</p> <p>かめっ子1年生 毎週月曜日 3:30～4:30 かめっ子2年生 毎週火曜日 4:30～5:30 かめっ子3年生 毎週木曜日 4:30～5:30 かめっ子高学年 毎週金曜日 4:30～5:30</p> <p>日常プログラム（週間、月間プログラム） 設定スポーツ、ビデオシアター、一輪車タイム、手作りタイム、卓球クラブ、お話の会、スポーツ大会、バンパー大会、輪投げ大会、お菓子作り、手芸タイム</p> <p>年間行事</p> <p>1年生歓迎会、こどもの日は児童館で遊ぼう、江東こどもまつり、なつまつり、亀戸地区まつり、交流フェスタ、クリスマス会、交流ドッチフェスタ、ふゆまつり、日帰り外出、館内合宿、キャンプ、等</p> <p>その他</p> <p>地域清掃、エコキャップ収集、使用済み古切手収集、募金活動</p>	<p>日常活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動時間 通常は5:30～7:00 小学生活動棲み分けを行う 利用時間 月曜日～土曜日 午後5:30～7:00 日曜日 午後5:00～6:00 <ul style="list-style-type: none"> 児童館の施設を利用してスポーツ（卓球、バスケット、バドミントン）、読書、バンパー、娯楽玩具（UNO、トランプ、ドミノ、ジェンガ、ボードゲーム、他）、ビデオ等で過ごせるようにしていく <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生（高校生）たちの自主活動を積極的に支援（場所提供、用具、その他）していく。 自然体験、ボランティア活動、野外活動や体験学習キャンプ（夏期に障害者施設にてボランティアを兼ねて体験学習キャンプ、じ土管活動のサポート、支援等いろいろな体験をする。 中学生（高校生）の意見を聞いて音楽鑑賞、学習支援、手作り教室、手芸教室、館内合宿、サイクリング、クリスマス会を開催したり、バンパー大会、ドミノ大会等を企画運営していく。 クッキング、TVゲーム大会や他館との合同行事に参加したり、スポーツ交流を深めて地域を越えた活動にも取り組んでいく。

計 7名

児童館名 亀戸児童館

施設長名 永澤 和男

< 2 > 職員構成

・館長 永澤 和男

・リーダー 井 哲平（大4学童兼務）

・児童厚生員

佐々木 奈津絵
長竿 友里
鈴木 洋一郎
滝口 亜沙美
西村 奈巳
荒木 薫

< 3 > 研修

施設内研修
児童館ブロック研修
法人研修
所属する自治体の研修
その他の研修

< 4 > その他

指定管理

亀戸

2009年度 児童館ブロック事業計画

<p>児童館ブロック事業目標</p> <p>1 私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。</p> <p>2 私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事等への参加を通して社会力を培う児童館を目指します。</p> <p>3 私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。</p>	<p>4 私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。</p> <p>5 私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見にたち向かう力を育む児童館を目指します。</p>
--	---

児童館名 汐入ふれあい館
 施設長名 伊藤 美智子

< 1 > 事業計画

活動目標	子育て支援活動 (乳幼児・親)	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動	成人を対象とした活動	貸 館
活動目標	地域で乳幼児を育てているお母さんたちが集い、交流し子どもとの関わりを楽しみ子育ての情報交換や悩みを相談できる場と活動を提供して子育て支援をしていく。	*家庭に代わり安全で安心して過ごせる居場所となる。 *友達との交流 遊び、集団での活動を通し、社会性を育てていく。 *いろいろな活動に取り組み生活経験を豊かにしていく。 *保護者が安心して働けるような対応をしていく。	学校とは異なる環境で異年齢の交流を大切にしつつ遊びやグループ活動を通して、子どもの生きる力を培っていく。	学校や家庭とは異なった他者との関係を広げながら、その関わりの中で自立への力を積み重ねるようにしていく。	*大人の方の居場所・交流の拠点としてのプログラムを企画展開していく。 *生活を豊かにし、楽しめる活動を提供していく。 *日常の生活の中で自然に子どもと関わったり、行事等を共に行ったりして、子どもたちとの交流を促進していく。	地域の方の自主的な活動の拠点を提供する。
活動内容・行事等	クラス活動 0歳児 毎月曜日 こぱんだクラス 10:15～10:45 ぱんだクラス 11:15～11:45 1歳児 毎火曜日 うさぎAクラス 10:15～10:45 うさぎBクラス 11:15～11:45 2歳児 りすクラス 毎木曜日 10:30～11:30 2歳児 こあらクラス 毎金曜日 10:30～11:30 3歳児 ひつじクラス 毎木曜日 14:00～14:45 4、5歳児 きりんクラス 第2,4木曜日 15:00～16:00 子育て講座： 救急法 離乳食 歯の話 講演会 パパも遊ぼう、じいじばあばも遊ぼう： 焼き芋会 運動会 観劇 遠足 ハロウィン クリスマス お母さんの為の映画会 毎月1回 託児も行う。 プレイルーム 20時まで開放 体育室に玩具 13時まで開放 子ども服リサイクル：隔月 子育てひろば事業：相談等 夏祭り、ふれあい祭り	行事 新入会者歓迎会 お出かけ 夏祭り ドッジボール大会 合宿 ハロウィンパーティ クリスマス会 お別れ遠足 毎月： 誕生会 お店やさん (おやつ) 日常活動： 手芸 製作 ゲーム 読書 宿題等 手作りおやつ：1ヶ月に数回 毎月発行： 学童クラブ便り おやつ献立表 親子交流会： 年2回程度 保護者会： 年4回 個人面談： 年1回 他随時受ける。 汐入小、七峡小学童クラブとの交流	多目的室 設定スポーツ：ドッジボール バスケッ ト サッカー タスケ キックベース等 自由遊び：一輪車 縄跳び等 一年生タイム：ドッジ レク 体力増進活動 創作室 自由工作 折り紙タイム 絵手紙タイム 絵手紙教室 (講師) 木工 木工道 (木工製作) 手作りタイム 手芸タイム 図書室 お話会：素喃 パネルシアター 料理タイム 手話と歌 サロン 囲碁 オセロ等のゲーム 雑誌 和室 映画会 合宿 年間行事 お出かけ キャンプ 夏祭り クリスマス ふれあい祭り ソルティークラブ 高学年クラブ活動：スポーツ 料理 ボランティア 合宿等	中学生タイム 多目的室 月～土曜 18～18時45分 バスケッ ト 卓球 3on3 野球等 設定スポーツ大会 サロン 月～日曜日 18～19時 バスケッ トピンポン 雑誌 ダーツ ゲーム類等 図書室 不定期 手芸 学習 創作室 第4水曜日 17～18時 ギター教室 (魁ギター塾) 行事 クリスマス会 新年会 合宿 体験学習キャンプ 夏祭り ふれあい祭り	多目的室 大人のスポーツタイム 毎火曜日 14～15時 毎金曜日 19～21時 卓球 バトミントン等 健康体操 毎火曜日 13～14時 健康な生活を目指し 基礎的な運動を行う。 サロン パソコン教室 毎月4回コース 折り紙タイム：毎月2回 マッサージ機 ヘルストロン 雑誌 大型テレビ 血圧計 和室 カラオケ 金曜日 13～15時 映画会 第4金曜日 13時～ ふれあい寄席：5月 落語家2名 老人クラブ3団体 サークル1 踊り カラオケ わなげ等 毎日 和室 図書室にて活動。 ころばん体操 多目的室 毎金曜日 13～15時 荒川ふれあい館交流フェスタ 年1回 夏祭り、ふれあい祭り 成人向けお知らせ作成、配布	平日 19～22時 日祝日 9～22時 図書室 創作室 和室 多目的室 の貸し出し業務と 還付業務を行う。 館備品の貸出し。 囲碁サークルの 活動支援。

< 2 > 職員構成

- ・ 館長 伊藤 美智子
- ・ リーダー 寺内 正訓
- ・ 児童厚生員
 - 酒井 恵 鈴木有美子
 - 鈴木 文 金井 紀子
 - 岩澤 和樹 堀兼 良佑
 - 穂積 卓 守屋真知子
 - 大谷 真 大野佳奈子
 - 渡邊 渉子 塚本 由樹
 - 井上 誠子 町田 詠美
 - 伊藤 恭子 浅見 啓太
 - 松本 歩美 大河内千鶴

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ その他の研修

< 4 > その他

- ・ 年末、年始以外は全日 8:30～22:00 の開館。
- ・ 0歳児からお年寄りまで 全世代に対応した活動。
- ・ 学童クラブ室
 - * 汐入学童クラブ 定員 100名
 - * 汐入小学童クラブ 定員 80名
 - * 七峡小学童クラブ 定員 60名

荒川区は待機児を出さない方針で申請があれば定員を超えても受け入れていく予定。すでに汐入小クラブが定員を超えている。

2009年度 児童館ブロック事業計画

児童館ブロック事業目標 1 私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 2 私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事等への参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 3 私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。	4 私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 5 私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見にたち向かう力を育む児童館を目指します。	
---	--	--

児童館名 汐入小学童クラブ
 施設長名 伊藤 美智子

< 1 > 事業計画

< 2 > 職員構成

	子育て支援活動 (乳幼児・親)	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動	成人を対象とした活動	貸 館
活動目標		*家庭に代わり安全で安心して過ごせる居場所となる。 *友達との交流 遊び、集団での活動を通し、社会性を育てていく。 *いろいろな活動に取り組み生活経験を豊かにしていく。 *保護者が安心して働けるような対応をしていく。				
活動の内容・行事等		行事 新入会者歓迎会 お出かけ 夏祭り 各スポーツ大会 合宿 ハロウィンパーティ クリスマス会 遠足 毎月： 誕生会 お店やさん (おやつ) 日常活動： 手芸 製作 ゲーム 読書 宿題等 手作りおやつ： 1ヶ月に数回 毎月発行： 学童クラブ便り おやつ献立表 親子交流会： 年2回程度 保護者会： 年4回 個人面談： 年1回 他随時受ける。 汐入、七峡小学童クラブ交流				

- ・ 館長 伊藤 美智子
- ・ 児童厚生員
 浅見 啓太
 伊藤 恭子
 松本 歩美
 大河内千鶴

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ その他の研修

< 4 > その他

* 定員 80名

荒川区は待機児を出さない方針で実数は定員を超え120名まで受け入れる予定。

* 汐入ふれあい館
 汐入学童クラブ、七峡小学童クラブと共に活動を作っていく。

2009年度 児童館ブロック事業計画

児童館ブロック事業目標 1 私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 2 私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事等への参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 3 私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。	4 私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 5 私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見にたち向かう力を育む児童館を目指します。
---	--

児童館名 第七峡田小学童クラブ
 施設長名 伊藤 美智子

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動(乳幼児・親)	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動	成人を対象とした活動	貸 館
活動目標		*家庭に代わり安全で安心して過ごせる居場所となる。 *友達との交流 遊び、集団での活動を通し、社会性を育てていく。 *いろいろな活動に取り組み生活経験を豊かにしていく。 *保護者が安心して働けるような対応をしていく。				
活動の内容・行事等		行事 新入会者歓迎会 お出かけ ハロウィンパーティ 各種スポーツ大会 合宿 クリスマス会 遠足 毎月： 誕生会 お店やさん(おやつ) 日常活動： 手芸 製作 ゲーム 読書 宿題等 手作りおやつ：1ヶ月に数回 毎月発行： 学童クラブ便り おやつ献立表 親子交流会： 年2回程度 保護者会： 年4回 個人面談： 年1回 他随時受ける。 汐入、汐入小学童クラブ交流				

< 2 > 職員構成

- ・ 館長 伊藤 美智子
- ・ 児童厚生員
 塚本 由樹
 井上 誠子
 町田 詠美

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ その他の研修

< 4 > その他

* 定員 60名

荒川区は待機児を出さない方針で申請があれば定員を超えても受け入れていく予定。

* 汐入ふれあい館
 汐入学童クラブ、汐入小学童クラブと共に活動を作っていく。

2009年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

<p>・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。</p> <p>児童館ブロック・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通じて社会力を</p> <p>事業目標 培う児童館を目指します。</p> <p>・私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。</p>	<p>・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。</p> <p>・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。</p>
---	---

児童館名
 狛江市立岩戸児童センター
 狛江市子ども家庭支援センター
 施設長名 佐藤 洋子

< 1 > 事業計画

	子育てひろば事業	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児と保護者の安心した居場所となる。 ・保護者が保護者同士や異世代間の交流を持ち、視野を広げる場となる。 ・地域に存在する子ども家庭支援システムと、有機的な協力体制を構築し、ソーシャルワークの視点に立つ相談、支援サービス実施する。 ・支援センターとして関係機関とのネットワークを形成し、虐待の予防・防止対策に取り組んでいく。 ・利用者との関わりや、相談事業を充実させる (お母さんの自主プログラム実施、グループ懇談や参加型講座) 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな生活背景を持つ子どもを受け止めながら、児童が安心して過ごせる場所となる。 ・自由な遊びの時間を通じて児童の心と体の成長を促す。 ・児童と児童、児童と職員間の交流を通じて人格の交流をもつ。 ・児童センターとの併設を活かし、異年齢集団での人間関係を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由来館児童を積極的に受け入れる。 ・日常活動を大切にし、地域の子どものための居場所となるよう丁寧な受け入れをする。 ・児童センターを中心とした異年齢、異世代間の交流をはかる。 ・スポーツ・児童文化等に親しむ場、生活スキルを学ぶ場となる。 ・地域交流活動を積極的に取り入れ、地域に根付き、発信する児童館を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生の積極的受け入れ ・自主企画プログラムのサポート ・中高生ボランティア活動の促進 ・中高生ボランティア活動の促進 ・社会参加の場となる。 ・地域のボランティアを募り音楽活動を通じて様々な体験ができる場とする。
活動の内容・行事等	子育て相談事業 (プレイルーム開放 9:00~18:00) つどいの場提供事業 <ul style="list-style-type: none"> ・よちよちクラブ (1才親子活動) ・とっこクラブ (2才親子活動) ・ねんね赤ちゃんプレイルーム ・わんぱくプレイルーム 子育て啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児食教室 ・年齢別親子講座 	班活動を通じての生活体験 学童児独自の活動実施 (センター合宿、遠足、料理など) 親子参加の活動や保護者向け活動 親子ごはん会、カフェ、行事の保護者ボランティア募集 定員 概ね50名 (2008年度は39名) 内障がい児4名 育成時間 通常下校時~19:00 休校日 8:30~19:00 延長保育 19:00~20:00 対象 小学1年生~6年生	《日常プログラム》 スポーツタイム スポーツ大会 卓球教室 低学年・高学年タイム ビデオシアター 映画会 おはなし会 アトリエ 工作タイム 料理教室 折り紙教室 未来キッズ スタッフタイム 夏休みプログラム 出張児童館 音楽教室 《組織活動》 1年生ロッキークラブ 2・3年生ロッキークラブ 高学年ロッキークラブ 《行事》 1年生歓迎会 デイキャンプ センター合宿 えんいち サマーキャンプ オーバーナイトハイク ファミリースポーツデー 雪国家族キャンプ ロッキーマーケット	中高生タイム (月~土6:00~7:00) 中高生スペシャルタイム (月1回スポーツ大会など) 中高生音楽グループ活動 (月2回) 中高生センター合宿 『音魂』ライブ オーバーナイトハイク 自習室
重点課題	全体業務・行事 図書室開放、図書貸出、縁日、餅つき、ハロウィン、クリスマス、音楽会、たんぼぼ・ロッキーマーケット、他 ①利用者のニーズに丁寧に応えることのできる、専門性をもった職員集団を目指す。 ②他機関との連携とともに、センターの独自性を活かし地域にあって喜ばれる施設となる。 ③各事業の目的をはっきりと持ち、内容の充実をはかり、日常活動を活性化させる。利用者との共感関係をもち、センターから地域の子ども文化や子育て情報を発信する。			

< 2 > 職員構成

- ・センター長 佐藤 洋子
- ・リーダー 坪田 潤一郎
- ・子ども家庭支援センター担当職員
宮内友紀、日下美恵子
- ・学童クラブ担当職員
加藤麻衣・篠原光太郎
- ・児童館担当職員
低学年 高田智也 篠原光太郎
高学年 木村香奈子
中高生 坪田潤一郎

< 3 > 研修

- ・職場内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・外部研修

< 4 > その他

2009年度(平成21年度)事業計画書

施設名: 狛江市子ども家庭支援センター

記入者: 佐藤 洋子

<p>事業の内容と展開</p>	<p>1. 子ども虐待防止対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待通告・相談の窓口: 市担当課と共に第一の窓口を担う。必要に応じて情報収集し、協議のうえ、関係機関を召集・サービス提供・指導・訪問などを適宜行う。 ・見守りサポート事業: 児童相談所と連携し、虐待家庭等に対して、訪問・サービスの活用等の支援を行う。 ・虐待防止支援訪問事業: 健康支援課・保健所等の関係機関と連携し、虐待を未然に防止するために訪問等を行う。 ・育児支援ヘルパー事業: 要支援家庭のための産前・産後支援ヘルパー派遣 ・在宅サービス基盤整備事業: 養育家庭の普及に努め、体験発表会の開催 <p>2. 地域組織化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいタイム・わくわくwork・子ども服りサイクル・ファミリーDAY・中川さんと話そう・誕生日会・他 ・あそびの広場(学童保育室の午前中を利用して)出張事業<<市内2ヶ所各月1回遊びや体操の提供・相談>> <p>3. 子育て相談事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろば相談・面接相談・電話相談・FAX,メール相談・専門相談(あいとびあ出張育児相談) <p>4. サービス提供事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時保育・ショートステイ・育児支援ヘルパー <p>5. 情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て情報の提供・ホームページでの情報発信・リサイクル情報・たんぽぽ通信 <p>6. ネットワーク、人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各専門機関の担当者との連携強化・運営協議会開催・専門職ボランティアの登用 ・研修強化(相談員研修、スーパーバイザー依頼、ボランティア会議定期開催) <p>7. 児童センターとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来キッズ(学童クラブ児～小学校高学年児～中学生)の広場での受け入れ ・よちよちクラブ(1歳親子)・とっとこクラブ(2歳親子)活動～児童館職員と遊ぶ 	<p>雲柱社子ども家庭支援センター事業目標「共に生きる・共に育てる」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという視点に立って、事業を行います 2. 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子どもたちが心身ともに健やかに育つまちや社会をつくることを目指します 3. 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるよう、日々努力します 4. 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決にむかえるよう、専門性に基づき対応します 5. 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことに努めます <p>事業目標・方針と展開</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児と保護者の安心した居場所となる ・保護者が保護者同士や異世代間の交流を持ち、視野を広げる場となる ・地域に存在する子ども家庭支援システムと、有機的な協力体制を構築し、ソーシャルワークの視点に立つ相談、支援サービスを実施する <p>岩戸児童センターと共有の重点課題</p> <ol style="list-style-type: none"> ①利用者のニーズに丁寧に応えることのできる、専門性をもった職員集団を目指す ②他機関との連携とともに、センターの独自性を活かし地域にあって喜ばれる施設となる ③各事業の目的をはっきりと持ち、内容の充実をはかり、日常活動を活性化させる。利用者と共に関係をもち、センターから地域の子ども文化や子育て情報を発信する <p>方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先駆型センターとして関係機関とのネットワークを形成し虐待の予防・防止対策に取り組んでいく ・乳幼児と保護者の安心した居場所となり、保護者同士が交流をもち視野をひろげる場となる ・利用者との関わりや、相談事業を充実させる(お母さんの自主プログラム実施、グループ懇談や参加型講座)
<p>ネットワークの展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に存在する子ども家庭支援システムと協力体制を構築し、ケースマネジメント手法を用いた支援を行う ・市担当課との役割分担、連絡調整の明確化 ・子育て相談、虐待に関する相談、通告に対して、必要に応じて関係機関を召集してケース検討会議を行う ・子ども家庭支援ネットワーク(要保護児童対策地域協議会)において、支援センターの役割を果たす 	<p>職員構成</p> <p>センター長 1名 佐藤 洋子(岩戸児童センター長との兼務)</p> <p>支援ワーカー 2名 宮内友紀 日下美恵子 非常勤支援ワーカー 1名 鈴木ゆずる</p> <p>専門相談員(子ども家庭支援ワーカーが兼務) 2名 花岡敦子 中尾由美子</p> <p>地域活動ワーカー 1名 柏森幸子 スーパーバイザー 龍野陽子(子どもの虐待防止センター)</p> <p>虐待対策ワーカー 1名 秋山愛美 ミーティングアドバイザー 神田富美子(年6回)</p> <p>主な行事</p> <p>ふれあいの音楽会、水遊び おいもほり、ハロウィン、もちつき クリスマス</p>
<p>環境整備等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく清潔で家庭的な安心して楽しく過ごせるよう環境づくりを工夫していく。 ・ボランティアや利用者参加による環境整備(0から3歳の子どもたちが、好きな遊びを見つけて、十分楽しめる場) ・玩具、絵本、育児家事用図書の充実、室内清掃、玩具の消毒 ・エアコン整備、加湿器管理、電気工事、危険物の点検の徹底 	<p>主な研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの虐待防止センター主催の研修 ・東京都精神福祉保健センター研修 ・子ども家庭支援センター研究会 ・東京都(福祉保健局・衛生局)主催の研修 ・法人研修(支援センターブロック全体研修、相談研修)他

2009年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

<p>児童館ブロック</p> <p>事業目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
----------------------------	--	--

児童館名 たまだいら児童館ふれっしゅ

施設長名 服部 栄

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動 (乳幼児・親)	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> □ 乳幼児と保護者(妊婦含む)が安心して過ごすことのできる居場所となる。 □ 出会いの場、交流の場となる 	/	<p>〈子ども達一人一人が地域に根を張り、生きる力を培うことができる活動を目指す〉</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 多くの他者との出会い・交流を通し子どもたち一人ひとりが感じ、考え、実行することのできる活動を目指す。 □ 子どもたちが平和を創り出す力を育む活動とする。 □ ボランティア活動を通し「受ける喜びよりも与える喜びを」の実践を目指す。 <p>【居場所として】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇利用しやすい環境の整備 <p>【共に創る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇労作(米作り)体験の実施 ◇クリスマス活動 	<p>〈子ども達の心の糧となる活動を目指す〉</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 出会いの場、交流の場、自己表現の場として □ 様々な体験、色々な人との交流を通し自立への糧となる活動 <p>【居場所として】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇事業内容の充実 ◇職員との交流の充実 <p>【共に創る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇中、高生活動行事への参加、企画、運営 ◇ボランティアとして <p>※日々の交流の充実を図りそこから彼らと共に活動という一つの形を創りあげていく。</p>
活動の内容・行事等	<p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 月1回の登録制年齢別(0、1、2歳)クラス活動を実施し、居場所として、交流の場として機能していく。 ◆ 月1回の年齢別(0、1、2、3)自由参加型を実施し親子同士の交流の拡大を図る。 ◆ 地域活動団体との協力体制を構築し、より地域に根ざした活動を展開する。 <p>【日常】</p> <p>乳児と幼児がそれぞれ安心して過ごすことのできる環境を設定していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 乳幼児ルームの開放 AM9:30~PM7:00 ◆ 体育室の開放 火曜日~金曜日 土曜日、日曜日 AM9:30~PM15:00 AM9:30~PM1:00 ◆ 工作室の開放(遊び場と0・1歳児の居場所の拡大) 火曜日~金曜日:積み木、ブロックコーナー AM9:30~PM1:00 火曜日~金曜日:0.1歳児専用ルーム PM1:00~PM5:00 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育付講座(年2回)、親子遠足(年2回) 人形劇、餅つき・伝承遊び □ 父親参加型活動の展開 □ 「母子健康手帳」の配布事務開始 	/	<p>【低学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 労作体験(月2回) ◆ 低学年タイム(月4回) ◆ 親子クッキング(年3回) ◆ 工作タイム(週2回) ※年間行事:ハイキング(1回)、キャンプ(1回)、館内合宿(1回) <p>【高学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 労作体験(月2回) ◆ 高学年タイム(月2回) ◆ クッキング(月1回) ◆ 児童館ブロック体験学習キャンプ(5年生以上) ※年間行事:ハイキング(1回)、キャンプ(1回)、館内合宿(1回) <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ クリスマス活動 ◆ 5月子どもの日スペシャル ◆ 日野市こどもまつり ◆ 被爆体験証言会 ◆ 餅つき・伝承遊び <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 豊田駅北口商店連合会「ハロウィン祭」 ◆ 育成会「三世代の集い」 ◆ 第五小学校50周年行事 ◆ 日野市放課後子どもプラン「ひのっち」への出向(五小・六小) <p>※雲柱社児童館ブロック合同行事への参加 ※保護者参加型活動を積極的に取り入れる。</p>	<p>【スポーツ活動】</p> <p>火曜日~金曜日:18:00~19:00 土曜日、日曜日:17:00~19:00</p> <p>における体育室の開放</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 3ON3大会(中、高生 年4回) ◆ 卓球大会(年4回) ◆ 女子スポーツ大会(年2回) <p>【文化活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 映画会(月1回) ◆ クッキング(年2回) ◆ 音楽室(スタジオ)の開放、ライブ開催 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 館内合宿(年1回) ◆ 体験学習キャンプ ◆ デイキャンプ(年1回) ◆ 午後8時閉館日(月1回) ◆ スポーツ交流(年1回) <p>※小学生活動におけるボランティア活動の展開</p>

< 2 > 職員構成

・館長代行 内堀 浩幸

・リーダー 八重田 裕一朗

・児童厚生員

西室 佑美

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ その他の研修(SDS等)

< 4 > その他

- ◇ 児童館運営協議会の開催(年2回)
- ◇ 地域行事(商店会・育成会)への参加
- ◇ 日野市基幹型児童館の実施に伴うサービスの拡大
- ◇ 指定管理業者選考会

指定管理

たまだいら

2009年(平成21年)度 事業計画書

施設名:江東区東陽子ども家庭支援センター

記入者:依田幸子

指定管理

東陽

<p>事業の内容と展開</p>	<p>1 ひろば事業(遊びふれあいのひろば) ○親子で遊ぼう ○おはなし会 ○青空ひろば ○母の輪タイム ○わかばの集い 2 体験学習事業(学びあいのひろば) ○母親講座 ○父親講座 ○ベビーマッサージ ○わらべうたで遊ぼう ○講習会(ゆる体操・リラクゼーション) 3 相談事業(支えあいのひろば) ○ふれあい相談 ○電話相談 ○面接相談 ○専門相談(発達・心理・家族問題) ○グループ相談・助産師相談 4 子どもの成長を共に喜び合う(育て合いのひろば) ○誕生日会 ○すくすく成長記録 ○入園を祝う会 ○ふたごちゃんの集い 5 情報提供事業(わかちあいのひろば) ○センターだより「東陽みずべ かわらばん」毎月発行 ○子育て関連・地域・リサイクル情報 ○ホームページでの情報発信・メールでの問い合わせ受付 ○交流掲示板(利用者同士の声) 6 人材育成事業 ○各種研修の開催(子ども家庭相談研修・こども家庭支援士養成講座) ○自主グループへの支援・協力 7 自主活動 ○みずべ会議(利用者とボランティアを含めた自主企画運営会議)の充実 ○ケーキサークル(年間5回) ○すいすいクラブ(年間4回発行) 8 リフレッシュ時保育事業 ○ボランティアの協力を得て、理由の如何にかかわらず、安心してこどもを預け、母親自身の時間をつくる。同時に子どもがのびのび遊べる場をつくる。</p>	<p>事業目標・方針と展開</p>	<p>目標 <共に生きる・共に育てる> 1 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実に基づいて事業を行います。 2 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つ街や社会を作ることを目指します。 3 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるように日々努力します。 4 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向えるよう、専門性に基づき対応します。 5 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことに努めます。</p> <p>方針 1 ひろば活動の充実 ・生後1~2ヶ月の赤ちゃんや第2子・3子を連れての来所が多くなっている。個々の来所者が何を求めているのかを考え、実際に手代わりとなりつつ、赤ちゃんの安全も含めてきめ細かい対応を心がける。 ・来所者の特技、趣味などを、広場で発揮できる機会を作ったり、積極的にひろばで手伝いをしてもらうなど、親達の生き生きとした活動をサポートしていく。 ・親同士の繋がりが豊かになるよう、特に新規来所者や一人で来ている人へのサポートを心がける。先輩利用者の協力を得たり、出会いのきっかけ作りになるプログラムを準備するなどして次の来所へと繋げる。 ・みずべ会議やアンケート調査で出された意見や、日常の会話の中からも来所者のニーズをとらえ、ひろばの環境づくり、プログラムの内容等について利用者、ボランティアと共に検討し実現できるようにしていく。 ・地域の保健所・助産師・児童館などの協力を得、センター事業の広報活動を活発にしていく。 2 相談活動の充実 ・子どもや親自身また家族について相談ができる場を提供し、安心できる環境で子どもの育ちの支援を図る。 ・親自身の力を信じ、その判断を尊重し、隣に寄り添う姿勢をもつ。 ・スタッフミーティングにより、個々の家族が抱える問題の整理と支援の方向性を共有する。 ・専門相談員とのケースカンファレンス、スーパーバイザーとのケース会を定例で行い、問題を見極め、支援の方向性を探り、より良い解決に向けて家族を支援する。 ・相談ケースに応じて南砂子ども家庭支援センターと協力の基、訪問・必要な関係機関とのケース会議を行い、養育困難な家族を地域で支えていく。 ・ファミリーサポート事業(社会福祉協議会)との連携を図りつつ、一時あずかり事業を有効に使った支援を積極的に行う。 3 ボランティアとの共同 ・子どもと家族に優しい街づくりを目指し、広く地域に開かれたひろばをつくっていく。 ・保育専門学校や地域の中学・高校等にセンターの活動を伝え、ボランティア活動の場として、ひろばを活用する。 ・実習生を受け入れ、若い世代が、こどもと家族の現状を理解し、今後の支援に繋げていく。 ・リフレッシュひととき保育の担い手を養成し、必要な預かりを、安心した形で行えるようにする。</p>
<p>ネットワーク事業の展開</p>	<p>1 運営協議会・家族支援に関する機関や地域住民との積極的な地域ネットワークづくりを推進する。 ○児童相談所・保健相談所・福祉事務所・助産師会等との連携 ○公私立保育園・児童館・幼稚園・学校・発達センター等との連携 ○保育室・保育ママ・ファミリーサポート事業との連携 ○出張子育てひろば・相談(ひまわり城・にこにこひろば) ○地域懇談会(地区民生児童委員を中心に) ○運営協議会の定期開催 2 相談ケースに応じた関係者会議への出席 3 南砂子ども家庭支援センター(先駆型)とのケース会議 4 区内の雲柱社各施設との協力・連携を深める</p>	<p>職員構成</p>	<p>○センター長 1名 依田幸子 ○子ども家庭支援ワーカー 3名 二木加奈・佐久間知恵・宮崎歩(地域活動ワーカー兼務) ○保育支援ワーカー 2名 片山富美子・高橋佑佳 ○子ども家庭支援ワーカー 1名(非常勤)加藤敬子 ○地域活動ワーカー 1名(非常勤)宮内美子 ○保育支援ワーカー 1名(非常勤)清水めぐみ ○専門相談員(月1回) 発達相談 染谷利一(東京大学付属病院 ころの発達診療部 臨床心理士) 心理相談 伊志嶺美津子(浦和大学教授 臨床心理士 ノーバディズパーフェクト・ジャパン副代表) (月2回) 家族相談 小川未佳(家族機能研究所 IFF 相談室セラピスト 臨床心理士) ○スーパーバイザー 新澤誠治・龍野陽子(こどもの虐待防止センター専任相談員)</p>
<p>環境整備</p>	<p>1 3階ひろば・1階保育室とも、0~3歳位の異年齢の子どもが、安心して好きな遊びを十分楽しめる環境づくりを心がける ○利用者・ボランティアの参加による環境・手作り遊具の整備 ○清潔で安全なひろば・保育室 ○子どもにとっても親にとっても、自分の居場所となる安心の場、良い人間関係をつくれる場となるように配慮 2 絵本・遊具・図書・情報資料の充実を図る ○絵本紹介・貸し出し図書のすすめ ○新しい情報(区内関係機関情報等) 3 室内だけではなく、一緒に戸外遊びを楽しむ 4 室温管理に注意する。室内の装飾等は家庭的な穏やかで、おうちのような温かい雰囲気大切にす。 5 駐輪場の管理・清掃</p>	<p>主な行事</p>	<p>・誕生会(毎月) ・ふたごちゃんの集い(年3回) ・こどもの日 江東こどもまつり(5月) ・七夕 水あそび こども服等リサイクル(7月) ・みずべまつり(11月) ・クリスマス会(12月) ・ひなまつり 入園を祝う会(3月)</p>
<p>主な研修</p>	<p>・職場内研修 ・法人主催研修(経験年数別・ブロック別) ・東京都子ども家庭支援センター自主研究会 ・子どもの虐待防止センター主催研修会 ・東京都主催研修各種 ・東京都精神福祉保健センター研修 ・子育てセンター実践研究会実践交流セミナー ・こころの健康財団精神保健講座</p>		

2009年(平成21年)度 事業計画書

施設名:江東区大島子ども家庭支援センター

記入者:小野江伊子

指定管理

大島

事業の内容と展開	<p>1 ひろば事業(遊びふれあいのひろば) ○親子で遊ぼう ○おはなし会 ○手作り工作 ○ハローみずべ ○夏季の水あそび ○青空ひろば</p> <p>2 体験学習事業(学びあいのひろば) ○母親講座(元気講座・離乳食講座) ○グループ懇談会 ○ベビーマッサージ</p> <p>3 相談事業(支えあひひろば) ○電話相談 ○面接相談 ○専門相談(発達・心理・家族問題) ○こどもと母親の健康グループ相談・個別相談(助産師)</p> <p>4 こどもの成長を共に喜び合う(育て合いのひろば) ○誕生会 ○すこやか成長記録 ○ふたごちゃんの集い ○入園を祝う会</p> <p>5 情報提供事業(わかちあいのひろば) ○かわら版「大島みずべ」毎月発行 ○交流掲示板 ○子育て関連・地域・リサイクル情報 ○ホームページ(ひろば活動内容)・メールでの問い合わせ受付</p> <p>6 ネットワーク・人材育成事業 ○運営協議会の定期的開催 ○みずべボランティア養成 ○区内子育てボランティア養成</p> <p>7 自主活動(利用者を中心とした) ○みずべ会議 ○リサイクルひろば ○3才児のつどい ○手作りおもちゃの会 ○外国のお母さん交流会 ○フェルト名札作り</p> <p>8 リフレッシュひととき保育</p>	<p>目標</p> <p>1 私たちは、地域のこども達とその家族一人一人が、神に愛され、生かされていくという視点にたって、事業を行います。</p> <p>2 私たちは、一人一人の人格と権利を尊重し、こども達が心身ともに育つ街や社会を作ることを目指します。</p> <p>3 私たちは、センターがそこに集うすべてのこどもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じる場となるように日々努力します。</p> <p>4 私たちは、地域のこどもとその家族か抱える問題を受け止め、よりよい解決に向えるよう、専門性にに基づき対応します。</p> <p>5 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、こどもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことを努めます。</p> <p>方針と展開</p> <p>1 ひろば活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ひろばにおいて親子とのいねいなかかわりの中で信頼関係を築き、親どうしこどもどうしのつながりが豊かになっていくように配慮、サポートを心掛ける。特に新規来所者に対しては、次の来所に繋がるように丁寧な対応に努めていく。 母親、父親のもっている知識、特技、趣味などをひろばで発揮できる機会を作り、親達の自発的活動(自己発揮)をサポートしていく。 地域の保健相談所、助産師、民生児童委員等と協力してセンター来所への広報活動をしていく。ボランティア、母親達と共に、センターお誘いカードの活用を推進する。 みずべ会議等を通して、遊び環境や、講座の内容、プログラムについて利用者、ボランティアと共に検討していく。 <p>2 相談活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> スタッフ間でのケース検討を、日常的に行い情報を共有し、方向性をもった支援をしていく(受付システムを活用し、その後の日常サポート、見守りを丁寧に配慮していく) 専門相談員とのケースカンファレンス、スーパーバイザーとのケース会を定例で行う ケースに応じ、家庭訪問、機関への同行、調査、情報提供など活動の充実を図る(アウトリーチ) ケースに応じ、関係者会議を積極的に開催し、ネットワークの中での対応を図る 虐待ケースに関しては南砂子ども家庭支援センターとの連携を強化し、対応力を高める。 <p>3 各種講座内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 来所者のニーズ、相談の内容などから必要なものをとらえ、こちらのメッセージも兼ね合せ、講座内容を構成する。 <p>4 地域住民に対して子育て支援活動への参加を積極的に働きかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中高生のボランティア活動をひろげる(ひろばの親子とのかかわりを通しての異世代交流) ボランティアの募集、育成を区内全センターで協力し、参加者の増加と質の向上を図る <p>5 児童館・学童クラブとの協力と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 階下に学童クラブがあるという利点を生かし、積極的な連携を図る。また亀戸児童館との積極的な連携を図り、子育て支援の空白地帯である亀戸地域のニーズの掘り起こし、対応に努める。
ネットワーク事業の展開	<p>1 子ども家庭支援に関係する機関および地域住民との地域ネットワーク作りの推進 ○墨田児童相談所・城東保健相談所・福祉事務所保護第2課との連携 ○大島・亀戸の主任児童委員・地区担当民生児童委員との連携 ○城東地域 公私立保育園・児童館・幼稚園・保育室・保育ママとの連携 ○ファミリーサポート事業との連携 ○NPO等 自主子育て支援グループとの交流、支援、連携</p> <p>2 相談ケースに応じた関係者会議の開催及び出席</p> <p>3 要保護児童対策地域協議会への出席</p> <p>4 大島8丁目学童クラブ子育てひろば(学童クラブとセンターとの協働活動)</p> <p>5 亀戸子育てひろば(出張型ひろばの活動)</p> <p>6 地域児童館における地区連絡協議会への参加</p>	<p>○センター長 1名 小野 江伊子</p> <p>○子ども家庭支援ワーカー 1名 後藤 美津枝</p> <p>○地域支援ワーカー 1名 石塚 亜弥子</p> <p>○保育支援ワーカー 1名 ()</p> <p>○子ども家庭支援ワーカー(非常勤) 渡邊 奈津子</p> <p>○専門相談員(月1回) 発達相談 蓑和 巖(東京大学医学部精神神経科小児部:臨床発達心理士) 家族相談 稲邑 恭子(成蹊大学・お茶の水女子大相談員:カウンセラー) 心理相談 田島 昌子(子ども家庭リソースセンター代表:臨床心理士)</p> <p>○スーパーバイザー 龍野 陽子(子どもの虐待防止センター相談員) 新澤 誠治(子育てひろば推進センターみずべの会代表・前東京家政大学教授)</p>
環境整備	<p>1 乳幼児期のこどもが十分に遊びを楽しみ、親子が安心してくつろげる居場所となる環境作りを心掛ける ○利用者・ボランティアの参加による環境・手作り遊具の整備 ○遊びコーナーの見直しと再構成 ○室温・湿度・換気に留意する ○絵本コーナー・大人用図書の設定場所の見直しと整理 ○廊下を含めた、各年齢が混在した中の安全な環境作り ○事務室も含め整理整頓に心がける</p> <p>2 情報掲示板の整理と充実 ○情報の更新に留意すること(正確な情報とタイムリーな情報)</p> <p>3 防犯カメラの管理</p> <p>4 防災用情報端末の管理</p>	<p>職員構成</p> <p>主な行事</p> <ul style="list-style-type: none"> 誕生会(毎月) 5月-こどもの日 手型・足型 江東こどもまつり 7月-七夕 夏季水遊び 11月-リサイクルひろば 12月-クリスマス会 3月-ひな祭り 入園を祝う会
主な研修	<p>○職場内研修(センターごと・交換研修・聖書勉強会・4センター合同) ○法人主催の研修(経験年数別・ブロック別など) ○東京都子ども家庭支援センター自主研究会</p> <p>○子どもの虐待防止センター主催研修各種 ○子育てセンター実践研究会 ○実践交流セミナー東京都主催研修各種・東京都精神福祉保健センター研修各種</p>	

2009年(平成21年)度 事業計画書

施設名 江東区深川北子ども家庭支援センター
 記入者 酒井 真理子

指定管理

深川北

<p>事業の内容と展開</p>	<ol style="list-style-type: none"> ひろば事業（遊びふれあいのひろば） ○ 親子で遊ぼう ○おはなし会 ○青空ひろば ○あそびワーク ○喫茶 体験学習事業（学びあいのひろば） ○ 母親講座 ○父親講座 ○ベビーマッサージ ○ ○ 講習会（ベビーマッサージ・ハンドトリートメント・お花を生けよう） 相談事業（支えあいのひろば） ○ ふれあい相談 ○電話相談 ○面接相談 ○専門相談（発達・心理・家族問題） ○ グループ相談・助産師相談 こどもの成長を共に喜び合う（育て合いのひろば） ○ 誕生日会 ○すこやか成長記録 ○入園を控えて懇談会 ○入園を祝う会 ○ふたごちゃんの集い 情報提供事業（わかちあいのひろば） ○ センター日より「深川北みずべ かわらばん」毎月発行 ○ 子育て関連・地域・リサイクル情報 ○ ホームページでの情報発信・メールでの問い合わせ受付 ○ 交流掲示板（利用者同士の声） 人材育成事業 ○ 各種研修の開催（子ども家庭相談研修・子ども家庭支援士養成講座・ボランティア育成） ○ 自主グループへの支援・協力 自主活動 ○ みずべ会議（利用者とボランティアを含めた自主企画運営会議）の充実 ○ ケーキサークル（年間11回） ○フラワーアレンジメント(月の誕生花・クリスマスツリー飾り) ○こども服・マタニティグッズリサイクルバザー(年2回) リフレッシュ時保育事業 ○ ひととき保育支援士の協力を得て、理由の如何にかかわらず、安心してこどもを預け、母親自身の時間をつくれるようサポートする。今年度は深川北でもひととき保育の登録及び利用予約を行う。 	<p>目標 <共に生きる・共に育てる></p> <ol style="list-style-type: none"> 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実によって事業を行います。 私たちは、地域のこどもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、こども達が心身ともに健やかに育つ街や社会を作ることを目指します。 私たちは、センターがそこに集うすべてのこどもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるように日々努力します。 私たちは、地域のこどもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向えるよう、専門性にに基づき対応します。 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、こどもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことに努めます。 <p>方針・展開</p> <ol style="list-style-type: none"> ひろば活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> 親子と出会った時、相手の心にふれることが、かかわりの出発点であり、個々の来所者が何を求めてここにいるのかを考え、きめ細かい対応を心がける。 母親、父親のもっている知識、特技、趣味などを、広場で発揮できる機会を作り、親達の生き生きとした活動をサポートしていく。 親同士の繋がりが豊かになるよう、特に新規来所者や一人で来ている人へのサポートを心がける。先輩の利用者の協力を得ながら次の来所へと繋げる。 みずべ会議やアンケート調査等の充実を図るとともに、日常の会話の中からも来所者のニーズをとらえ、ひろばの環境づくりや、プログラムの内容等について利用者、ボランティアと共に検討、実現できるようにしていく。 地域の保健所・助産師・児童館・保育園などの協力を得、センターの広報活動を活発にしていく。 みずべ会議等を通して、ひろば環境や講座の内容、プログラムについて共に検討していく 相談活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> 気軽にこどもや家庭について相談ができる場を提供し、安心した中での子育てとこどもの育ちの支援を図る。 親自身の力を信じ、その判断を尊重し、隣に寄り添う姿勢をもつ。 スタッフミーティングにより、個々の家族が抱える問題の整理と支援の方向性を共有する。 専門相談員とのケースカンファレンス、スーパーバイザーとのケース会を定例で行い、問題を見極め、支援の方向性を探る。 相談ケースに応じて南砂子ども家庭支援センターと連携し、訪問・関係機関への聞き取り・必要な関係者会議を行い、養育困難な家庭を地域で支えていく。 ファミリーサポート事業（社会福祉協議会）との連携を図る。 ボランティアとの協働 <ul style="list-style-type: none"> 子どもと家庭に温かい街づくりを目指し、広く地域に開かれたひろばをつくっていく。 保育専門学校や地域の小学・中学・高校等にセンターの活動を伝え、ボランティア募集を積極的に行う。 実習生を受け入れ、若い世代が、こどもと家庭の現状を理解し今後の学びや働きに繋がっていくように支援する 利用者同士、ボランティア同士の繋がりを構築し、自発的な活動へ展開していくようにサポートしていく 安心・安全・支え合い・育てあいを大切に、ひろば活動と関わりながら、リフレッシュひと時預かり保育を行っていく 																					
<p>ネットワーク事業の展開</p>	<ol style="list-style-type: none"> 運営協議会・子ども家庭支援に関係する機関や地域住民との積極的な地域ネットワークづくりを推進する。 ○ 児童相談所・保健所・福祉事務所・助産師会との連携 ○ 公私立保育園・児童館・幼稚園・学校との連携 ○ ファミリーサポート事業との連携 ○ 深川学童クラブとの連携と協働 ○ 運営協議会を開き地域に根ざしたセンターの働きを共有化していく ○ 地区民生児童委員を中心の地域懇談会や児童館との地域連絡会への参加 相談ケースに応じた関係者会議の開催及び出席 児童相談所とのケース会議 雲柱社江東ブロックネットワークの推進。連携と協力(講座・相談・ひろばプログラム) 	<p>職員構成</p> <table border="0"> <tr> <td>○センター長</td> <td>1名</td> <td>佐藤貴子</td> </tr> <tr> <td>○子ども家庭支援ワーカー兼地域活動ワーカー(リーダー)</td> <td>1名</td> <td>篠原喜美</td> </tr> <tr> <td>○子ども家庭支援ワーカー</td> <td>1名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○保育支援ワーカー</td> <td>1名</td> <td>濱野朋子</td> </tr> <tr> <td>○子ども家庭支援ワーカー(非常勤)</td> <td>1名</td> <td>花島由利子</td> </tr> <tr> <td>○専門相談員(月1回)</td> <td></td> <td>発達相談 鈴木美鳳(東京大学医学部 精神神経科 小児科) 心理相談 田島昌子(こども家庭リソースセンター・臨床心理士) 家族相談 山田律子(家族機能研究所 IFF 相談室セラピスト)</td> </tr> <tr> <td>スーパーバイザー</td> <td></td> <td>新澤誠治(子育てひろば推進センターみずべの会代表) 龍野洋子(子どもの虐待防止センター)</td> </tr> </table>	○センター長	1名	佐藤貴子	○子ども家庭支援ワーカー兼地域活動ワーカー(リーダー)	1名	篠原喜美	○子ども家庭支援ワーカー	1名		○保育支援ワーカー	1名	濱野朋子	○子ども家庭支援ワーカー(非常勤)	1名	花島由利子	○専門相談員(月1回)		発達相談 鈴木美鳳(東京大学医学部 精神神経科 小児科) 心理相談 田島昌子(こども家庭リソースセンター・臨床心理士) 家族相談 山田律子(家族機能研究所 IFF 相談室セラピスト)	スーパーバイザー		新澤誠治(子育てひろば推進センターみずべの会代表) 龍野洋子(子どもの虐待防止センター)
○センター長	1名	佐藤貴子																					
○子ども家庭支援ワーカー兼地域活動ワーカー(リーダー)	1名	篠原喜美																					
○子ども家庭支援ワーカー	1名																						
○保育支援ワーカー	1名	濱野朋子																					
○子ども家庭支援ワーカー(非常勤)	1名	花島由利子																					
○専門相談員(月1回)		発達相談 鈴木美鳳(東京大学医学部 精神神経科 小児科) 心理相談 田島昌子(こども家庭リソースセンター・臨床心理士) 家族相談 山田律子(家族機能研究所 IFF 相談室セラピスト)																					
スーパーバイザー		新澤誠治(子育てひろば推進センターみずべの会代表) 龍野洋子(子どもの虐待防止センター)																					
<p>環境整備</p>	<ol style="list-style-type: none"> 乳幼児期のこどもが十分に遊びを楽しみ、親子が安心して過ごせるような環境づくりを心がける ○ 利用者・ボランティアの参加による環境・手作り遊具の整備 ○ 清潔で安全なひろば ○ 親やこどもにとって、ほっとできる居場所となり、人との繋がりがつくれるようなあたたかいひろばになるように配慮していく 絵本・遊具・図書・情報資料の充実を図る ○ 絵本紹介・貸し出し図書のすすめ ○ 新しい情報(区内関係機関情報等) 室内だけではなく、一緒に戸外遊びを楽しむ 室温管理に注意する。室内の装飾等は家庭的な穏やかで温かい雰囲気を大切にする。 駐輪場やセンターの外周りの清掃や季節の花を植え明るく優しい環境づくりを心がける ベビーカーでの来所者への受け入れのサポートをしていく 防犯カメラの管理 	<p>主な行事</p> <p>毎月・・・誕生会・あそびワーク・すこやか成長記録・青空ひろば・喫茶みずべ(8月休み)</p> <p>5月・・・こどもの日・江東区こどもまつり</p> <p>6月・・・ファミリーデー</p> <p>7月・・・七夕</p> <p>10月・・・秋まつり(深川学童クラブと共催)</p> <p>12月・・・クリスマスつどい</p> <p>3月・・・入園おめでとうのつどい</p> <p>・・・ふたごちゃんの集い(6月・10月・2月)</p> <p>・・・リサイクルバザー(5月・10月)</p>																					
<p>主な研修</p>	<p>○職場内研修 ○法人主催研修(経験年数別・ブロック別・次世代育成)</p> <p>○東京都子ども家庭支援センター自主研究会 ・子どもの虐待防止センター主催研修会</p> <p>○東京都主催研修各種 ○東京都精神福祉保健センター研修</p> <p>○子育てセンター実践研究会実践交流セミナー ○こころの健康財団精神保健講座</p>																						

<p>事業の内容と計画</p>	<p>【ひろば活動】 1 ひろば事業（遊びふれあい、育てあいひろば） ・親子が気軽に集い、ゆったりとした雰囲気の中で安心して過ごし、親同士が様々な人との出会いのなかで交流を深め、子ども達を共に育て合う、仲間づくりをひろげていく。子どもの年齢や発達を踏まえた遊びの環境を作り、また子ども達の育つ力が十分に発揮できるよう、親とともに子育てを応援していく （・誕生会 ・すくすく成長記録 ・おはなし会 ・入園を祝う会 ・折り紙教室） ・すこやかMANDAY－障がいを持つ子どもと親のあそびと交流のひろば（月1回開催） ・子育てを応援してくれる地域のボランティアや中高生、大学生など様々な地域の人たちが集い様々な人とのかかわり、交流を豊かに経験していく 2 体験学習事業（学びあいのひろば） 親同士が互いに学び合い交流を深めていく ・母親講座 ・子育てグループ懇談会 ・父親講座 ・ベビーマッサージ 3 子育て相談事業（支えあいのひろば） ・ひろばでのふれあい相談 ・電話相談 ・面接相談 ・専門相談（発達、心理、家族問題） ・助産師による母の健康子どもの健康相談（個別）およびグループ相談 4 情報提供事業（分かちあいのひろば） ・かわら版「南砂みずべ」毎月発行 ・ホームページ（ひろば活動内容） ・交流掲示板、地域子育て情報ファイル ・日常リサイクル「どうぞの箱」 5 ひろばボランティアの募集、研修 6 自主活動 ・みずべ会議（親、ボランティア、スタッフ3者による自主運営会議）・分かち合いリサイクルひろば ・お母さんのコーラスサークル・絵本サークル・3歳児親子サークル「3歳児の遊び隊」 【リフレッシュひと時保育】 6ヶ月～3歳児のひと時保育（1時間～3時間） 【児童虐待ホットライン対応】 児童虐待の相談通報窓口として、虐待の予防と対応を地域でネットワークを組みながら、連携し対応していく 【子どもショートステイ】 ショートステイの受付窓口と調整業務（10月開始予定）</p>	<p>（目標） 1 私たちは 地域の子ども達とその家族一人ひとりが、神様に愛され、生かされていくという視点にたって、事業を行ないます 2 私たちは、一人一人の人格と権利を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つ地域や社会を作ることをめざします 3 私たちは、センターがそこに集うすべての子ども達と大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じる場となるように日々努力します 4 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、より良い解決に向えるよう、専門性にに基づき対応します 5 私たちは、 地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行なうことをめざします （方針） 1 子育て支援活動（ひろば活動）の充実 ・ 母親一人の孤独な子育てから、みんなで支えあう子育てに、そして子どもが遊びの中で、様々な大人や子ども達と関わりあい、十分に子ども自身のもっている育つ力を発揮し、安心してすこやかな成長を遂げることを支援していく。 ・ 日常のかかわりの中で親達との信頼関係を築き、子育てに関すること家族に関する相談に対して共に考えあひながら問題解決の方法を探っていく ・ リフレッシュひと時保育の充実 2 先駆型子ども家庭支援センターとして、地域のさまざまな関係機関と協力、連携しあいながら児童虐待の予防、対応に取り組んでいく。又在宅サービス等の充実に向け担当所管課と連携をしていく。 3 地域住民に対して子育て支援活動（子育てボランティア）を積極的に呼びかけ、子ども達を共に育てあう地域づくり、地域の子育て力を高めていく</p>
<p>ネットワーク事業の展開</p>	<p>1 江東区の児童虐待ホットラインの窓口として、区の所管の担当課とともに児童虐待対応の中核機関として、関係機関とのネットワークを組みながら、児童虐待の予防と対応に取り組んでいく 2 地域の児童館、保健相談所などの地域連絡会に参加 3 運営協議会－地域の子どもと家庭の福祉、教育、母子保健などの関係機関と、地域ネットワークを組みながら「子育て力」の高い地域作りを目指していく</p>	<p>職員構成 センター長 早川貴美子 子ども家庭支援ワーカー（常勤3名）佐川寛子・江崎美子（地域支援ワーカー兼務）・（ ） （非常勤2名）（ ）（ ） リフレッシュひと時保育（常勤1名）曾我郷子・（非常勤2名）遠矢澄子・（ ） 子どもショートステイ（非常勤1名）（ ） 児童虐待対策ワーカー（常勤2名）安掛由美子・膳場敦子（非常勤1名）杉山由希子 専門相談員（発達相談）（ ）（心理相談）檀田紋子－浦和大学教授 （家族相談）稲邑恭子－カウンセラー スーパーバイザー 龍野陽子－虐待防止センター相談員 新澤誠治－子育てセンター「みずべ」の会代表</p>
<p>環境整備・修繕等</p>	<p>1 乳幼児期の子ども達の発達を踏まえて子ども達の様々な遊びが充実し、親も安心してすごせるための工夫 ・親子が家庭的な落ち着いた雰囲気ですごせるための環境作り ・親と子どもとの適度な距離感が持てる場の設定、親同士の交流がしやすい場の設定 ・絵本コーナー、喫茶コーナー書籍の充実 ・園庭の遊具の充実、園庭（緑化環境）の工夫、夏季園庭の陽射し対策 ・園庭、室内清掃、遊具の清潔、危険箇所の点検を徹底していく 2 園庭の排水溝の定期的清掃 3 来所者の安全管理、安全対策の充実 ・地震、火災時の避難訓練 ・非常時警報等の使用方法、対応についてのスタッフ間の確認徹底</p>	<p>主な研修・主な行事 研修 ・東京都福祉局主催研修 ・東京都精神福祉保健センター研修 ・虐待防止センター研修 ・法人研修 誕生会（毎月） 5月 子どもの日・江東子どもまつり 7月 七夕・夏季水遊び 10月 リサイクルひろば 12月 クリスマスおはなし会・音楽会 2月 おもちゃ病院 3月 入園を祝う会</p>

事業の内容と展開	<p>1. 広場事業（常設） ○親子で遊ぶ ○スポットタイム（あそび、季節のおたのしみ等） ○のびのび成長記録 ○誕生会（毎月） ○わいわいストレッチ（母親の健康増進）</p> <p>2. 体験学習事業 ○各年齢別講座（6回） ○父親講座（2回） ○ふれあい体験事業（1回） ○家族関係講座（2回） ○講習会（6回） ○ノーバディーズパーフェクト講座（6～8回のシリーズ）</p> <p>3. 相談事業 ○電話相談 ○面接相談 ○専門相談（発達相談、心の育ち、言語、家族問題）</p> <p>4. 先駆型・虐待対策 市の虐待通告窓口、小平児童相談所との連携及び連絡会（要保護児童対策地域協議会及び実務者会出席）、関係者会の開催、ケース検討会の充実、地域ネットワークとスーパーバイズ</p> <p>5. 情報提供事業 ○センターだより（毎月） ○ホームページでの情報発信、メールでの問い合わせ ○地域の子育て情報の提供</p> <p>6. ネットワーク、人材育成事業 ○子育て支援ネットワークの活用化 ○ファミリーサポートとの連携及び講師派遣 ○子育て女性相談室（子育て支援）との連携とコンサルテーション ○子育て支援協議会における活動の強化 ○各関係機関との学習会 ○各種研修の開催（保育問題、ボランティア募集と育成、市相談員への研修）</p> <p>7. 子ども家庭在宅サービス事業（ショートステイ事業、育児支援ヘルパー事業、ファミリーサポート事業）</p> <p>8. 運営企画 ○企画運営会議の充実（月、年間を見通していく） ○利用者のセンター行事への運営参加、子育てサークル、ボランティアの自主活動との連携、まもらっこの会（障碍児を持つ親子の会）支援</p>		事業目標・方針と展開	<p>目標（共に生きる・共に育てる） 安心、いきいき、健やかな子育て、子育て、親育ちのまちづくりを目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実を立て、事業を行います。 ・私たち地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子どもたちが心身ともに健やかに育つまちや社会をつくることを目指します。 ・私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるよう、日々努力します。 ・私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向かえるよう、専門性にに基づき対応します。 ・私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことに努めます。 <p>方針</p> <p>1. 広場活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者同士の関わりを助け、広場での体験を通して利用者（親子、保護者達）の成長を見守り援助する ○広場での遊びを通して育児、子育て文化の伝承の場を提供する ○父親の育児参加をすすめ、共に取り組む事で育児の理解を深める ○子育ての楽しさを共有する ○養育不全、虐待傾向の家庭を広場での体験で援助していく <p>2. 相談活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○広場での悩み事、聞いてほしい事の相談を受ける ○専門相談電話を通してのサポートをする ○専門相談員による予約相談の充実 専門相談員によるミニ講座等を通して育児をサポートする ○スタッフ相互の情報共有とスーパーバイザー参加のケース検討 <p>3. 児童虐待防止機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○要保護児童対策地域協議会及び実務者会を通しての連携ネットワークの強化 ○関係機関との研修、ケース検討を通しての連携を強化 健康センターとの連携 ケースを通して連携の強化、情報の共有化、母子手帳配布時に子ども家庭支援センターの案内を同封、研修、ケース検討会、問題ケースへの同行訪問 地域センターとの連携 ふれあい広場の巡回、主任児童委員との話し合い、利用者の声を聞き取り、相談事業や講座につなげる 民生委員、主任児童委員等へのスーパーバイズ 児童館、地域センターを活用しての講座、子育て文化の発信 市の各諸機関の連携と連絡、ママサークルの支援、近隣地域との協力 <p>4. 市内の人材活用（ボランティアの参加）、スタッフの研修の充実</p>															
	ネットワーク事業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護児童対策地域協議会及び実務者会の活用化、ケースを通じた地域のネットワーク作りの充実・ケース検討会議の開催・地域組織化活動の促進（地域の協同と連携） ○関係機関との連携（小平児童相談所、健康センター、むさしが丘学園、教育相談室、教育委員会、小学校、中学校、学童クラブ、保育課、幼稚園、保育園、社会福祉協議会、多摩小平保健所、民生委員、主任児童委員、療育施設、病院、小平警察） ○地域センター（ふれあい広場訪問）との連携協力 ○児童館、地域センターでの講座、相談 ○地域訪問（地域の特性と子育て世代のつながりを作る） 																	
	環境整備・修繕等	<ul style="list-style-type: none"> ○明るく清潔で家庭的な安心して過ごせる広場作りをしていく（居場所としての広場） ○利用者参加による環境整備、絵本、玩具（手づくりおもちゃ）の充実 ○利用者との信頼関係を深め、センターの活用の仕方を理解してもらう ○地域センターふれあい広場への協力 																	
	主な行事	主な研修		<ul style="list-style-type: none"> ○子ども家庭支援センタースタッフ会（毎月） ○子育てセンター実践交流セミナー ○東京都（福祉保健局）主催研修 ○雲柱社、子ども家庭支援センター研修会 等 	<p>職員構成</p> <table border="0"> <tr> <td>センター長兼ワーカー</td> <td>1名</td> <td>両方仁子</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ワーカー</td> <td>2名</td> <td>藤田理恵子・(4月からの異動者)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域ワーカー</td> <td>1名</td> <td>伊豆田麻子</td> <td></td> </tr> <tr> <td>虐待対策ワーカー</td> <td>1名</td> <td>丸谷充子</td> <td>非常勤ワーカー 1名 田門美千子</td> </tr> </table>	センター長兼ワーカー	1名	両方仁子		ワーカー	2名	藤田理恵子・(4月からの異動者)		地域ワーカー	1名	伊豆田麻子		虐待対策ワーカー	1名
センター長兼ワーカー	1名	両方仁子																	
ワーカー	2名	藤田理恵子・(4月からの異動者)																	
地域ワーカー	1名	伊豆田麻子																	
虐待対策ワーカー	1名	丸谷充子	非常勤ワーカー 1名 田門美千子																

2009年(平成21年)度 事業計画書

施設名:練馬区立光が丘子ども家庭支援センター
 記入者:新澤拓治

指定管理

光が丘

事業の内容と展開	<p>(1)子どもと家庭の総合相談事業 ○ 電話相談 ○面接相談 ○ 子どもと母親のグループミーティング(精神保健福祉士) ○ 個別ケースにおける関係機関との連携(ケースマネジメント)</p> <p>(2)子育て啓発事業 ○ノーバディズパーフェクト【新規】 ○保育園看護師の健康講座 ○保育園栄養士の栄養講座 ○地域小児科医による健康講座</p> <p>(3)子育てのひろば 光が丘ぴよぴよ 日・水除く毎日 10:00~16:00 ○親子で遊ぼう ○スポットタイム(おはなし会・ふれあい遊び) ○誕生月の手形とり</p> <p>(4)乳幼児の一時預かり 日・水 6ヶ月から就学前まで 10:00~16:00 (1コマ3時間) 定員 10名(時間単位)</p> <p>(5)トワイライトステイ 年末年始除く毎日 2歳から12歳まで 17:00~22:00 定員 10名</p> <p>(6)児童虐待の防止に関する事業 ○通報の受付と先駆型子ども家庭支援センターとのすみやかな連携 ○光が丘地域ネットワークへの参加(要保護児童対策地域協議会地域部会)</p> <p>(7)光が丘ファミリーサポートセンター事業 郵便番号179地域における、利用会員、援助会員のコーディネートと支援【新規】</p> <p>(8)その他 ◇情報提供事業(わかちあいのひろば) ○かわら版「光が丘ぴよぴよ」毎月発行 ○子育て関連・地域・リサイクル情報 掲示板、チラシ配布 ○ホームページ(ひろば・ファミサポ) ◇人材育成・ネットワーク事業 ○結成一年未満の子育て支援団体への会議室無償貸し出し等 ○子育て支援団体への印刷機無償貸し出し ○子育てボランティアの受け入れ【新規】</p> <p>自主活動 ○月曜日ひろば(通称:げつぴよ 大きい子向けに会議室を開放)</p>	事業目標	<p>1 私たちは、地域の子供達とその家族一人一人が、神に愛され、生かされていくという視点にたつて、事業を行います。</p> <p>2 私たちは、一人一人の人格と権利を尊重し、子供達が心身ともに育つ街や社会を作ることを目指します。</p> <p>3 私たちは、センターがそこに集うすべての子供と大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じる場となるように日々努力します。</p> <p>4 私たちは、地域の子供とその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向えるよう、専門性にに基づき対応します。</p> <p>5 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子供とその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことを努めます。</p> <p>方針と展開</p> <p>1 ひろば活動の充実 ・ひろばにおいて親子との丁寧なかかわりの中で信頼関係を築き、親子どうし子どもどうしのつながりが豊かになっていくように配慮、サポートを心掛ける。特に新規来所者に対しては、次の来所に繋がるように努めていく。 ・開設二年目ということで、基礎固めの一年目から広がり二年目となるよう、親子とのつながりを基盤に新たな活動へのチャレンジをしていく。 ・母親、父親のもっている知識、特技、趣味などをひろばで発揮できる機会を作り、親達の自発的活動(自己発揮)をサポートしていく。 ・地域の保健相談所、助産師、民生児童委員等と協力してセンター来所への広報活動をしていく。 ・ひろば自体も2年目ということだが、担当している職員も他ひろばなどでの経験も無く、担当職員が法人内他施設をはじめ見学、研修を重ねてひろばの質のアップを図る。</p> <p>2 相談活動の充実 ・スタッフ間でのケース検討を日常的に行い情報を共有し、方向性をもった支援をしていく 長時間開所、多人数での職場なので連携を大切にすすめていく ・スーパーバイザーから定期的にサポートを受ける ・ケースに応じ、練馬子センターと連携し、訪問や機関への同行、調査、情報提供など、必要があれば積極的に協力していく ・ケースに応じ、関係者会議等も積極的な参加を図る。 ・特に虐待ケースに関しては練馬子ども家庭支援センター(先駆型)との迅速で密な連携を強化する。</p> <p>3 一時預かり、トワイライト、ファミサポ等事業系の活動充実 ・一時預かり、トワイライトステイは法人内の今までの保育、学童等のノウハウを継承し、より質の高い事業としていく ・ファミサポは21年度よりモデル実施として 会員のコーディネートが始まる。練馬区ファミサポの今後を左右するモデル実施の為、準備→実施→見直しを繰り返し丁寧におこなっていく。</p> <p>4 各種講座内容等の充実 ・来所者のニーズ、相談の内容などから必要なものをとらえ、こちらのメッセージも兼ね合せ、講座内容を構成する。</p> <p>5 チームワークのよい職場環境作り ・週7日開所、9時から22時までの開所と長時間開所の施設であるがゆえ、職員もシフトがバラバラ、また非常勤の数もとても多くなっている。その為には合理的な情報伝達と、密な連携が協力が必要。 ・長時間、期間の職場だからこそ、健全な労務管理を行ない、職員の心身の健全を保持する</p>
ネットワーク	<ol style="list-style-type: none"> 光が丘地域ネットワークへの参加(前掲) 光が丘地区主任児童委員定例会議への出席 地域子育て支援団体への支援による連携(前掲) 子育ての輪への参加(光が丘地域公立保育園が核となった光が丘地区の子育てフェスティバル 児童館・保健相談所等も参加) 	職員構成	<p>○所長 1名 新澤 拓治</p> <p>○子ども家庭支援ワーカー 6名 (相談担当) 大風逸子 (トワイライトステイ担当) 横田純 (ひろば・一時預かり担当) 池田あずみ・八重田亜矢子・他一名 (ファミリーサポート担当) 柳則子</p> <p>非常勤 16名</p> <p>○スーパーバイザー 藤尾静枝(支援者のための研究室 悠 代表 保健師・精神保健福祉士)</p>
環境整備	<ol style="list-style-type: none"> 乳幼児期の子供が十分に遊びを楽しみ、親子が安心してくつろげる居場所となる環境作りを心掛ける ○安全安心の環境整備 (乳児の利用が多い為、年齢構成に配慮した環境) ○遊びコーナーの見直しと再構成 トワイライトステイでは小学生の利用もあるので、小学生男女が楽しんで過ごすことのできる環境作り。 改装後一年のため、施設は非常にきれいな状態であり、その維持を図る 	主な研修	<p>○ 職場内研修・法人主催の研修 (経験年数別・ブロック別など) ○ 東京都子ども家庭支援センター自主研究会 ○ 子どもの虐待防止センター主催研修各種</p> <p>○ 東京都主催研修各種・東京都精神福祉保健センター研修各種 ○ 子育てセンター実践研究会 実践交流セミナー ○ つどいの広場全国連絡協議会主催子育てひろば研修</p>

2009年(平成21年)度 事業計画書

施設名 : 小金井市子ども家庭支援センター
 小金井市ファミリー・サポート・センター
 記入者: 宮澤陽子

<p>事業の内容と展開</p>	<p>1 ひろば事業 ○談話室を使った遊びのプログラムの提供 ○café ○KGママ(母グループの自主企画運営、お店屋さん、大人用本貸し出し ○NPOおもちゃライブラリーとの連携・出張ひろば ○子供服リサイクル</p> <p>2 相談事業 ○電話相談 ○面接相談 ○ひろばでの相談 ○FAX相談 ○おしゃべりティータイム</p> <p>3 体験学習事業 ○グループミーティング(1歳4グループ:月1回×5) ○ミニ講座(助産師その他) ○0歳児の会 ○母親グループ(ハイスクース:月1回×2グループ) ○カルガモ教室(10ヶ月～1歳2ヶ月:月1回) ○エンジェル教室(5ヶ月児:月2回) ○シニア向け異世代交流講座(年1回)</p> <p>4 情報提供事業 ○センター通信 ○ホームページ ○月の予定表 ○掲示等による地域、子育て、リサイクル情報の提供</p> <p>5 自主サークル支援 ○虐待防止を目的としたハイスク家庭のための自主サークル支援(多胎児の会)</p> <p>6 ネットワーク、人材育成事業 ○ボランティア募集と育成(募集・活動のコーディネート・交流、研修、社協・ボランティアセンターとの連携) ○ファミリー・サポート・センターとの連携(ボランティア研修・フォローアップ講習)</p> <p>7 ファミリー・サポート・センター事業 ○協力会員の募集及び講習開催 ○依頼会員の募集及び説明会開催 ○会員相互の交流会 ○援助活動の促進及び協力会員、依頼会員へのサポート ○子ども家庭支援センターとの連携事業(上記) ○協力会員の資質向上(研修・子ども家庭支援センター事業での保育等) ○センター活動の周知及び協力会員募集のための地域説明会(民生委員対象)</p>	<p>事業目標・方針と展開</p>	<p>1 地域の子どもとその家族一人ひとりが神に愛され、生かされているという事実に基づいて事業を行なう。 2 地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子どもたちが心身共に健やかに育つまちや社会を作ることを目指す。 ○子ども家庭支援センターのボランティア育成とファミリーサポートセンターの協力会員養成の機能を合わせ子育てのサポートができる人たちを地域に増やしていく。 (ボランティア及び会員募集⇒活動⇒研修⇒交流⇒地域に戻るというシステム作り) ○異世代交流や利用者同士の交流の場を意識的に作るようにし、親と子という狭い世界だけでなく、広い関係性の中で子どもたちが育つことの大切さを伝えていく。 ○スタッフがコミュニケーションの大切さを認識し、理念を伝える言葉を持つ。 3 センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるよう日々努力する。 ○ひろばやプログラムまたファミリーサポートセンターをつかった場で孤立感を持つ親子の存在に気づき、その孤立感を和らげられるような関わりができるよう努力する。 ○子ども家庭支援センターやファミリーサポートセンターの各事業につながりを持たせ、支援方針を持ってサポートしていく。 4 地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、より良い解決に向かえるよう、専門性に基づき対応します。 ○利用者が何に困っていて、どうしたいと思っているのかを整理し自分たちの出来ることを提供していく。そのために利用者の気持ちと自分自身の気持ちに敏感になれるよう振り返りを深めていく。 ○職場内研修を通して、話の聴き方、子どもの発達の理解、グループのファシリテーターの役割を学ぶ。 5 地域の人々や他の専門機関と連携して子どもとその家族のニーズに合わせて必要な支援を行う。 ○民間施設なりのアプローチの仕方、フェイスtoフェイスを大切にし関係を築いていく。 ○巡回訪問で認可園との関係が、また連携事業で児童館や一部NPOとの関係が出来つつあり、相互理解のもと、関係を深めていく。</p>								
<p>ネットワーク事業の展開</p>	<p>1 保育園との連携強化 2 子ども家庭支援センター要保護児童対応職員との役割分担・連携強化 3 ファミリー・サポート・センターとの連携強化(目標の共有化) 4 NPOとの連携(研修、出張ひろば、ケースの連携) 5 児童館・社協・ボランティアセンター・学芸大学との連携事業 6 保健センターケースの共有と受け皿 7 各関係機関とのケース、事業に応じた連携 8 市内子ども関連団体との連携及びサポート</p>	<p>職員構成</p>	<table border="0"> <tr> <td>子ども家庭支援センター</td> <td>ファミリーサポートセンター</td> </tr> <tr> <td>○責任者 宮澤陽子</td> <td>○センター長 宮澤陽子</td> </tr> <tr> <td>○子育て支援ワーカー 名取知子・南部真紀</td> <td>○アドバイザー 本多真理・榎本香</td> </tr> <tr> <td>非常勤</td> <td>神宮由美子</td> </tr> </table>	子ども家庭支援センター	ファミリーサポートセンター	○責任者 宮澤陽子	○センター長 宮澤陽子	○子育て支援ワーカー 名取知子・南部真紀	○アドバイザー 本多真理・榎本香	非常勤	神宮由美子
子ども家庭支援センター	ファミリーサポートセンター										
○責任者 宮澤陽子	○センター長 宮澤陽子										
○子育て支援ワーカー 名取知子・南部真紀	○アドバイザー 本多真理・榎本香										
非常勤	神宮由美子										
<p>環境整備</p>	<p>○遊具、環境改善 ○定期的な安全・衛生点検(マニュアル作成) ○大人用貸し出し図書の充実・整備 ○室温、湿度管理 ○掲示物の整理(内容、掲示の仕方) ○季節を感じる環境づくり</p>	<p>主な行事</p>	<p>季節の行事(お楽しみの時間、ミニ講座を使って)</p>								
<p>採人事</p>	<p>南部 真紀 非常勤⇒常勤</p>	<p>主な研修</p>	<p>○東京都(福祉局、衛生局主催研修各種 ○東京都子ども家庭支援センター自主研究会 ○スーパーバイザーとのケース検討、研修 ○法人研修 ○施設内研修</p>								

記入者（所 長）

網 野 一 也

- 利用者の工賃安定をより図るため、受注業者へ新たな授産受注の働きかけを行う。
- 新たな施設体系への移行をどう考えるか今年度も小金井市と協議を重ねていく。
- 月 1 回行っている調理実習の内容を今後の事業につなげる事ができるよう、具体的に考え行っていく。
- 高齢利用者の介護度が増え、排泄介助の必要性もでてきている。そのため、職員の介護知識、衛生面で配慮することなどの研修を行う。
- 利用者が、行き帰りで問題行動をおこさないよう、ご家族・グループホームと連携し、対応していく。
- グループかがわの成人部門施設と協力し、利用者への支援内容の充実を図る。
- 就労支援センターとの連携を深め、利用者の就労支援に協力する。

1 施設運営

(1) 実施事業

作業内容

- ・ 委託作業（福祉会館清掃、福祉会館風呂場清掃、凧製作）
- ・ 受注作業（付録詰め、割り箸袋入れ、アロマオイルボトル充填、アロマオイルケース作り、説明書折り、造花作り、ダイレクトメール封入他）
- ・ 自主製品作業（陶芸、手工芸品）

余暇活動

ミニコンサート、調理実習、映画鑑賞会

(2) 利用者の処遇

利用者定員：20名（現員17名）2009年度より2名入所予定

健康管理

9月 健康診断 小金井市障害者健康診断 11月 内科検診 嘱託医

処遇方針

- ・ 毎日、楽しく通所して来られるよう環境を整える。
- ・ 利用者の個別支援計画に基づき、支援する。

主な行事予定 4月 お花見（3万円）
(行事費用) 5月 日帰り旅行（14.5万円）
10月 秋の一泊旅行（12万円）
12月 クリスマス会（7.5万円）
2月 慰労会（4万円）

安全管理			
防災訓練	年 4 回	福社会館全体避難訓練	年 1 回

(3) 職員の処遇

職員構成

所 長	1 名	主任支援員	1 名
支 援 員	2 名	短時間パート職員	2 名
障害者雇用パート職員	1 名	嘱託医・相談員（非常勤）	各 1 名

健康管理

健康診断	年 1 回
------	-------

職員会議

法人全体集会	年 1 回	GK 全体職員会	年 3 回
成人部全体職員会	年 3 回		
運営会	月 1 回	成人部運営会	月 1 回
職員会議	年 6 回	ケース会議	年 6 回
職員打ち合わせ	毎 日		

研修計画（研修費用）

ブロック内研修（1. 5万円）	法人内研修（5万円）
外部研修（4. 5万円）	

2 施設管理

(1) 整備関係

- ・換気扇修理予定。

(2) 備品関係

- ・購入予定無し。

(3) 災害対策

- ・非常食糧の備蓄（19+4）人×1食×（1日）分
- ・拡声器、非常用持ち出し袋

3 地域社会との連携

- ・福社会館まつりに参加し、市内の作業所・会館利用者との交流を深める。
- ・障害者週間のイベントに参加する。
- ・福社会館内のゴミの分別に協力する。
- ・市民ボランティアと協力し、余暇活動の充実を図る。
- ・市役所からの注意事項（衛生面・生活面）を、正確に利用者へ伝達し未然にトラブルを回避するよう務める。

4 その他

- ・月 1 回おたよりを発行していく。
- ・利用者との話し合いを持ち、行事等の企画・立案をしていく。

2009年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童館ブロック 事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、子どもたちの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
-----------------	--

児学童名 深川学童クラブ

施設長名 松原 万紀子

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動 目 標		<p>子どもたちに対し、健全なあそびや楽しい生活の場を提供し、心身の健全な育成を促す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、子どもたちの健康と安全を守る環境をつくる。 2、異年齢集団での生活やあそびを通して社会性と豊かな心を育てる。 3、保護者と協力し、円滑なクラブ運営を行なう。 4、深川北こども家庭支援センターとの関わり、手伝いを通して、小さい子どもたちと交流を持つ。 		
活 動 の 内 容 ・ 行 事 等		<p>(定員)104名 (育成時間) 通常：下校時～17:00 延長～18:00 学校休校日：8:30～17:00(～18:00) (通常の流れ)来室→宿題→遊び→おやつ・休憩→あそび→帰りの会・帰宅(延長保育) (あそび)クラブ室、ソファー、森下公園を中心に生活するが近隣の児童館との交流、図書館、公園等に出かけて、視野を広げるようにする、グループ活動、集団あそびを取り入れる。他の学童クラブ、「みずべ」との交流を持つ。 (行事)入会式・歓迎会・外出・夏まつり・合宿・お店屋さんごっこ・クリスマス会・お別れ会・お別れ遠足 等 (その他) 誕生日会・ゲーム会・制作・五目並べ、カード飛ばし大会・ぬりえコンクール、避難訓練・森下、平野児童館の行事参加 ・深川北部ドッチボール大会 等 ・保護者会 ・クラブだより毎月1回発行</p>		

< 2 > 職員構成

・チーフ 小島 知重紀

・児童厚生員

藤城 良紀
遠藤 陽子

< 3 > 研修

法人研修
区研修

< 4 > その他

2009年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児学童名 大島四丁目学童クラブ (亀戸児童館)

施設長名 亀戸児童館館長 永澤 和男

< 1 > 事業計画

< 2 > 職員構成

- ・チーフ 井 哲平
- ・児童厚生員
西村 奈己

< 3 > 研修

- ・法人研修
- ・児童館ブロック研修
- ・区研修

< 4 > その他

児童館ブロック事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、こどもたちの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、こどもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、こどもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、こどもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
-------------	--

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標		異年齢集団の中で、様々な経験を通して協調性を養い、仲間を思いやる気持ちを育て、自主的に判断し行動できるようにする。 1、こどもたちの健康と安全を守る環境をつくる。 2、異年齢集団での生活やあそびを通して社会性と豊かな心を育てる。 3、保護者と協力し、円滑なクラブ運営を行なう。		
活動の内容・行事等		<育成時間> 通常：下校時～17:00 延長：～18:00 学校休校日：8:30～17:00(～18:00) <通常の流れ>当室→宿題→遊び→おやつ→遊び→帰りの会・帰宅→延長保育 <あそび>育成室2部屋と庭を中心に生活するが、近隣の公園、図書館等に出かけて、行動範囲視野を広げるようにする。グループ活動、集団あそびを取り入れる。2階こども家庭支援センターとの交流を持つ。 <年間行事> オリエンテーション、入会進級を祝う会、ぬりえコンテスト、観劇会、お化け屋敷見学、水遊び、遠足、さよなら夏休み会、大4商店街、ミニ遠足、ハロウィンパーティー、勤労感謝の日製作、手芸、クリスマス会、大掃除、合同ドッジ大会、お別れ遠足、サイン帳作り、卒室進級を祝う会 等 <月例行事> お買い物体験、誕生会、リクエストおやつ、みずべボランティア、ロッカー掃除等		

2009年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童館ブロック 事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、こどもたちの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、こどもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、こどもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、こどもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
-----------------	--

児児童館名 大島八丁目学童クラブ

(亀戸児童館)

施設長名 亀戸児童館館長 永澤 和男

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	
活動 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の乳幼児、その保護者を対象に、地域に密着したひろば活動を行う ・障害を持つこどもや、他の施設での活動に参加できないこどもも、参加できるひろば活動を目指す ・保護者同士が、地域での友人や仲間を作れるような、つなぎの役割を担う ・大島こども家庭支援センターと連携し、子育ての悩み・不安等を抱える保護者の支援の場となる ・地域の乳幼児とその保護者にとって安全で安心して利用する事の出きる居場所を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭に変わる放課後の生活基盤となり、こども達の個性を尊重し、安心して過ごすことができる場所となる ・集団遊び・行事を通して、こども達の社会性・協調性・主体性を養う ・保護者とコミュニケーションを密にし、その就労を支援しつつ、こどもの成長について共に考えていく ・地域の人たちの協力を得て、地域に根ざした学童クラブを目指す ・他の学童クラブや子育てひろば、地域のこども達との交流を大切にし、人間関係を広げていく 	<p>< 1 > 事業計画</p> <p>< 2 > 職員構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館長 <u>永澤 和男</u> ・チーフ <u>秋山 裕子</u> ・児童厚生員 <u>坂本 勉</u>
活 動 の 内 容 ・ 行 事 等	<p>子育てひろば</p> <p>※活動は学童クラブ職員が午前中の時間を利用して実施する</p> <p>開設時間</p> <p>毎週 月・金 10時～11時半 (自由来館型子育てひろば)</p> <p>手遊び・紙芝居</p> <p>行事</p> <p>月間行事 音楽遊び・読み聞かせ等</p> <p>ハロウィンパーティー パネルシアター(講師)</p>	<p>育成時間</p> <p>〈通常〉下校時～17時 (延長 ～18時)</p> <p>〈学校休業日〉8時30分～17時 (延長 ～18時)</p> <p>年間行事</p> <p>オリエンテーション、1年生歓迎会、行事製作、春・秋の交通安全運動、ミニ遠足 オヤツ釣り大会、五目並べ大会(自由参加)、世界のカブトムシ観察、遠足(2回) 塗り絵コンテスト、お楽しみ昼食会、ミステリーツアー、江東区観劇会、引取り訓練 駄菓子屋さん、雲柱社会学童クラブ交流会、ハロウィンパーティー、大掃除、クリスマス会 節分、お別れ会、文集作り、お別れ遠足 大島四丁目学童クラブと交流、江東区ドッジボール大会</p> <p>月例行事</p> <p>誕生会・ゲーム会・スポーツの日・散歩・避難訓練</p>	<p>< 3 > 研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館ブロック研修 ・法人研修 ・所属する自治体の研修 <p>< 4 > その他</p>

中 村 悠 子

昨年度は療育の質を高めるため、週4/5日通園クラスに保護者との綿密な話し合いによる「指導計画」を導入した。また第三者評価の結果を受け、保護者の意向を把握するためのアンケートを計画的に実施した。2009年度はこれらの結果を受け、より実りある療育を保護者との協力のもと実施できるよう努力していく。

また、来年度は新入職員を迎える予定であることから、職員の育成にも継続して力を入れていきたい。

- 週一日通園クラスの受け入れ人数を増やし、入園待機児のニーズに応えるとともに、収入の増加を図る。
- 自らの療育のあり方や今後の方向性を考えていくため、他の療育機関の見学を積極的に進める。
- 療育の技術を高め、職員間での共通理解を図ることを目的に、指導手順の文書化を試みる。
- 専門性を重視した施設としての機能を持ち続けることを目指し、職員に心理や福祉の資格取得を推奨する。
- 保護者からの要望が多かった健常児との交流について、どのような取り組みが可能であるかを検討し、実施につなげる。
- 記録類や支援計画等の書式を見直し、保護者との確認がしやすいよう改善する。
- 昨年度に引き続き児童部門職員会議を定期的実施し、連絡を密にするよう努める。
- ボイラー老朽化のための暖房設備整備の補助金申請、プール及び園児用下足箱、冷凍冷蔵庫の老朽化による買い替えへの助成金申請を行う。また、指導用教材の充実に伴い、保管場所を確保することが必要となっているため、教材用整理棚の整備も検討する。
- 園舎が築20年を超え老朽化が懸念されることから、電気・配管等の修繕計画を作成する。
- 教材費・光熱費の節約に努める。

1 施設運営

(1) 実施事業

- ・ 集団保育と個別学習
- ・ 外来相談（入園待機児） 週 1 回実施
- ・ 卒園生のアフターケア

(2) 児童の処遇

- ア クラス編成（定員35名）
- ・ 週5日通園クラス 3クラス（27名）
 - ・ 週4日通園クラス 1クラス（6名）
 - ・ 週1日通園クラス 7クラス（35名）

イ 健康管理

- ・ 内科検診 年2回（4月、10月）
- ・ 身体測定（身長・体重） 毎月
- ・ 身体測定（頭囲・胸囲） 年2回（4月、10月）
- ・ 歯科検診 年1回（11月）
- ・ 蟯虫卵検査 年1回（5月）

ウ 療育目標

法人の事業理念に基づき、以下のような取り組みを行う。

- ・ 週5日・週4日通園

日々の園生活での積み重ねを大切に、人からの働きかけを受け入れ周りに目を向けながら様々な活動に取り組む。それらの取り組みの中で、興味関心をひろげ、人との関わり方を学び、集団活動を楽しめるよう促す。保護者との話し合いを大切にし、家庭との連携を重視していく。

- ・ 週1日通園

保育園や幼稚園との併行通園児に対して、集団活動の基本的なルールや人との関わり方を学ぶ場を提供する。保護者の相談に乗り、専門的なアドバイスをしながら、また母体となる集団（保育園など）との連携を大切にしていく。

- エ 主な行事予定
- | | | |
|--------|-------|------------------------|
| 4月 | 入園式 | (6,000円) |
| (行事費用) | 5月 | 春合宿 (300,000円) |
| | 6月 | お楽しみ会 (3,000円) |
| | 9月 | 運動会 (40,000円) |
| | 10・2月 | 遠足・アイススケート体験 (30,000円) |
| | 12月 | クリスマス会 (15,000円) |

3月 卒園式、卒園劇、お別れ会 (50,000円)

オ 栄養管理

- ・給食会議を職員会議内で毎月実施し、園児の様子や指導員の意見を献立や配膳に反映させるよう努める。
- ・食品の種類、調理方法を工夫し、変化に富んだ献立を提供する。
- ・給食費は実費負担のため、保護者の負担が大きくなるよう、食材費を抑えながらも充実した献立を提供する。
- ・保護者の希望に応じて試食できるように配慮し、意見を取り入れる。
- ・衛生管理を徹底する。

カ 安全管理

- ・園児が安全に生活できるよう、園内の設備・遊具の点検を定期的に行う。
- ・ヒヤリハット記録や過去の怪我の状況などを職員間で十分確認し再発防止に努める。
- ・来園者はテレビモニターでの確認することを徹底し、不審者の侵入を予防する。
- ・保育時のケガ、体調不良には速やかに対応できるよう、職員間で役割を確認しておく。

キ 苦情解決

法人の定める実施要綱に基づき、適切かつ迅速に対応する。

(3) 職員の処遇

ア 職員構成

園長 (常勤)	1名	※他事業所との兼務
主任指導員 (常勤)	1名	※運転手と兼務
児童指導員・保育士 (常勤)	10名	
調理員 (常勤)	1名	※他事業所との兼務
児童指導員・保育士 (パート)	6名	
調理員 (パート)	5名	※他事業所との兼務
看護師 (パート)	1名	
事務員 (パート)	1名	※他事業所との兼務
※スーパーバイザー及び嘱託医、相談は各1名の業務委託により実施。		

イ 健康管理

- ・健康診断 年1回 (6～10月)
- ・細菌検査 調理員のみ毎月1回

ウ 職員会議

- ・GK全体職員会 (年3回)
- ・ブロック会議 (年3回)
- ・児童部門会議 (月1回)
- ・児童部門職員会議 (年2回)
- ・職員会議 (月1回)
- ・リーダー会議 (月1回)
- ・ケース会議 (月3回)
- ・クラス会議 (週2回)
- ・報告会 (毎日)

エ 研修計画 (研修費用)

- ・園内研修 (200,000円)
- ・法人内研修 (200,000円)
- ・自閉症等発達障害児の療育に関する各種外部研修 (150,000円)
- ・学校や関連施設の見学

2 施設管理

(1) 設備関係

- ・暖房設備の整備を実施 (約5,000,000円)
- ・老朽化による調理室の冷凍冷蔵庫の買い替えを検討 (約300,000円)

(2) 備品関係

- ・老朽化によるプールの買い替えを検討 (約1,900,000円)
- ・老朽化による園児の下足箱の買い替えを検討 (3台、約300,000円)
- ・個別学習教材整理棚の整備を検討 (約200,000円)

(3) 災害対策

ア 災害時に備えた訓練

- ・避難訓練 (月1回)
- ・園児引き渡し訓練の実施 (年1回)
- ・愛の園保育園・かがわ工房との合同総合避難訓練 (年1回)

イ 防災設備の点検委託

- ・年2回 (内、消防署への届け出1回)

ウ 非常食糧の備蓄

- ・(全園児数) × 1食 × (1日) 分

3 地域社会との連携

- ・隣接する愛の園保育園との園庭・ホール利用等による交流
- ・実習生、ボランティアの積極的な受け入れ
- ・グループかがわ後援会主催バザーへの協力
- ・町内会の行事への協力と参加

記入者 石原 久枝

開設4年目に入るが利用者は増え続け、現在は62名が契約をしている。利用への問い合わせも毎月3～5件来るなどニーズも高い。

ガイドヘルパー養成研修実施により登録ヘルパーが増え、利用者への支援も少しずつ増加させることができている。2008年度から兼務で一名男性職員が支援に入れるようになったことで、行動援護等の支援困難なケースへの対応ができるようになった。来年はまた兼務で常勤男性職員が一名増えるので、特に女性ヘルパーでは対応が難しい中高生や成人への支援が今年よりもさらに充実させていけると思われる。

このところの傾向としては、有料の預かり事業での利用が減り、ほとんどが市区町村の給付による利用にシフトしてきている。

会計の状況としては、現在は月に平均70万円前後の利用料収入であるが、これを来年度中に月平均90万円にし、年額1000万円の運営費収入を得ることを目標とする。そのためには今後も契約者を増やし、ヘルパーの人材育成を行い、さらなる事業の拡大をしていく必要がある。

1 施設運営

(1) 実施事業

知的障害児・者居宅介護事業

知的障害児・者移動支援事業（各市町村の地域生活支援事業）

その他有料の預かり事業

※東京都障害者(児)移動支援従業者養成研修（ガイドヘルパー養成研修）

(2) 利用者の処遇

ア 利用者数

総利用者数62名（今後さらに増加予定）

イ 処遇方針

- ・個別援助計画に基づき、本人の意向を尊重した余暇を充実させることを目指す。

ウ 健康管理

- ・スタッフの日々の体調管理とともに、保護者、学校関係者、施設職員などと連絡を密にするようにする。
- ・利用者が利用している医療機関との連携を図り、薬の保持・服用については職員が管理する。
- ・急な発熱、怪我等、職員が病院に付き添う場合の体制を整備し、危機管理マニュアルを用いて職員に周知徹底する。

エ 主な行事予定

- ・週末に実施しているお出かけデー等

オ 栄養管理

- ・支援で昼食をとる際は年齢・体格に応じ、栄養のバランスを考えたメニューを選択する。

カ 安全管理

- ・サービス提供責任者が事業所名義の携帯電話を常に携帯し、事務所に不在のときにでも、転送されてきた電話やメールにて緊急時に必要な対応が出来るようにする。

(3) 職員の処遇

ア 職員構成

センター長	1名
管理者・サービス提供責任者	1名
支援スタッフ	6名

(サービス提供責任者1名、常勤兼務職員2名、パート職員3名)

イ 健康管理

健康診断 年1回 (8月～10月)

ウ 職員会議

- ・ グループかがわ全体職員会 年3回
- ・ ウイングス連絡会 (施設長・サービス提供責任者・事務) 隔月開催
- ・ ケース会・支援前打合せ (随時)

エ 研修計画 (研修費用)

- ・ ブロック内研修 年3回 (3万円)
- ・ 法人内研修 (4万円)
- ・ 外部研修 (6万円)

2 施設管理

(1) 設備関係

- ・ 老朽箇所や故障による修繕 (10万円)

(2) 備品関係

- ・ 必要な生活備品や衛生備品は随時整備する。
- ・ 福祉車両の寄付をしてもらえるよう申請予定

(3) 災害対策

- ・ 避難経路や消火器の設置場所など利用者とも確認し、非常時に対応できるようにする。
- ・ 災害時の対応を日ごろから利用者とも話し合っておく。

3 地域社会との連携

- ・ 近隣の大学等の機関にヘルパー募集のアプローチを行う。
- ・ 市のヘルパー研修に協力することでの啓蒙活動を行なう
- ・ バザーや町内会の行事に参加し、地域の方たちとの交流を深める。
- ・ 地域の移動支援等の事業所 (色えんぴつ・くじら雲・夕焼け子どもクラブ…等) との連携を深め、情報交換を積極的に行っていく。特に色えんぴつ(滝乃川学園)は行動援護研修の実習受け入れをすることにより、相互の連携をさらに深める。

記入者 中村悠子

平成21年度も、計5箇所の寮を運営し、かがわ工房・ワークスタジオかがわ・小金井福祉共同作業所・小金井生活実習所、計4ヶ所の成人部門各日中事業所と連携をとりながら、利用者への日中・生活の両面から総合的に支援することを目指す。

4月に消防法が改正される。自動火災報知設備の設置基準を再確認し、補助金の交付も含め、動向を注意して見守っていききたい。

保護者の方も高齢になってきており、週末や休日を利用される利用者の方も年々増えてきている。1年365日常に開所できる体制を整備していく。また、成年後見制度などの情報を集め、必要があれば保護者の方にも伝える機会を設定する。

グループホーム（ケアホーム）入所を希望される声は以前多い。この声にどう応えていけるのか、中・長期的な視野で計画を立てていききたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

- ・知的障害者ケアホーム（共同生活介護） 定員26名
- ・知的障害者グループホーム事業（共同生活援助） 定員 1名

(2) 利用者の処遇

ア 利用者数

ホーム名	定員	利用者数
シリウス	6名	6名
ミラ	5名	5名
カペラ	5名	5名
ベガ	4名	4名
ジュピター	7名	7名
計	27名	27名

イ 処遇方針

- ・法人の理念に基づき、利用者の人権を尊重し、利用者一人一人が社会の一員として、より豊かに暮らしていけるよう適切な支援を行い、自立を促進することを目標とする。
- ・安定して生活できる事、身の回りのことが一人でできる事を目標に、各利用者の個別支援計画を作成し、ご家族の方からの同意を得る。
- ・各寮に担当責任者を一人配置し、役割と組織の明確化を図る。
- ・余暇時間の充実については、各寮の特性に配慮し利用者による企画や意見を尊重し、さまざまな体験ができるように支援する。また、かがわサポートセンターウイングスとの連携を図り、個別の余暇時間の充実を図る。
- ・利用者、保護者から要望のある一泊旅行を計画する。
- ・ハローワークや就労支援センター等の関係機関と連携をとり、求職活動等には職員も付き添いサポートしていく。
- ・夜間専門支援員の方と合同のケース勉強会を今年度も開催し、支援の統一性を図る。

ウ 健康管理

- ・日々の体調管理（食欲・睡眠等）と共に、日中活動の場である各事業所の健康診断の結果に基づき、家庭とも連携して健康管理に留意する。
- ・服薬がある利用者の薬の保持・服用については職員が管理する。
- ・医療、家庭との連携を図る。薬の調整等が必要であったり、保護者の定期的な通院付き添いが困難な利用者については、職員が通院に付き添い対応を考えていく。

エ 栄養管理

- ・年齢や体格に応じ、栄養のバランスを考えた献立を作成する。

オ 安全管理

- ・夜間等の連絡、支援体制を整備し、緊急時に必要な対応が出来るようにする。

(3) 職員の処遇

ア 職員構成

代表 1 名 サービス管理責任者・主任（専任） 1 名
世話人（兼務） 2 3 名 生活支援員（非常勤） 5 名 夜間専門支援員 6 名

イ 職員会議

GK全体職員会（年3回） 成人部門合同会議（年2回） 運営会（月1回）
成人部会（月1回） 職員会議 ケース会 行事前打合せ会（随時）
夜間専門支援員ケース勉強会（年2回）

ウ 研修計画

- ・法人 新人職員研修 全体職員研修 施設長研修 主任研修
- ・ブロック内 全体職員研修 実践報告・合評会 他事業体験研修
- ・外部研修 各自年1回以上

2 施設管理

(1) 設備関係

- ・KAGAWA館の老朽化が目立ってきており、建物診断を行い必要に応じて大規模修繕または建替えの計画を検討していく。急がれている屋上のフェンス、門扉を早急に修繕・取替え工事を行なう。また、ミラ・カペラの下水道について、定期的に業者清掃を行なう。
- ・ベガの居室に鍵を取り付ける。
- ・必要に応じて老朽箇所や故障による修繕を随時行う。

(2) 備品関係

- ・各グループホームで必要な生活備品を整備する。

(3) 災害対策

- ・避難経路や消火器の設置場所など利用者とも確認し、非常時に対応できるようにする。

3 地域社会との連携

- ・バザーや町内会の行事に参加し、地域の方たちとの交流を深める。
- ・町内会の会合に出席し、地域の方への理解を深める。
- ・近隣の方たちとの友好な関係が作れるよう、通勤時職員が付き添うなど配慮する。
- ・小金井グループホーム連絡会に参加し、市内の関係機関との連携を深めていく。

法人運営開始から3年目を迎える。移譲先が「雲柱社で良かった」と利用者とそのご家族の方からさらに思っただけのように、利用者支援をさらに充実させていきたい。その為に21年度は職員の育成に力を入れて取り組んでいく。具体的には内部研修や支援員の勉強会を充実させ、専門職としてプロ意識の向上を図り利用者支援に反映させていきたい。

利用者支援では、4月に新しい入所者を迎える(生活介護3名、就労継続支援事業2名)。新規入所者がスムーズに新しい場所での生活を始められるようご家族や関係機関と連携を密にとっていきたい。

生活介護事業でも、利用者の方が安定して見通しを持って取り組めることを目標に、生産活動を行なっていく。そこで得た収入については利用者の方々へ工賃として定期的に支給できるようにしていく。

また、地域の会社と協力して進めているバイオディーゼル精製事業については、環境問題への貢献、利用者の工賃増、地域との交流を目標に今年度から生産活動の一環として始めていけるよう準備を進める。

ショートステイ事業は、利用者のニーズに添えていけるよう体制を組んでいく。

1 施設運営

(1) 実施事業

生活介護事業 就労継続支援事業(B型) ショートステイ事業

(2) 利用者の処遇

- ア. 利用者定員… 生活介護事業 32名 (現員32名)
 就労継続支援事業 10名 (現員12名)
 ショートステイ事業 2床

イ. 処遇目標・方針

- ・法人の理念に基づき、利用者の人権を尊重し、利用者一人一人が社会の一員としてともに、より豊かにらしていけるよう適切な援助を行い、その日々の充実および社会的自立の助長を図ることを目標とする。
- ・利用者一人一人の健康状態、生活における能力などを正しく把握し、中長期的な視野で個別支援計画を作成する。
- ・個別支援計画に基づき、短期的な支援計画を明確にして支援内容の充実を図る。
- ・保護者個人面談を2回(9月・3月)行い、支援計画と総括の説明・同意とともに、要望等を聞いていく。
- ・利用者の障碍特性やペースをもとに4つのグループ分けを行い、それぞれのグループの特色を活かした支援を行う。
- ・各グループにリーダー職員を配置し、組織として役割の分担・明確化を行う。
- ・連絡ノートに日々の様子を記入し、保護者の方に所内での様子を知ってもらおう。また、送迎時等で直接保護者の方と話せる機会を大事にし、支援内容についての意見を聞いていくとともに、家庭での様子等を具体的に聞いて支援内容に参考にしていく。
- ・車椅子の扱い方、足が不自由な方の転倒防止、癲癇発作への対応など、事故・怪我等が起きないよう援助マニュアルや個別マニュアルを徹底し、安全管理の徹底を図る。介助方法については、講師の方を招き、講習会を開催する。
- ・非常勤職員も含めた勉強会を開催し、支援の統一性を高める。
- ・苦情が寄せられた場合は、苦情解決システムに沿って対応する。
- ・第三者評価を受診する。

ウ. 健康管理

- ・利用者の健康に留意し、職場、家庭、医療機関との連携を図る。

- ・薬の保持・服用は看護師が管理する。
- ・利用者が通院している医療機関に、付き添いが必要な場合は職員が通院に付き添う。
- ・レントゲン検診、内科検診、耳鼻科検診、整形検診を行う
- ・PT相談を年2回実施し、保護者の方とともに専門家のアドバイスを求める。

エ. 主な行事

- ・一日外出（各グループごと年1～2回） ・一泊旅行（2回に分けて開催）
- ・実習所祭（3月）
- ・クリスマス会等季節に合わせた行事

オ. 給食

- ・障害者自立支援法に基づく給食内容の実施に努める。
- ・一般食だけではなく、特別食（カロリー調整食、減塩食、刻み食、粥食）等、利用者の健康状態や咀嚼能力に応じた給食を提供する。

カ. 安全管理

- ・防災訓練を毎月1回実施する。
- ・消防署署員立会いの総合訓練を年1回実施、職員の防災意識の向上を図る。

（3）職員の処遇

ア. 職員体制

- ・管理者（兼務）1名 ・サービス管理責任者・主任（専任）1名
- ・生活支援員（兼務）13名（非常勤）6名
- ・職業指導員（専任）1名
- ・就労支援員（兼務）1名（常勤パート）2名（非常勤）2名
- ・看護師（非常勤）1名 ・運転士（非常勤）6名
- ・調理師（兼務）1名（非常勤）4名

イ. 会議

- ・法人全体集会（3月）・GK全体職員会（年3回）・成人部門職員会（年2回）
- ・運営会（月1回）・成人部会（月1回）
- ・職員会議（月1回）・グループミーティング（隔週1回）・リーダー会（月1回）
- ・ミーティング（毎朝）・報告会（毎夕）・行事打ち合わせ（随時）

ウ. 研修計画

- ・法人 新人職員研修 全体職員研修 施設長研修 主任研修
- ・ブロック内 全体職員研修 実践報告・合評会 他事業体験研修
- ・外部研修 各自年1回以上

2 施設管理

（1）設備関係

施設内老朽化に伴う修繕を必要に応じて行う。

（2）備品関係

利用者が快適に過ごせるよう、必要な環境の整備を行う。

3 地域社会との連携

- ・送迎車の運転については出入りを含め近隣への配慮・安全を心がける。
- ・パンの販売をとおして、地域の方への理解を深める。
- ・実習生やボランティアを積極的に受け入れ、地域に開かれた事業所を目指す。
- ・地域の方々や近隣の福祉施設、関係団体を招いた実習所祭を開催し、交流を深めるとともに実習所の運営を理解していただく機会とする。

- 新体系への移行については、生活介護事業への方針を固めたが、移行時期は21年度は見合わせ、情報収集をしながら検討していく。移行計画や準備に着手していく。
- 障害者自立支援法の制度の変化に伴う情報収集と事務との連携に努める。
- 授産収入の維持・向上を目指して、パンのほか焼き菓子の製造販売と販路の拡大及び下請け仕事の新規獲得をすすめる。かがわブロック間の事業所との連携をとっていく。
- 一律工賃支給から作業従事実績が反映される工賃体系への仕組みを検討する。
- 作業の他、利用者の年長化や心身の変化や状態に応じた日中プログラムの幅をひろげていく。
- 職員間での利用者支援の質の維持向上を図るため作業マニュアル等を活用し、必要に応じて見直しをする。生活支援マニュアルの整備にとりかかる。
- かがわの家のバックアップ施設として連携を図り、スタッフとの合同会議で情報を共有化し、支援の質を維持していく。
- 施設便りや保護者会で、施設情報や方針を伝達し、家族との連携を図る。

1 施設運営

(1)実施事業

作業内容…付録の袋詰め、封筒制作、ダイレクトメールの封入、土嚢袋制作他各事業所と連携をとりながらすすめてゆく。

自主製品の製造・販売…パン、焼き菓子など

リサイクル事業…アルミ缶回収

ボランティア活動…公園清掃

(2)利用者の処遇

利用者定員…25名(現員24名)

ア、 処遇方針

- ・法人の理念に基づき、障害者の人権を尊重し、地域社会での生活が営めるように支援する。
- ・自閉症と知的障害者の方の「働く場」として、各種作業に取り組み、作業能力の向上を図ると共に、社会生活に必要な能力を養い、自立と社会参加をすすめ、より充実した生活が過ごせる事をめざす。
- ・家庭やケアホームとの連携を図り、生活全般について必要な援助を行なう。
- ・利用者の個別支援計画に基づき、短期的な援助計画を明確にして、支援内容の充実を図る。

イ、 健康管理

- ・利用者の心身の健康に留意し、家庭、ケアホーム、医療機関との連携を図る。
- ・薬の管理は担当職員が行なう。
- ・肥満対策として定期的に体重、体脂肪測定を行い、体重の管理に気を配る。
- ・定期的に軽運動やリラクゼーションタイムをとり、心身の気分転換を促す。
 - 5月 内科検診 嘱託医
 - 2月 健康診断 多摩府中保健所(14万円)

ウ、 主な行事

- ・利用者の要望も聞き、行事の企画に反映していく。
 - 5月 春の日帰り旅行(8万円)
 - 10月 秋の一泊旅行(36万円)
 - 12月 クリスマス会(3万円)
 - 3月 慰労会(8万円)

エ、給食

- ・分量の調整など利用者各自の健康状態や咀嚼に応じた給食を提供する。
- ・季節感を盛り込んだメニューを提供する。

オ、安全管理

- ・防災訓練を毎月実施する。(以下の訓練を含む)

学園との合同訓練 年1回(7月) 三施設合同総合訓練 年1回

引渡し訓練 年1回(8月)

(3)職員の処遇

職員の処遇

施設長	1名
作業指導員	1名
生活支援員(常勤兼務)	3, 7人(常勤換算)(実員5名)
生活支援員(非常勤)	2, 4名(常勤換算)(実員8名)
事務員(非常勤兼務)	0, 3名(常勤換算)(実員1名)
調理員(常勤兼務)	0, 3名(常勤換算)(実員1名)
調理員(非常勤兼務)	0, 8名(常勤換算)(実員5名)

※嘱託医、相談事業は各1名業務委託契約により実施する。

健康管理

健康診断 年1回

会議

法人全体集会 3月

GK全体職員会 年3回

運営会 月1回 成人部会(施設長、主任) 月1回

かがわブロック施設長会(理事長、常務、施設長、事務員) 月1回

職員会議 年12回 ケース会議 年3回

研修計画

<法人> 新人職員研修 経験別研修 階層別研修 施設長研修 (7万円)

<ブロック内> 全体職員研修 実践報告・合評会 他事業体験研修 (3万円)

<施設内研修>>新人職員研修

<外部研修> 各自年1回以上 (6万円)

2 施設管理

(1) 設備関係

- ・授産、給食、空調等、設備関係の故障の可能性を考慮する。

(2) 備品関係

- ・作業用椅子の購入(10万円) 休憩室ソファの購入(30万円)
- ・焼き菓子用ミキサー(10万円)

(3) 災害対策

- ・防災備品の点検・整備を行う。

3 地域社会との連携

- ・利用者通勤時のトラブルに注意する。
- ・駐車場の出入りによる近隣への迷惑に配慮する。
- ・町内会の会合への出席、町会まつり、福祉会館まつり等へ参加し、地域の方たちとの理解を深め、交流をもつ。
- ・実習生・ボランティアを積極的に受け入れていく。

社会福祉法人雲柱社 ワークスタジオかがわ
2009（平成21）年度 事業計画

記入者（施設長）
網野一也

- 来年度、新体系（生活介護）に移行するための諸準備を行う。
- 景気の悪化にともない仕事の受注が減っているので、困難な状況ではあるが新たな仕事の確保を進める。
- 来年度定員増を念頭に、作業室や作業備品の整備を行う。
- 支援マニュアルやパンフレット等の整備を行う。
- ワークスタジオかがわの紹介ビデオを作成する。
- 「ワークスタジオまつり」を実施し、地域の皆さんとの交流を図る。

1 施設運営

（1）実施事業

作業内容

受注作業…付録の袋詰め、チラシの組み合わせ、プラスチック製品のマスクング

自主製品の製造・販売…ポストカード、せんべい

その他…アルミ缶回収、施設内外の清掃

（2）利用者の処遇

利用定員…20人

在籍…24人

処遇方針

- ・作業と生活面から利用者の状況、課題を検討し、個別の支援計画をたて、支援内容の充実を図る。

健康管理

6月 内科検診 嘱託医 11月 健康診断

主な行事

4月24日（金）日帰り旅行 90,000円

5月下旬～ 個別面談

10月1日（木）、2日（金）一泊旅行 600,000円

12月25日（金）クリスマス会 40,000円

3月19日（金）慰労会 60,000円

給食

- ・利用人数が増えていくが、利用者の特性などを考慮して適切な配置を行う。

安全管理

- ・より現実的状況を想定して、防災訓練を実施する。

(3) 職員の処遇

職員の構成

施設長 1 人 作業指導員 2 人 (兼務) 生活支援員 4 人 (兼務)
生活支援員 (常勤パート) 1 人 生活支援員 (パート職員) 9
人 栄養士 1 人 (パート職員) 調理員 4 人 (パート職員)
嘱託医 1 人 相談員 (非常勤) 1 人

健康管理

健康診断 年 1 回

会議

法人全体集会 3 月下旬

GK 全体職員会 7 月 1 8 日 1 2 月 1 2 日 3 月下旬

運営会 月 1 回 成人部運営会 月 1 回

職員会議 年 6 回 ケース会議 年 6 回

研修計画

<法人> 新人職員研修 勤続年数別研修 全体職員研修
施設長研修

<ブロック内> 全体職員研修 実践報告・合評会 交換研修

<施設内> 新人職員研修

<外部研修> 東社協 発達協会 他施設見学 他

2 施設管理

(1) 設備関係

・照明や空調設備、給湯器など老朽化による故障については随時修理を行う。

(2) 備品関係

・利用者が作業しやすいように、また、利用が増えることを考慮して、作業机やイスなどの整備を行う。
・食堂、ラウンジなどの環境整備を行う。

(3) 災害対策

・防災備品、非常用食糧等の整備を行う。

3 地域社会との連携

- ・ワークスタジオまつりを地域の方たちとの交流の機会として、さらに充実させる (10 月 24 日の予定)。
- ・秋川流域自立支援研究連絡会の取り組みに参加する。
- ・あきる野市地域自立支援協議会に参加し、関係機関や各事業所とのつながりを深める。
- ・自主製品の販売を通して、地域の方たちとの関係を広げる。

2009年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童館ブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが世界を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。

児童館名 れいめい宝学童保育クラブ

施設長名 秋山 幸美

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・親同士のピアカウンセリングの場となり、多くの子育て上の悩みを解消する場とする。 ・地域の中に親子の居場所を確保する。 ・専門家の相談を受ける場があり、子育ての支えの場とする。 ・子育て中のお母さんと乳幼児が、家から出て気分転換できるきっかけの場とする。 ・子育て中の親同士が交流の場となり、仲間作りの場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教、日本の伝統的行事を体験し様々な文化に触れる学童クラブにする。 ・異年齢交流を通して、多様な体験や触れ合いを大切にする。 ・放課後の子どもたちにとって第三の居場所となる学童クラブにする。 ・ハンディキャップを持った子ども、そうでない子ども、共に生活できる学童クラブにする。 ・家庭と学童と保育園が協力し合って、子ども達にとってより良い保育環境を提供する。 ・地域の人たちにとって必要とされる、開かれた学童クラブにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流を活性化する場とする。 ・家庭や地域、保育園との連携の中で幅広い子ども達の育ちを支援する場とする。 ・自然体験、ボランティア活動などを体験する場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭とは異なった居場所や学童児との交流を通して、地域参加やボランティア活動の大切さを学べる場とする。
活動の内容・行事等	<p><出前保育事業> 時間：11時～12時 年10回 *活動内容 ・こいのぼり製作・新聞紙遊び・七夕製作 ・クッキング・運動会・ふれあい遊びなど</p> <p><ひろば事業> 時間：10時～12時 年数回 *活動内容 ・ふれあい遊び・誕生会など</p> <p><保育園行事> ・運動会、おまつり広場への参加</p>	<p><定員>30名 (育成時間) 通常下校時間～18時 学校休校日8時30分～18時 延長保育18時～19時 *活動内容 ・自由活動、宿題、グループ活動などの日常活動を基盤に、以下などの年間行事にも取り組む。</p> <p><年間行事> 1学期 ・入所式・ウェルカムパーティー・イースター ・子どもの日・母の日製作・父の日製作 ・花の日・お泊り合宿 夏休み ・キャンプ・夕涼み会 2学期 ・敬老の日製作・遠足・ハロウィンパーティー ・収穫感謝祭・クリスマス会 3学期 ・お別れ合宿・卒所式</p> <p><保育園行事> ・黎明保育園運動会、おまつり広場への参加</p> <p><その他> ・防犯訓練、手作りおやつ、昼食会、誕生会など</p>	<p><卒所児ボランティア活動> ・学童クラブ卒所児を対象に、日々の保育でのボランティア体験の場や以下の活動に取り組む。</p> <p>*活動内容 ・ウェルカムパーティー ・キャンプ ・おまつり広場 ・もちつき ・お泊り合宿 など</p> <p>*日常の活動 ・遊びの手伝いを通して、指導や交流を行う。</p>	<p><中学生ボランティア活動> ・中学生を対象に、日々の保育や行事などでのボランティア活動に取り組む。</p> <p>*活動内容 ・遊びの手伝いを通して、指導や交流を行う。 ・行事などの手伝い。 ・保育園行事、地域行事への参加。</p>

< 2 > 職員構成

・館長 秋山 幸美

・主任 野口 啓子

・児童厚生員

根岸 優子

石田 一幸

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修

< 4 > その他

2009年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童館ブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが世界を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。

児童館名 れいめい堀切学童保育クラブ

施設長名 秋山 幸美

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・親同士のピアカウンセリングの場となり、多くの子育て上の悩みを解消する場とする。 ・地域の中に親子の居場所を確保する。 ・専門家の相談を受ける場があり、子育ての支えの場とする。 ・子育て中のお母さんと乳幼児が、家から出て気分転換できるきっかけの場とする。 ・子育て中の親同士が交流の場となり、仲間作りの場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教、日本の伝統的行事を体験し様々な文化に触れる学童クラブにする。 ・異年齢交流を通して、多様な体験や触れ合いを大切にする。 ・放課後の子どもたちにとって第三の居場所となる学童クラブにする。 ・ハンディキャップを持った子ども、そうでない子ども、共に生活できる学童クラブにする。 ・家庭と学童と保育園が協力し合って、子ども達にとってより良い保育環境を提供する。 ・地域の人たちにとって必要とされる、開かれた学童クラブにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流を活性化する場とする。 ・家庭や地域、保育園との連携の中で幅広い子どもたちの育ちを支援する場とする。 ・自然体験、ボランティア活動などを体験する場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭とは異なった居場所や学童児との交流を通して、地域参加やボランティア活動の大切さを学べる場とする。
活動の内容・行事等	<p><出前保育事業> 時間：11時～12時 年10回 *活動内容 ・こいのぼり製作・新聞紙遊び・七夕製作 ・クッキング・運動会・ふれあい遊びなど</p> <p><ひろば事業> 時間：10時～12時 年数回 *活動内容 ・ふれあい遊び・誕生会など</p> <p><保育園行事> ・運動会、おまつり広場への参加</p>	<p><定員>50名 (育成時間) 通常下校時間～18時 延長保育18時～19時 学校休校日8時30分～18時 *活動内容 ・自由活動、宿題、グループ活動などの日常活動を基盤に、以下などの年間行事にも取り組む。</p> <p><年間行事> 1学期 ・入所式・ウェルカムパーティー・イースター ・子どもの日・母の日製作・父の日製作 ・花の日・お泊り合宿 夏休み ・キャンプ・夕涼み会 2学期 ・敬老の日製作・遠足・ハロウィンパーティー ・収穫感謝祭・クリスマス会 3学期 ・お別れ遠足・卒所式</p> <p><保育園行事> ・黎明保育園運動会、おまつり広場への参加</p> <p><その他> ・防犯訓練、手作りおやつ、昼食会、誕生会など</p>	<p><卒所児ボランティア活動> ・学童クラブ卒所児を対象に、日々の保育でのボランティア体験の場や以下の活動に取り組む。</p> <p>*活動内容 ・ウェルカムパーティー ・キャンプ ・おまつり広場 ・もちつき ・お泊り合宿 など</p> <p>*日常の活動 ・遊びの手伝いを通して、指導や交流を行う。</p>	<p><中学生ボランティア活動> ・中学生を対象に、日々の保育や行事などでのボランティア活動に取り組む。</p> <p>*活動内容 ・遊びの手伝いを通して、指導や交流を行う。 ・行事などの手伝い。 ・保育園行事、地域行事への参加。</p>

< 2 > 職員構成

・館長 秋山 幸美

・主任 野口 啓子

・児童厚生員

 尾木 裕明

 中村 暦

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修

< 4 > その他

中村 悠子

- 昨年度は新人職員を迎え常勤4人体制としたが、今後小金井市からの補助金の削除を考慮し、常勤3人体制へと変更。しかし、利用者数の確保・賀川学園との連携を考えると常勤3人体制は厳しい。収支を見直して検討する。
- 常勤1名が減ることにより、昨年度同様の利用者数の維持を目指し、非常勤職員を雇用する。毎年、非常勤職員の雇用は難しい。そのために、グループ活動・体験学習などを通してボランティアを集め、利用者や業務内容について知ってもらうことは大切であると考えている。それによって次年度の非常勤職員の確保にも繋がっていくために、ボランティアを積極的に集めるように努める。
- さくらの木が提供している個別学習について共通理解を促し、日常の職務における職員の育成を強化するために、ケース会議を増やし、さらに昨年度と同様に学習会を定期的に行う。また、専門性を高めるための研修や他施設・学校の見学を実施する。
- 利用者のニーズに合わせ、長期休暇を利用し、体験学習を実施する。
- 経費節減を目指し、光熱費、消耗品費、教材費の節約に努める。
- 建物の老朽化が認められるため、必要に応じた修繕工事が必要である。

1 施設運営

(1)実施事業

- ア 個別指導 (幼児・小学生対象)
- イ ペア指導 (中学生対象)
- ウ グループ指導 (幼児・小学生・中学生・高校生対象)
- エ 余暇支援 (小学生対象)
- オ 体験学習 (小学生・中学生・高校生対象)
- カ 講演会 (利用者の家族の他、外部も対象)
- キ さくらの木相談室 (利用者の保護者の他、外部も対象)
- ク オリジナル教材の頒布(利用者の家族の他、外部も対象)

(2)利用者の処遇

ア 利用者数年齢構成(予定)

	利用者数
幼 児	2
小学生	60
中学生	15
高校生	10
合 計	87

イ 月別開所日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計
21	23	26	25	13	22	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	245日
26	20	18	19	19	13	

ウ 健康管理

指導にあたっては利用者の健康状態に留意する。軽い怪我には対応できるような薬を常備する。

エ 指導目標

法人の理念に基づき、自閉的傾向や発達に遅れのある子どもとその家族が、社会の中でより豊かに暮らしていけるよう適切な援助をし、自立を促すことを目的とする。具体的には、日常生活における基本的動作及びコミュニケーション手段の獲得、集団生活の適応を目標にひとりひとりの子どもの発達に応じた指導を行う。

(3)職員の処遇

ア 職員構成

施設長	1名
指導員	常勤職員 3名

イ 健康管理

健康診断 年1回(7月～10月)

ウ 職員会議

- ・法人全体集会(年1回)
- ・グループかがわ運営会議(月1回)
- ・児童部門会議(月1回)
- ・グループかがわ全体職員会(年3回)
- ・さくらの木職員会議(月2回)
- ・ケース会議(月6～8回)
- ・学習会(月1回)
- ・その他指導打ち合わせ(随時)

エ 研修計画(研修費用)

- ・施設内研修(2万円)
- ・法人内研修(2万円)
- ・発達障害に関する各種外部研修(6万円)
- ・発達障害に関する書籍購入(5万円)
- ・学校、関連施設見学

※個別グループ指導と相談事業は、業務委託契約13名により実施。

2 施設管理

(1)設備関係

- ・建物の老朽の点検、修繕(随時)

(2)災害対策

- ・職員に対し、非常災害時の対応を周知徹底する。
- ・隣接する「かがわの家」との連携のあり方を確認する。
- ・年2回、避難訓練を実施する。

3 地域社会との連携

- ・賀川学園卒園生の他、小金井市及び近隣市区町村在住者の利用も受け付ける。
- ・ボランティアや見学者を受け入れ、発達障害への理解を広める。
- ・グループかがわ後援会主催のバザーや町内会の行事へ参加し、地域住人との交流を図る。

